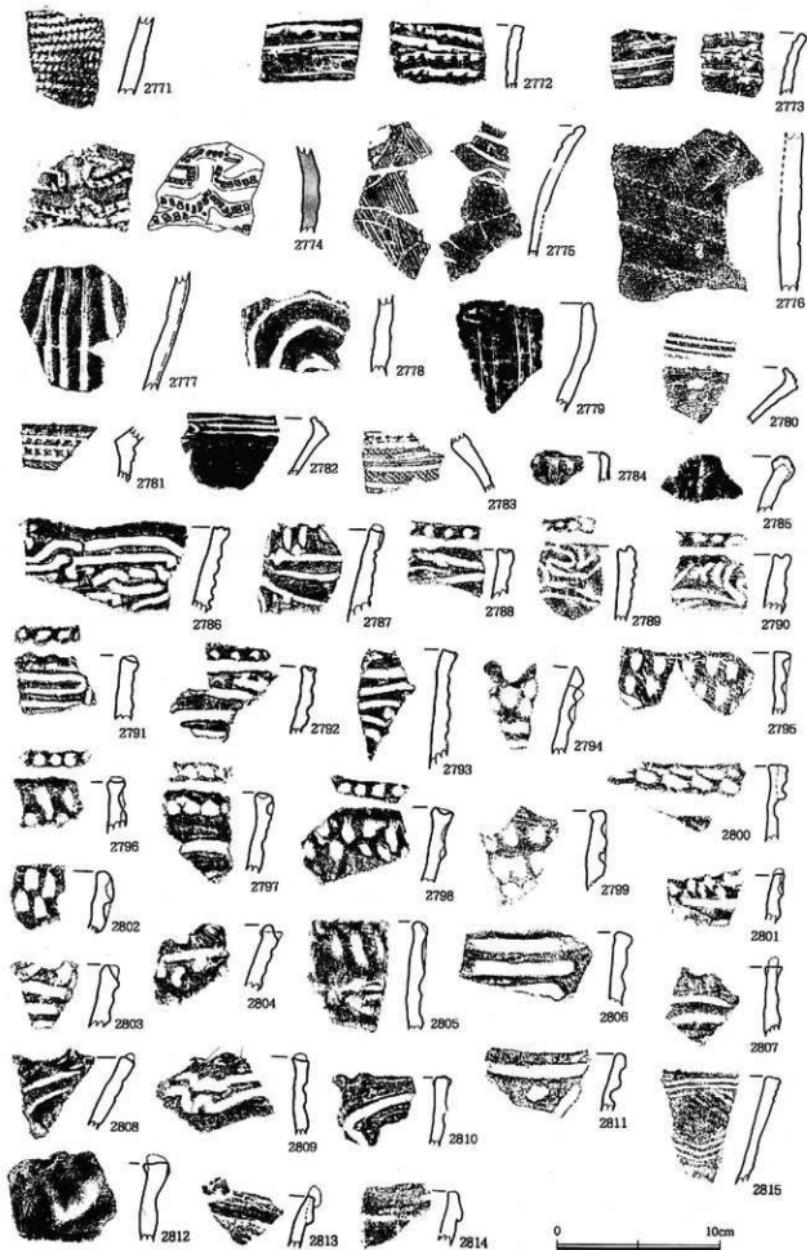


第136図 XV～XVII区周辺 IV層出土繩文土器実測図(2)



第137圖 I・II・XVII・XIX・XXV・XXVI區出土繩文土器大湊圖

**打製石錐（第138図、図版83）**

黒曜石とチャート製が主で、若干の安山岩・頁岩系・玉髓がある。

**石匙（第138図、図版83）**

チャートと安山岩製で、縦長と横長タイプがある。

**石鍤（第139図、図版83）**

黒曜石とチャート・玉髓製で、刃部は短い。

**石斧（第140・141図、図版83・84）**

ほとんどが磨製で、中型～小型であり、様々なタイプがある。蛇紋岩製は17点出土し、約4割を占める。破損後、敲き石に転用するものも多い。

**石錐（第141・142図、図版89）**

打欠石錐5点と切り目石錐52点が出土している。円盤状綠色片岩を素材とし、短軸に切り目を入れるタイプが多い。

**スクレイバー（第142・143・144図、図版85）**

不定形であるが、二次加工を施した直刃を持つ。中には、円形も含まれる。

**刃器（第144・145図、図版85）**

不定形の横長剥片を素材とし、鋭いエッジに若干の二次加工を施す。

**使用痕・二次加工のある剥片（第146・147図、図版86）**

不定形の横長剥片を素材とし、鋭いエッジを利用している。

**礫器（第148・149図、図版86）**

石核石器もしくは大型剥片に鋭い刃を付すもの。

**石核（図版86）**

疊以外には、黒曜石とチャートがある。

**すり石（第150～154図、図版89・90）**

大小98個出土し、断面が橢円形から家型、扁平橢円形へと磨滅していく過程が読みとれる。

**石皿（第156・157図、図版91）**

19点出土し、接合した1例以外は全て破片である。

**台石（第158図、図版91）**

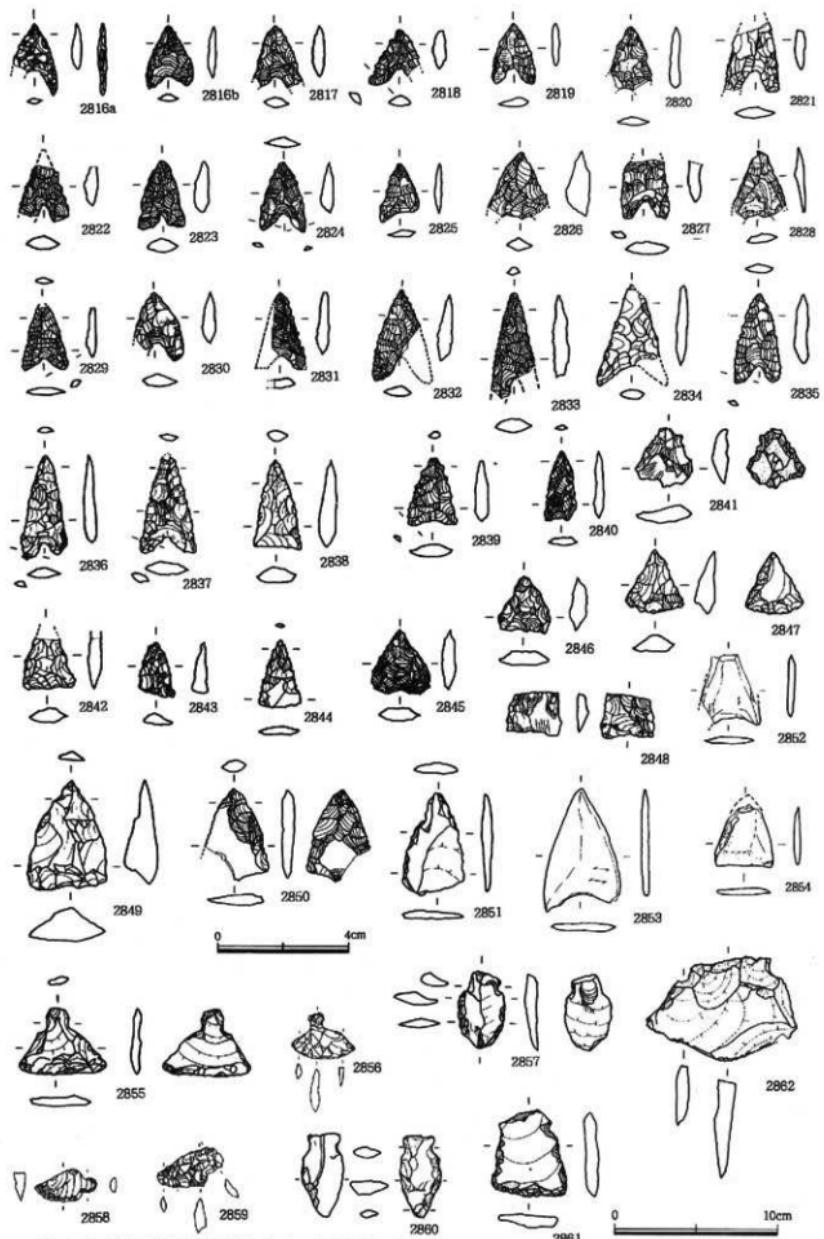
加久藤溶結凝灰岩が主で、平らな自然面を作業面として使用している。6点出土。

**砥石（第158図-3193、図版92）**

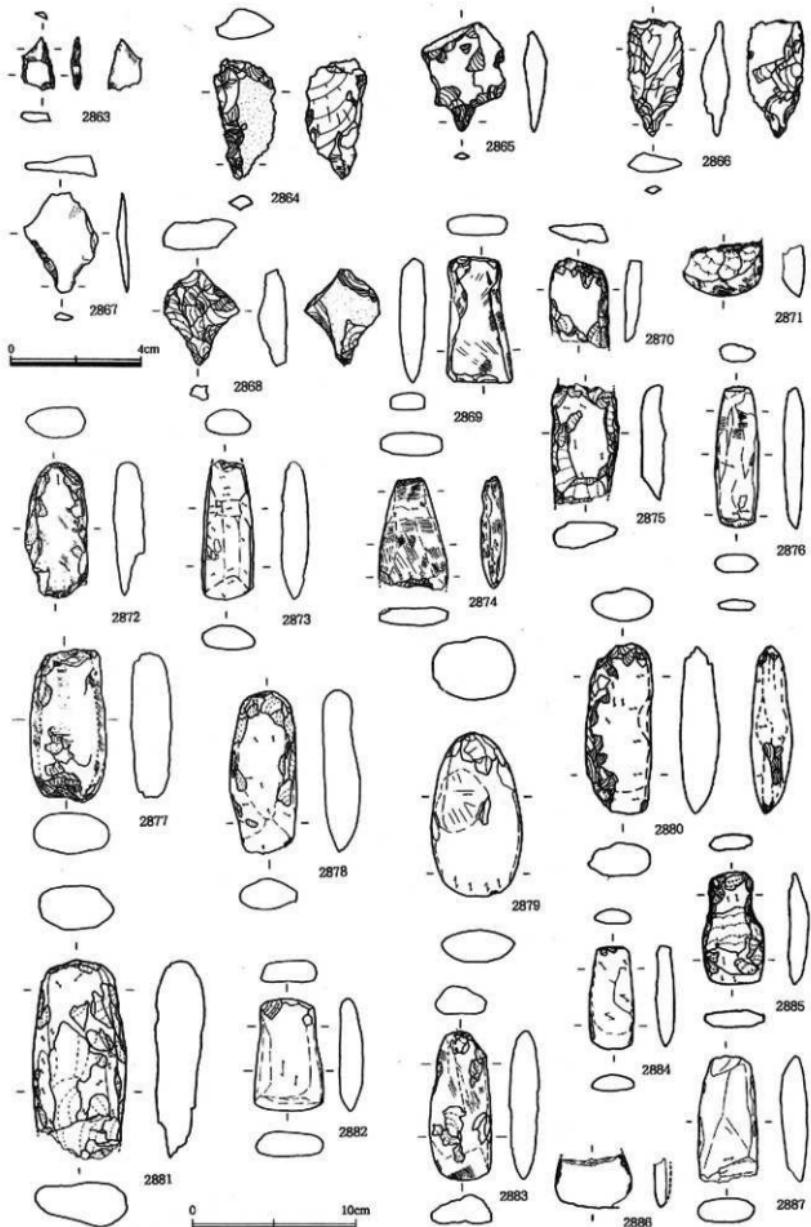
11.3×10.4cmの台形を呈し、厚さは6mmである。表面は光沢をもつほど滑らかで若干凹んでいる。

**敲き石（第149・150図、図版92）**

石英塊のほか、すり石転用材などがある。すり石の側面にも、敲き痕を有するものが多い。



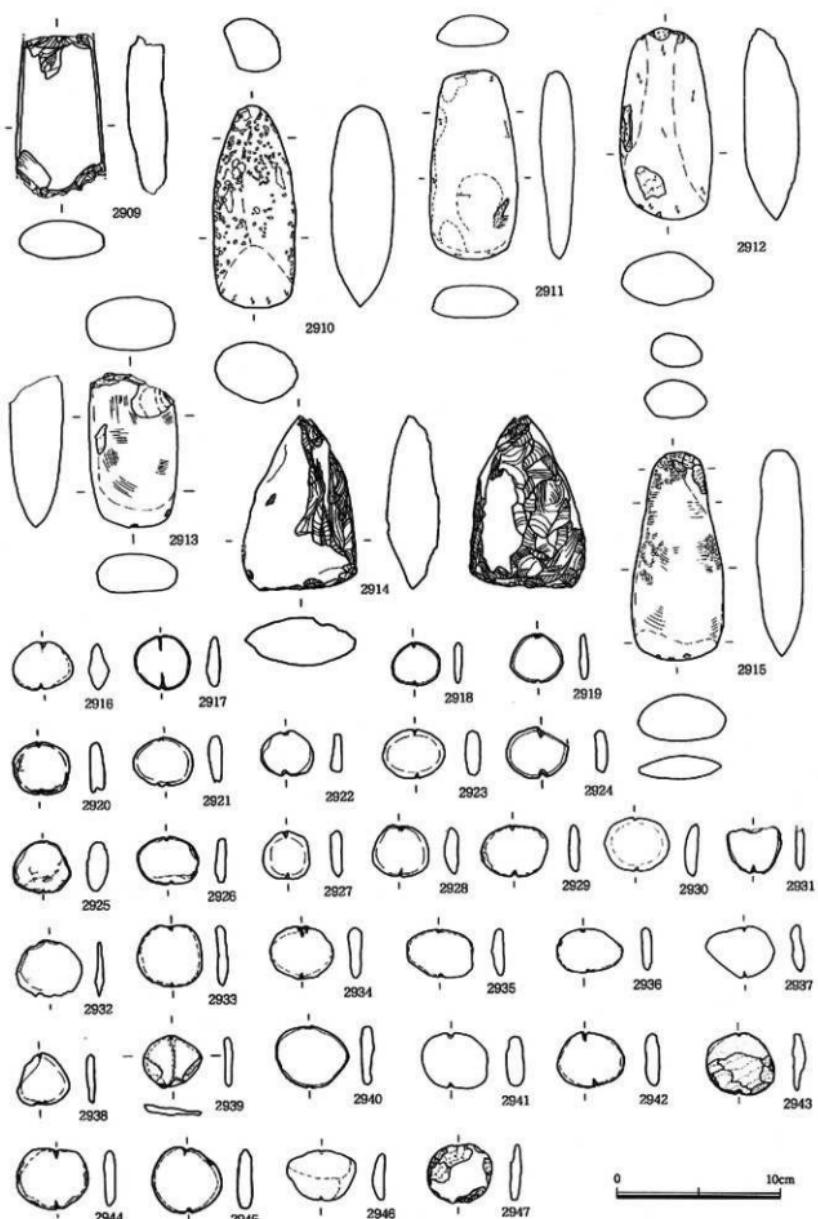
第138図 調査区出土石器実測図(1) 打製石鏃・磨製石鏃・石匙



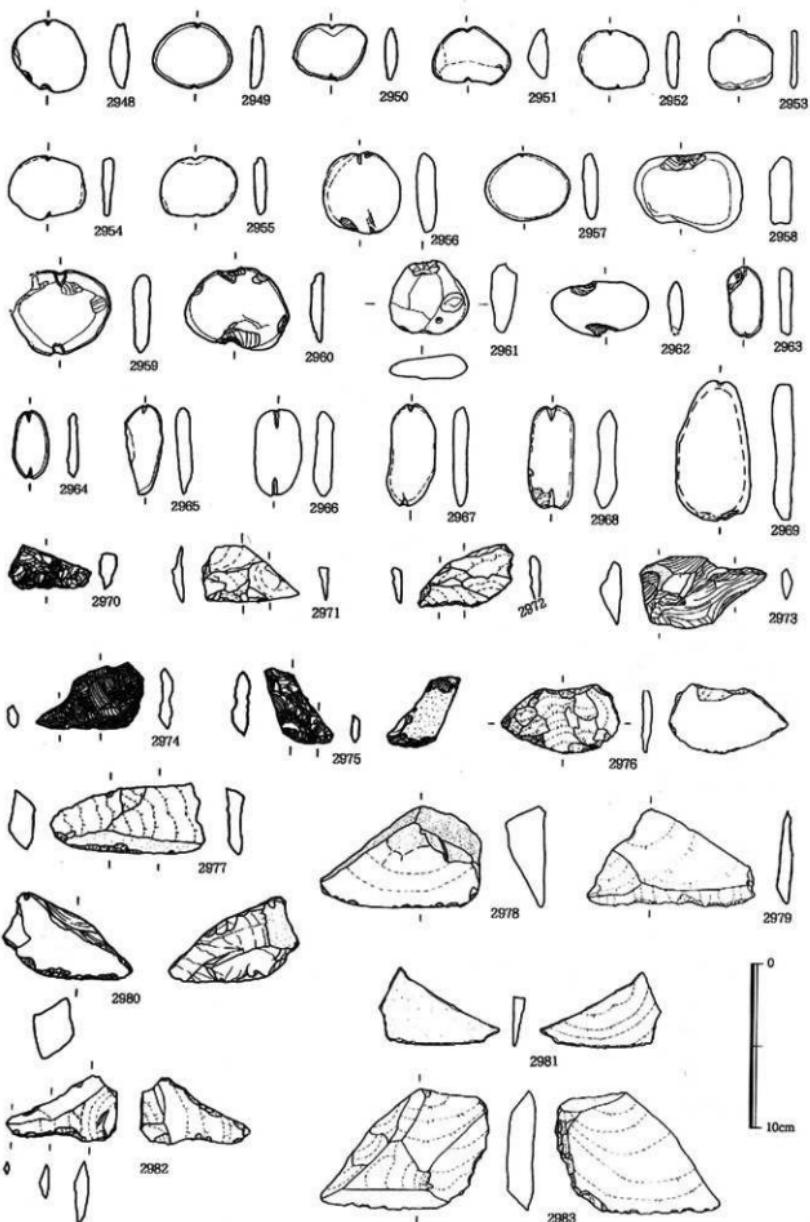
第139图 调查区出土石器实测图(2) 石锤·蛇纹岩制石斧



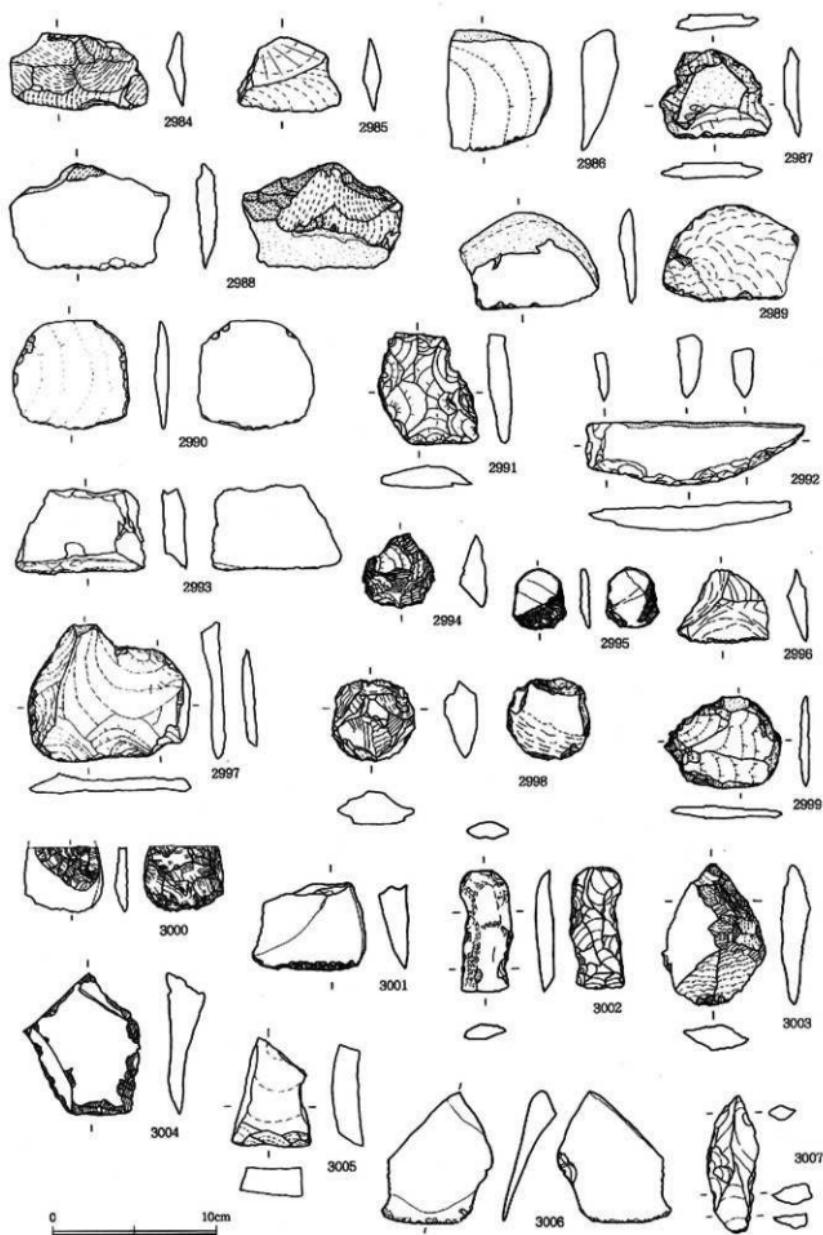
第140図 調査区出土石器実測図(3) 石斧(その1)



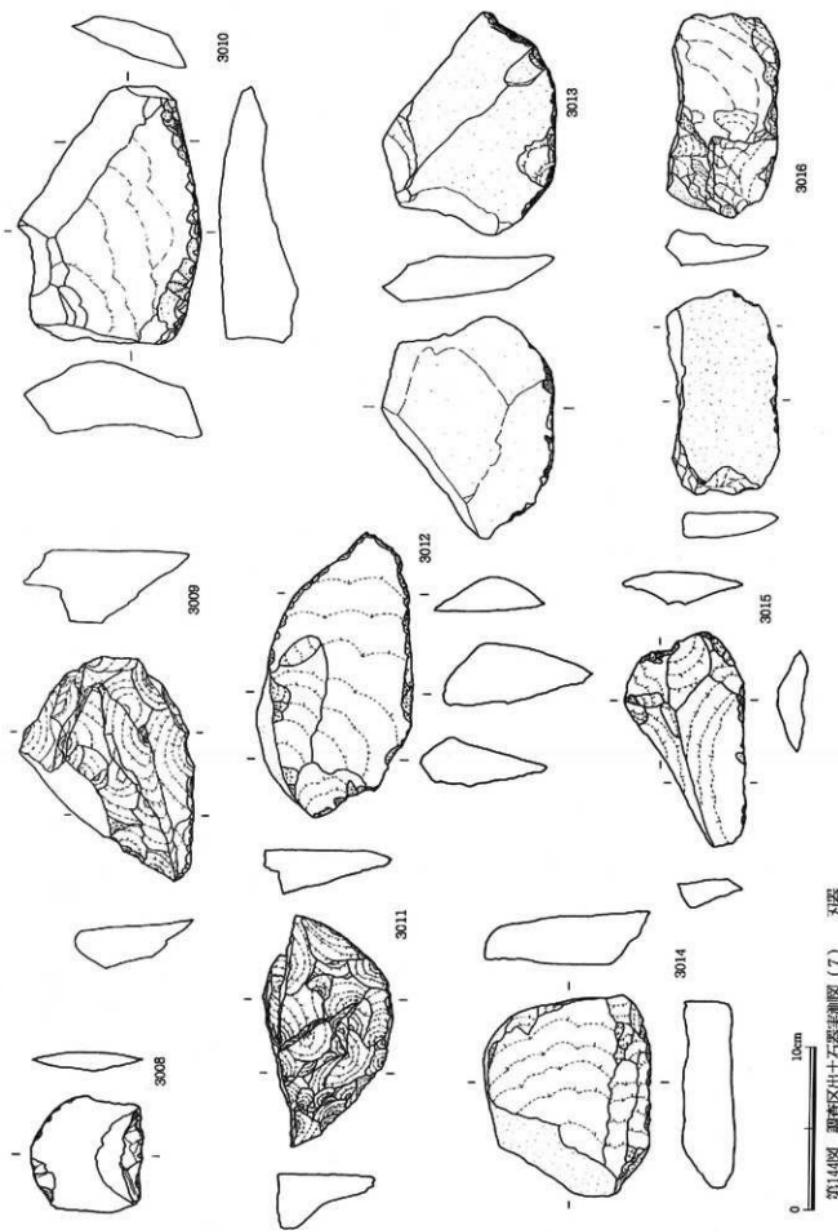
第141図 調査区出土石器実測図(4) 石斧(その2)・石錐(その1)



第142図 調査区出土石器実測図（5） 石鍶（その2）・スクレイパー（その1）



第143図 調査区出土石器実測図（6） スクレイパー（その2）

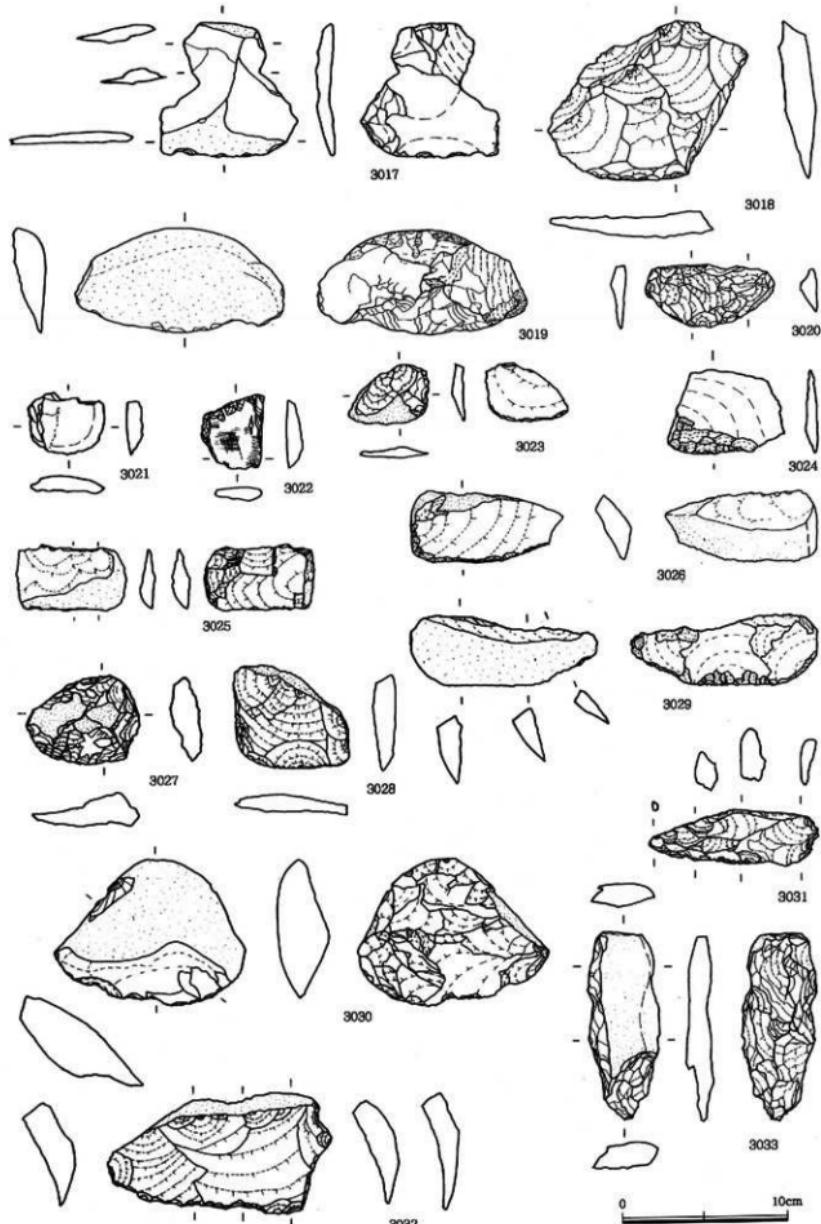


万器

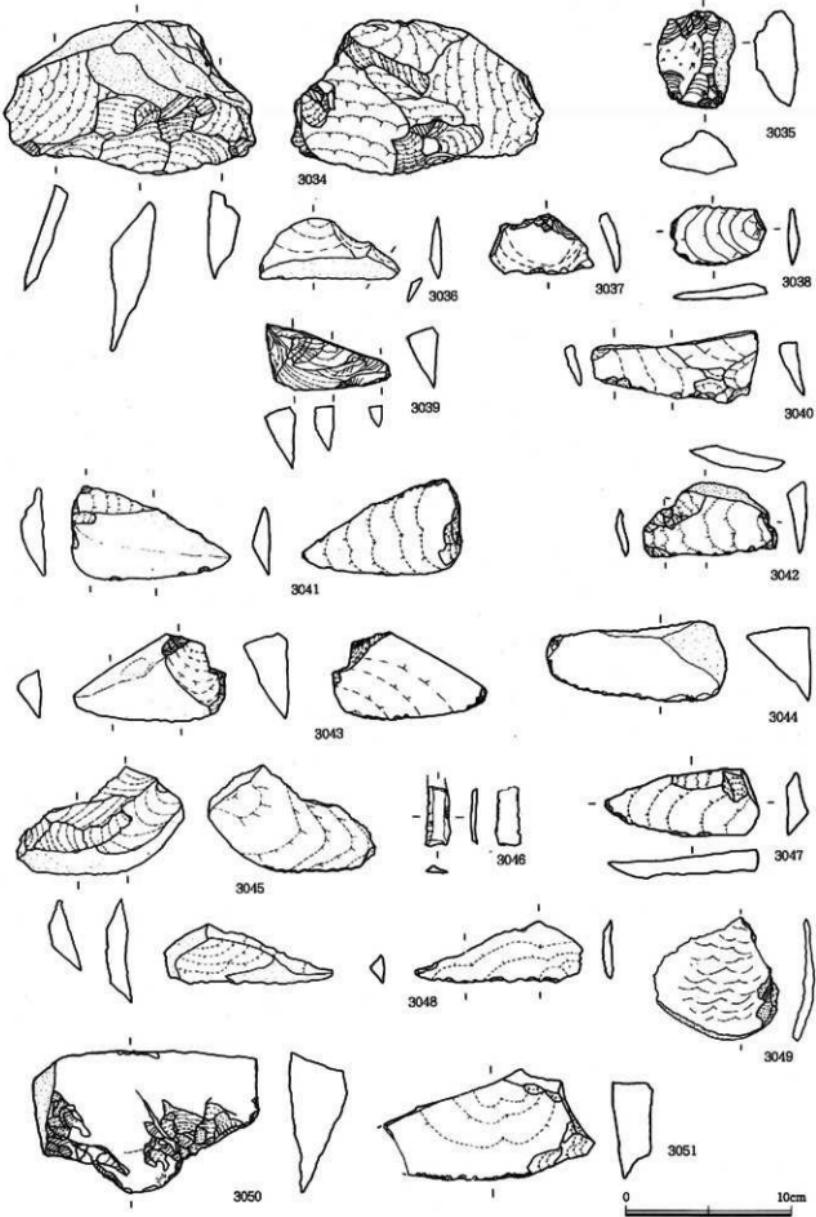
(7)

西桥区出土石器素描图

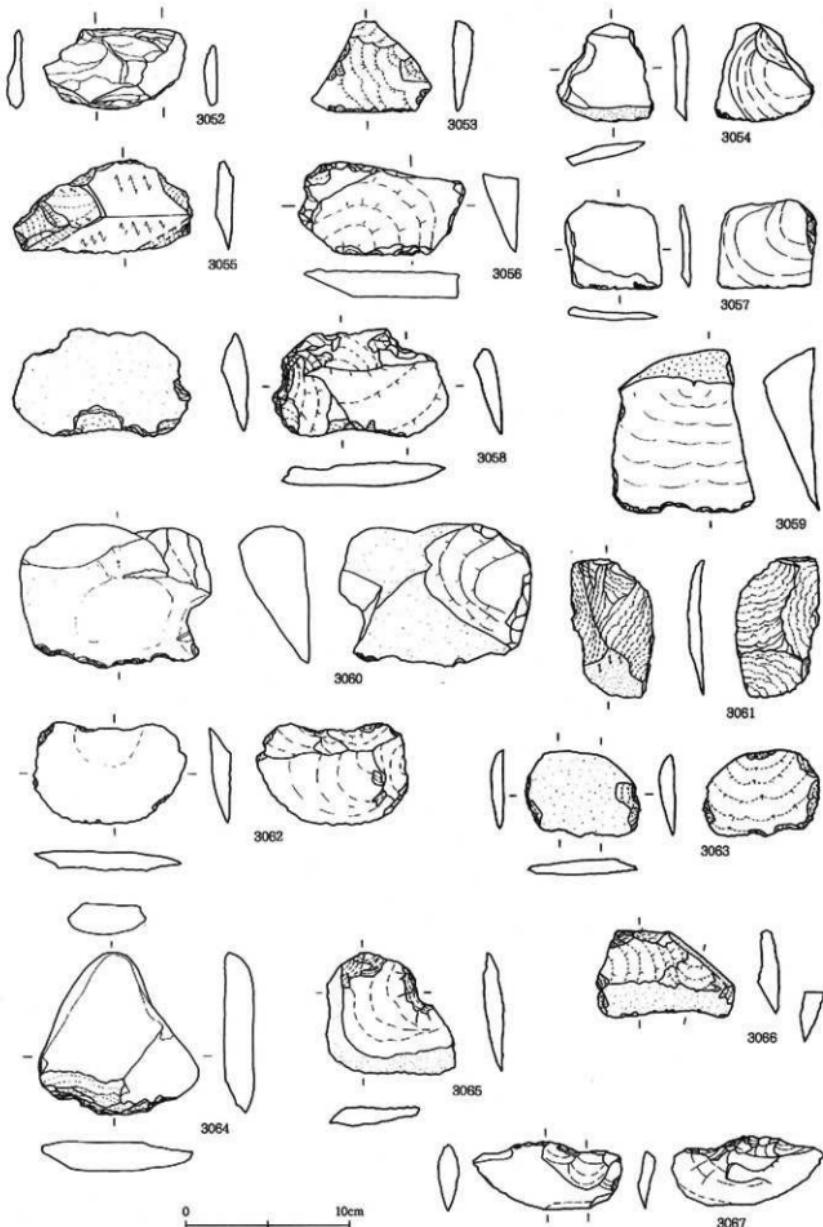
第14图



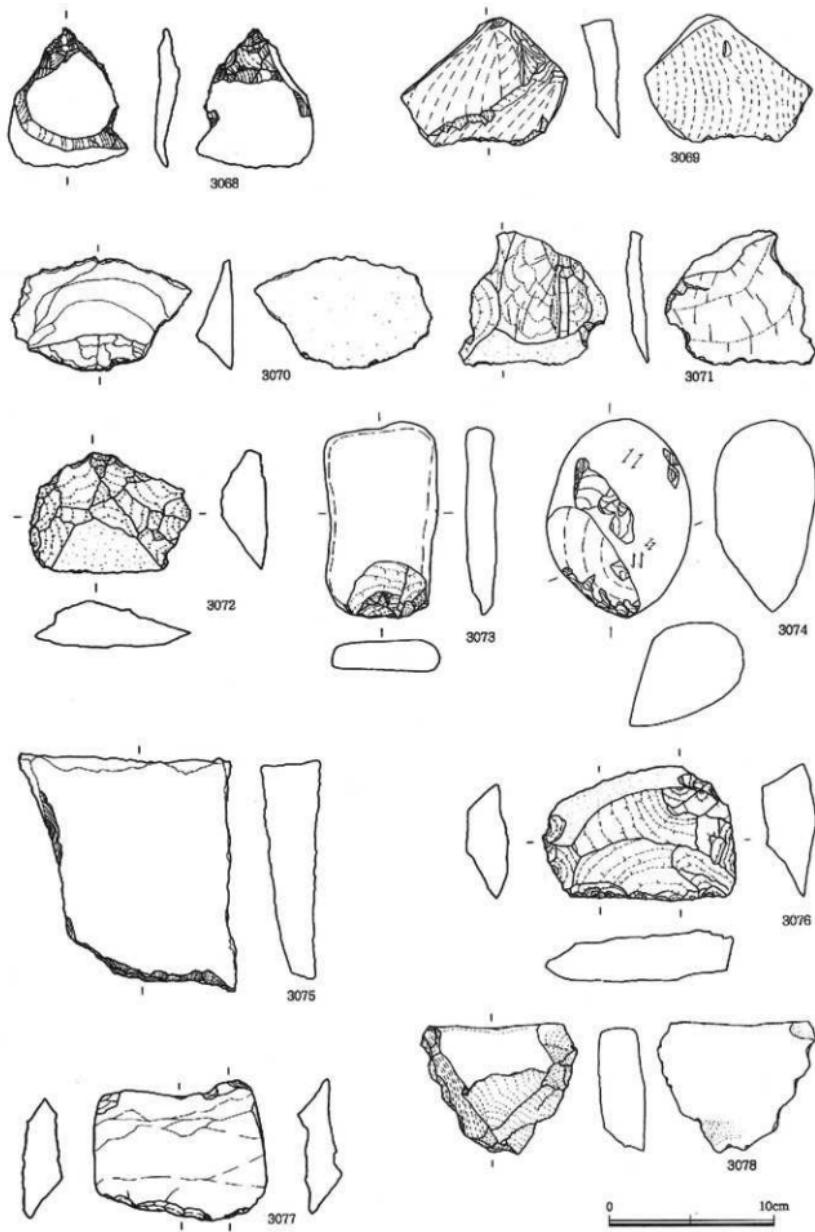
第145図 調査区出土石器実測図（8） 刃器・スクレイバー



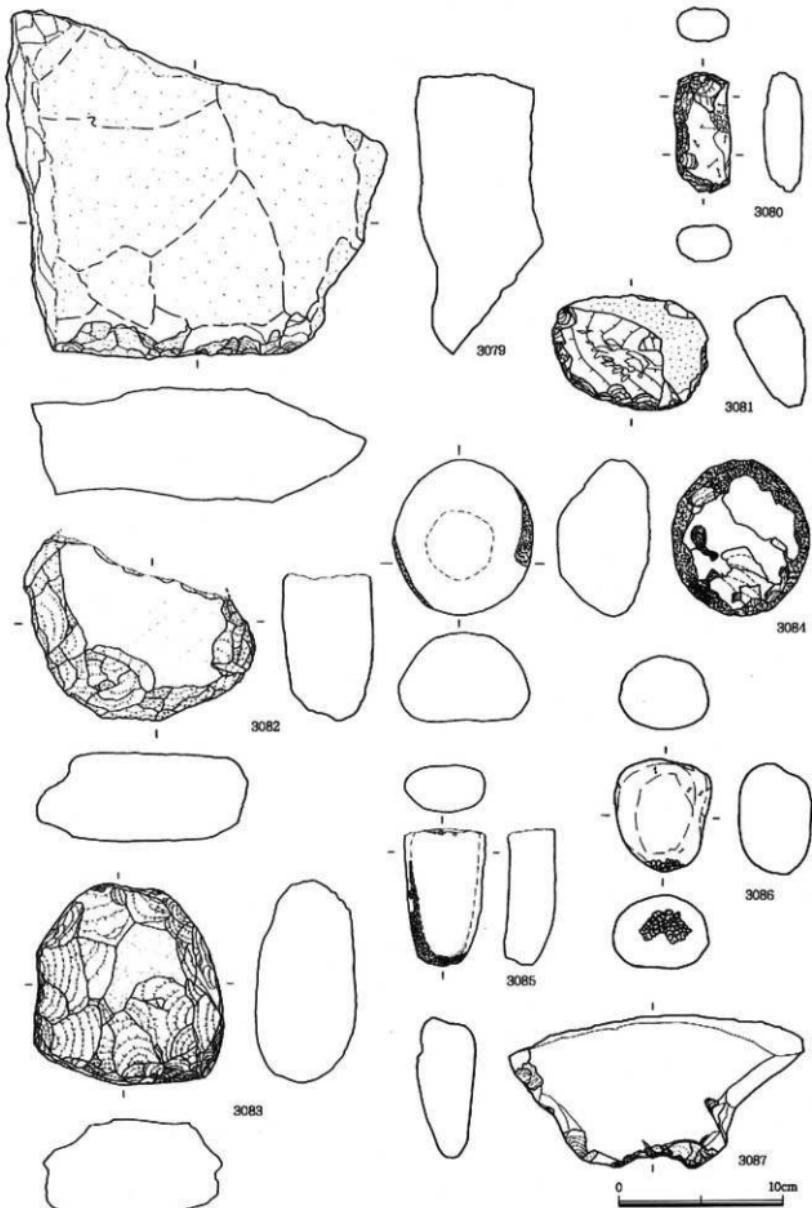
第146図 調査区出土石器実測図(9) 2次加工・使用痕のある剥片(その1)



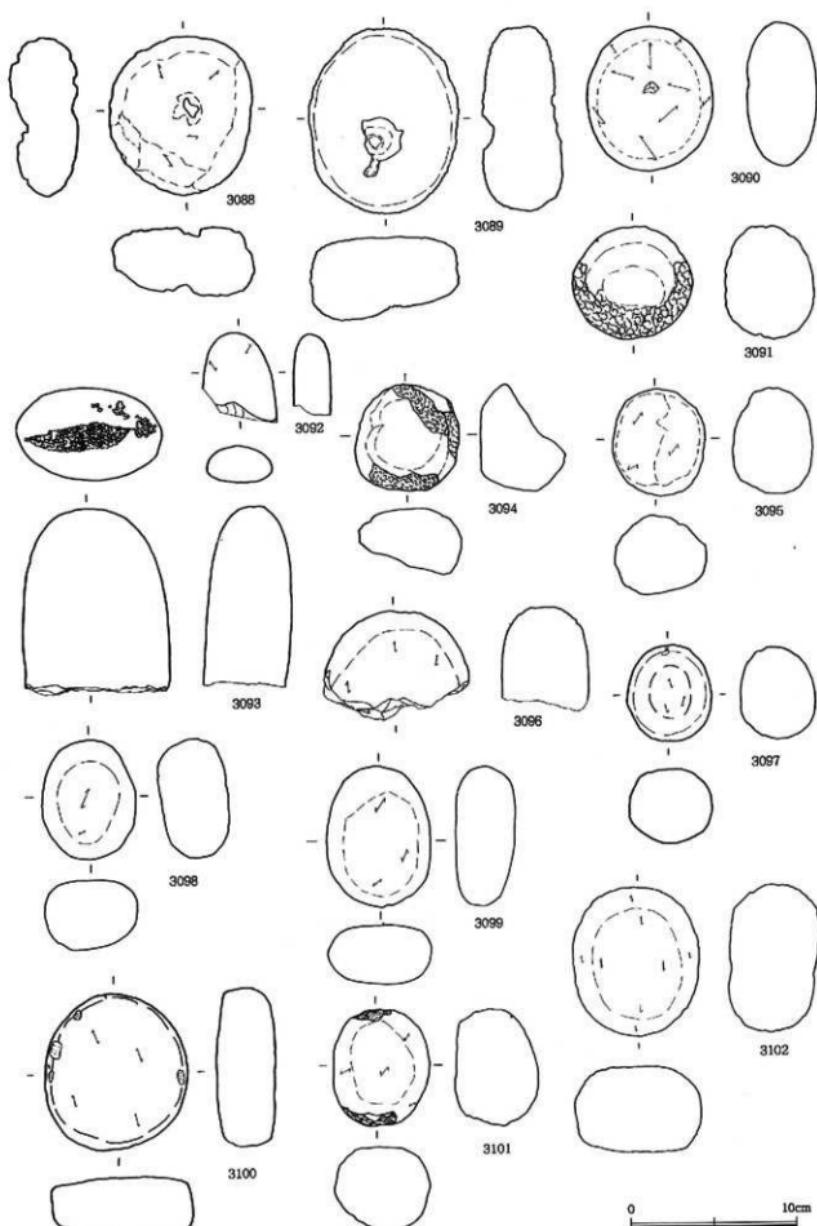
第147図 調査区出土石器実測図(10) 2次加工・使用痕のある剥片(その2)



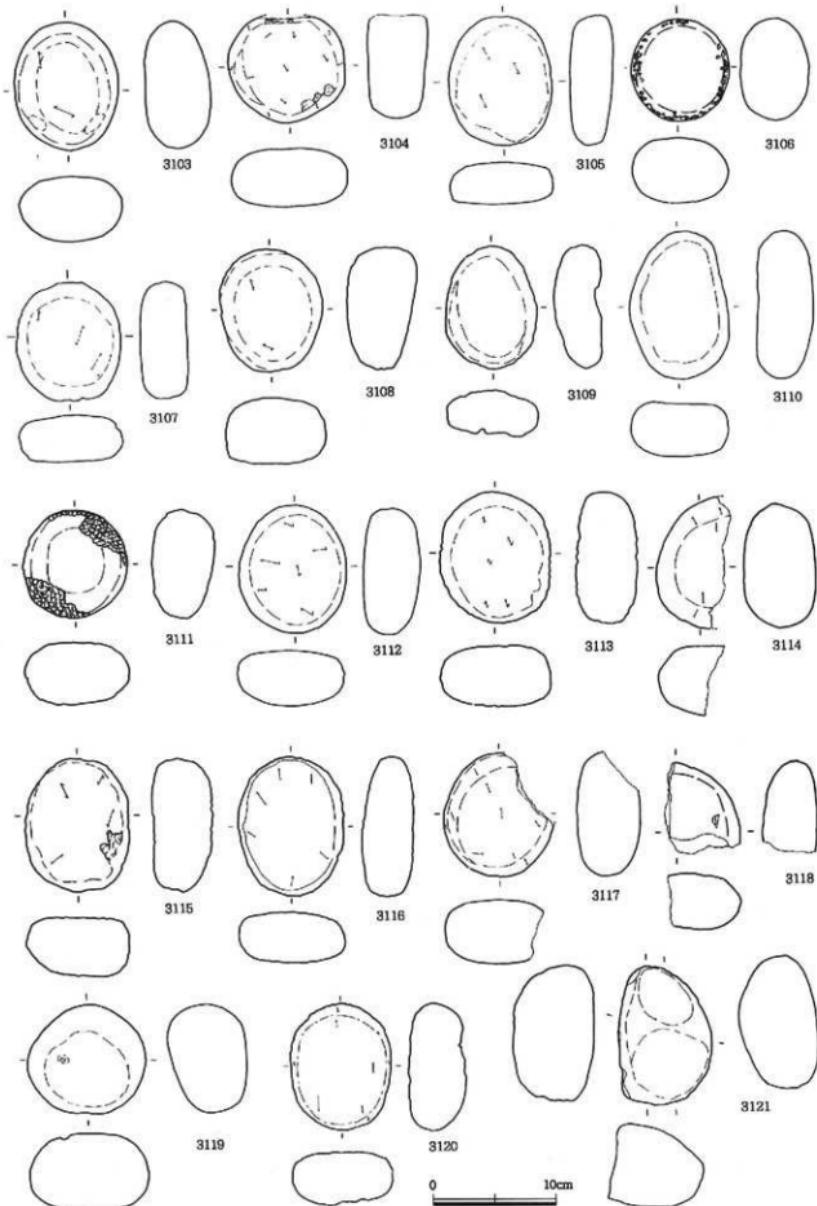
第148図 調査区出土石器実測図(11) 大型剥片石器・礫器(その1)



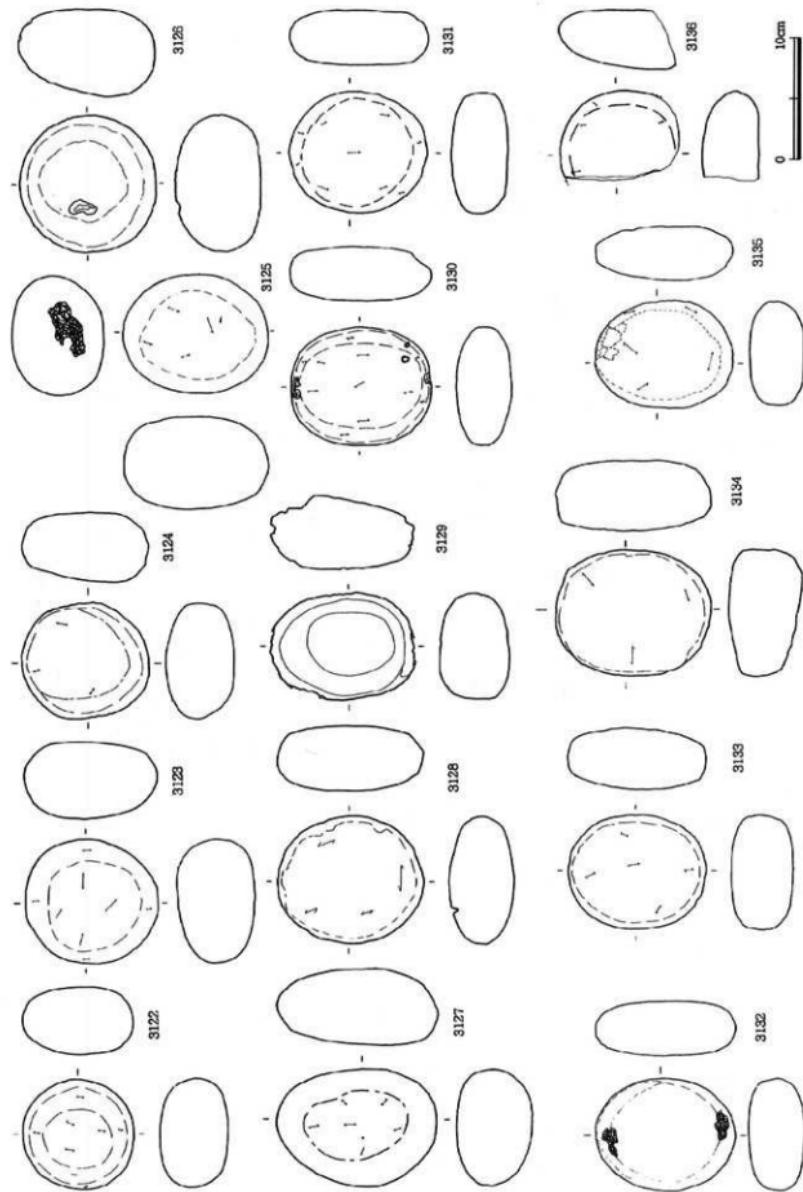
第149図 調査区出土石器実測図(12) 碓器(その2)・敲き石(その1)・抉り入り石器



第150図 調査区出土石器実測図(13) 凹み石・敲き石(その2)・すり石(その1)

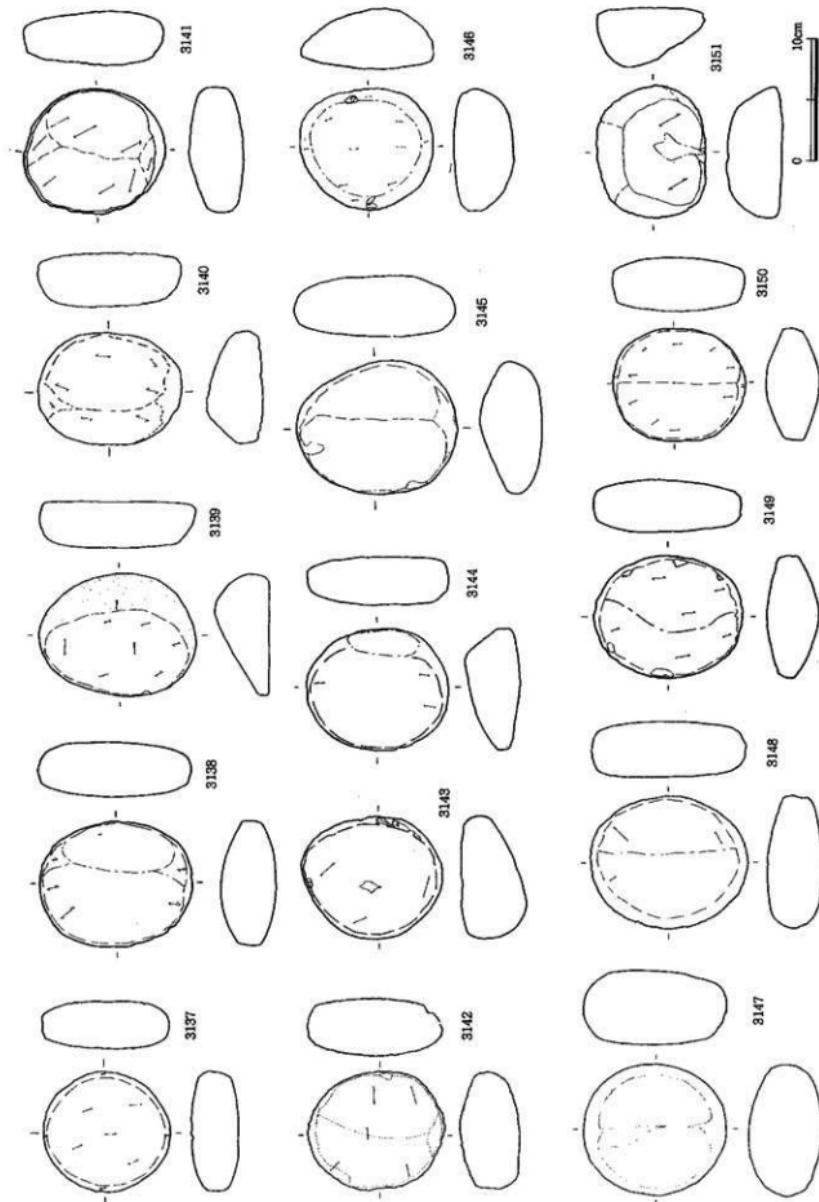


第151図 調査区出土石器実測図(14) すり石(その2)

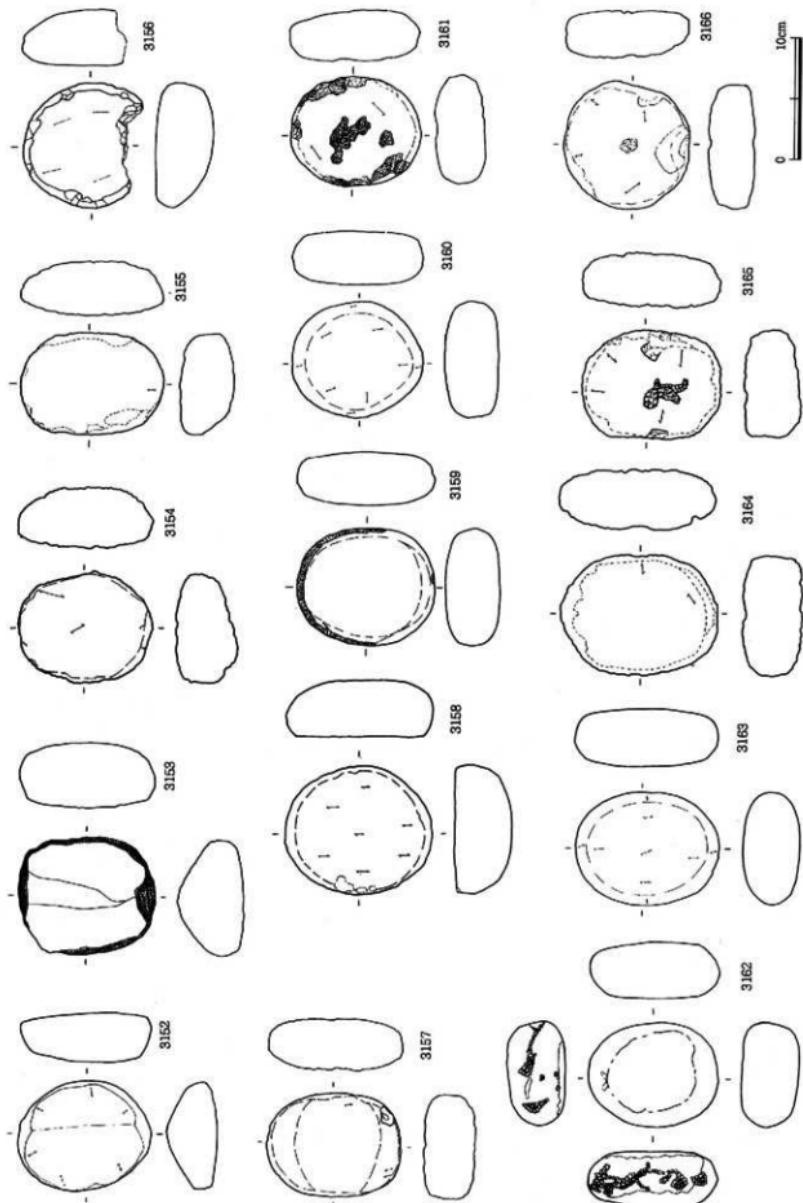


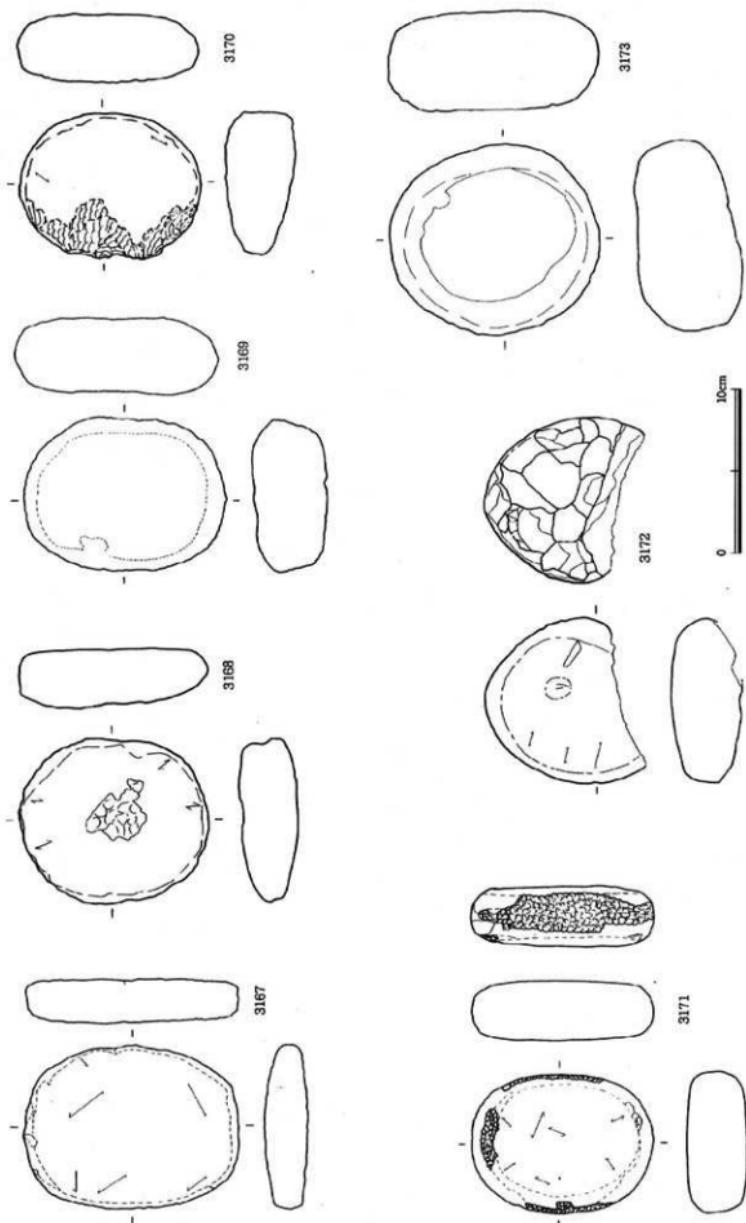
第152図 調査区出土石器実測図 (15) すり石 (その3)

第153図 調査区出土石器大観図 (16) オリ石 (その4)

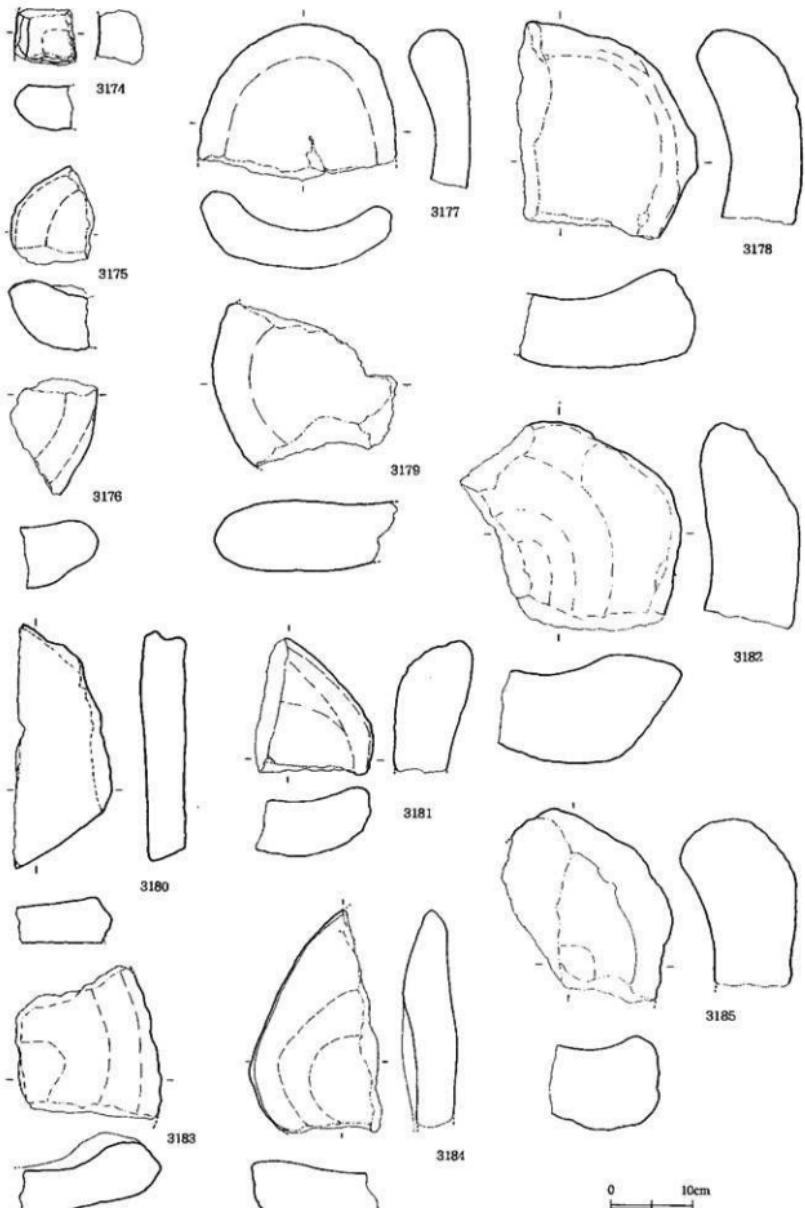


第154図 調査区出土石器実測図 (17) すり石 (その5)



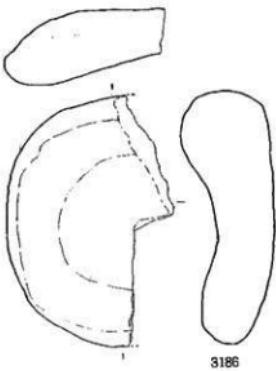


第155図 藤森区出土石器実測図 (18) すり石 (その6)

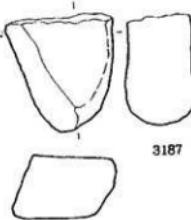


0 10cm

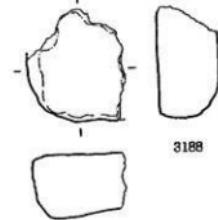
第156図 調査区出土石器実測図(19) 石皿(その1)



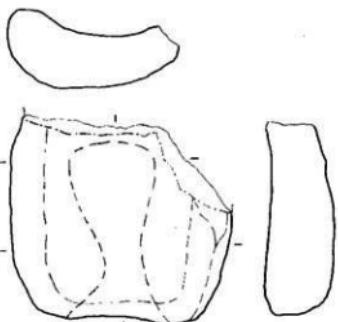
3186



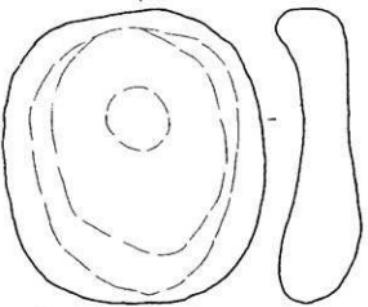
3187



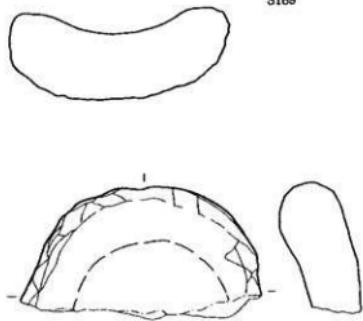
3188



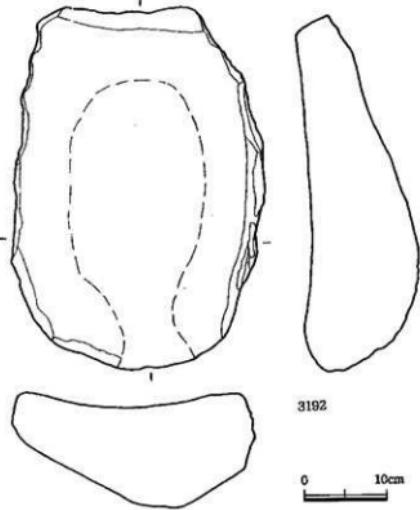
3189



3190



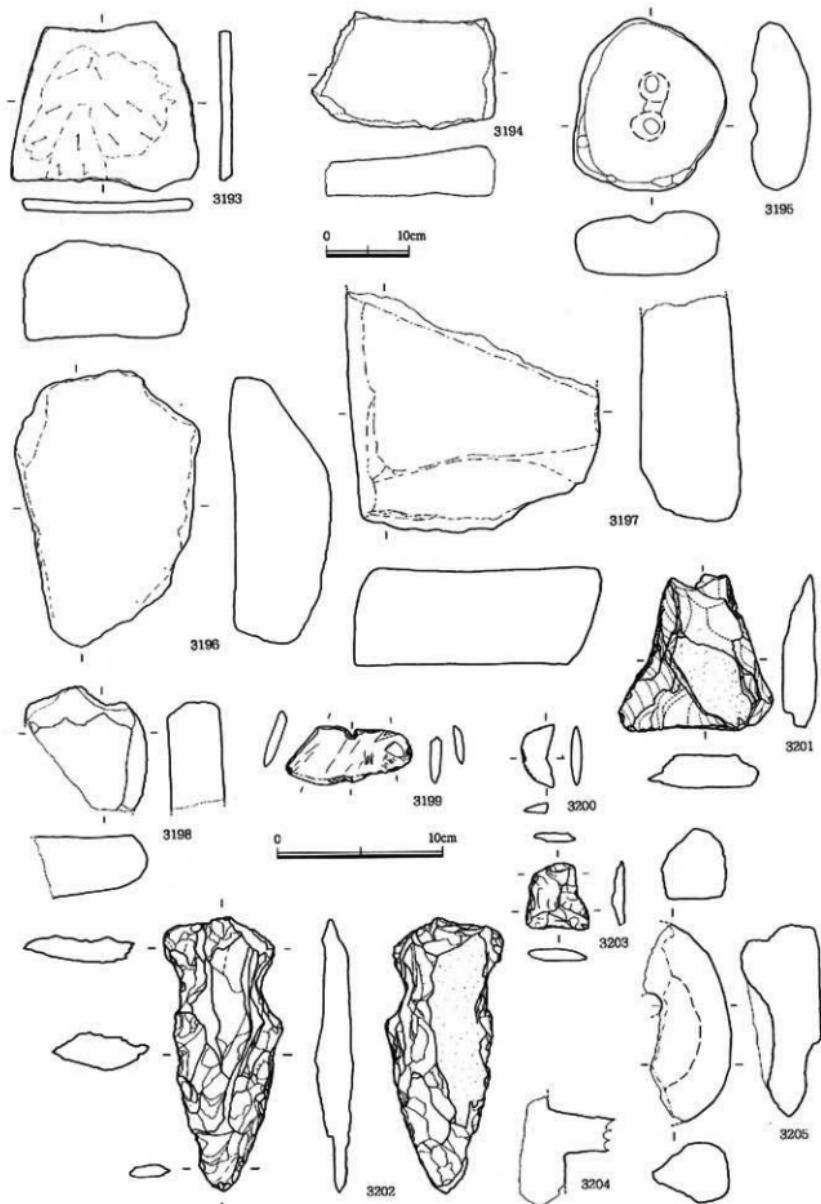
3191



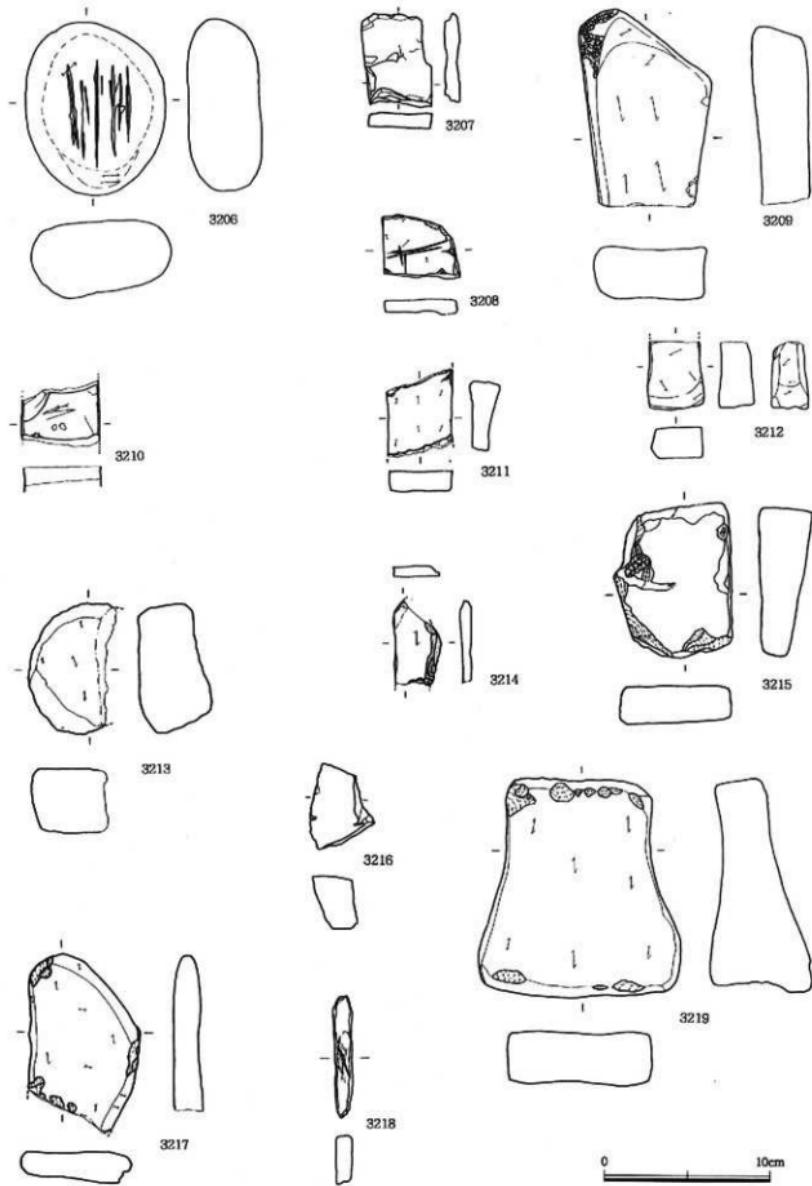
3192

0 10cm

第157図 調査区出土石器実測図(20) 石皿(その2)



第158図 調査区出土石器実測図(21) 磁石・台石・石包丁・石鍬・石鍋・石臼 3203は1:3,  
3206・3207・3215は1:6



第159图 调查区出土石器实测图 (22) 破石

## 9.まとめ

縄文時代中期末、阿高式土器を有する集団が居住を開始し、後期まで竪穴住居で定住生活を営んでいる。晩期～古墳時代前期は、明瞭な造構が検出されない。この間、南縁の段丘崖が浸食されてIV層が約1m堆積する。

古墳時代後期、谷水（SX-01）を利用して集落が営まれる。生業形態は不明であるが、市内でも屈指の須恵器出土量である。

平安時代になると、掘立柱建物に移行すると思われ、竪穴住居は無い。ただ、床面に縦横に小溝を有する工房址と推定される建物2軒が検出された。飲料・生業用水路として5号溝が掘削されたと考えられるが、12世紀末頃には埋没する。直径1m前後の円形土坑も点在し、5号溝の掘削などを考慮すると、相当数の人口が予想される。

鎌倉時代、4号溝を新たに掘削・幹線用排水路とし、3号溝ほか11号・13号・16号・17号といった南北の小溝、8号溝ほか9号・12号・14号といった東西の小溝によって何らかの区画整備が行なわれている。ただし、掘立柱建物や円形土坑は多数構築されている。

室町時代、2号溝を新たに掘削・幹線用排水路とし、15号溝のほか、20～23号溝といった小溝が掘削されている。15世紀末には2号溝も埋没し、19号溝が掘削される。

近世中頃、19号溝が埋没すると再掘削され、19世紀に埋没する。23号溝の南側には18～19世紀の柱穴などがある。

19号溝が埋没すると明治5～6年頃、台地南縁・現在の用水路が掘削される。

これら5・4・2・19号溝は、すべて東南部の台地南縁に集結している。つまり、小池から導水するには一筋の傾斜変換線を通しか無いのである。加えて、小池と田代地区の間には谷があるため、築堤の原形は中世～古代にまで遡る可能性がある。

古代～近世における台地の利用形態は、幹線水路の前面（北側）が耕作地で、後面が居住地となっていた。近代以降、家屋は全て台地南縁～傾斜地へ移っている。

整理作業期間が限られたため、遺物の詳細な検討ができなかったが、主要遺物についてはできる限り図化した。今後の基礎資料としたい。

## IV. 松山遺跡の調査

### 1. はじめに

工事によって削平される地区、約3,590m<sup>2</sup>を対象とする調査で、平成6年11月28日から平成7年1月8日を充てた。遺跡は台地の北東端に立地し、畠地であった北半部は遺物包含層が良好に遺存し、南西部は水田基盤土の天地返しによる搅乱が著しい。結局、全体の7割程度、厚さ10~50cmの遺物包含層の掘り下げを行ない、遺構検出を開始した。遺構面は1枚で、円形の竪穴住居4軒と花弁状住居3軒、花弁状住居と推定されるもの1軒、原形不明住居1軒、地下式横穴墓1基のほか、土坑10基余り、柱穴・搅乱2,350基、溝状遺構1条を検出した。

### 2. 基本的層序

層序は上から、I層：耕作土、II層：床土、旧耕作土、III層：黒～黒灰色土、IV層：アカホヤ火山灰に分別した。上田代遺跡でみられた淡黄褐色系のIV層は、当地区までには達していないため、IV層はアカホヤ火山灰になる。遺構覆土のほとんどはIII層である。

### 3. 繩文時代

調査区の北西部に遺構・遺物が集中する。

#### 2号住居（第161~163図、図版112・113）

直径4.4m前後の円形を呈し、深さは25cmである。柱穴は、直径18~32cm・深さ12~55cmのものが環状に配列する。中央pitは、長軸108cm・短軸57cm・深さ76cmである。

出土遺物としては、縄文土器のほか石鐵2点、切り目石錐・すり石・十字型石器(5.5×6.1cm)が各1点ある。

#### 3号住居（第164図、図版113）

直径3.8mの略円形を呈し、深さは19cmであるが、上部20cm前後を削失した。柱穴は、直径20~34cm・深さ17~35cmのものが散在、中央pitは長軸45cm、短軸23cm・深さ49cmである。出土遺物は少ないが、南縁において台付鉢2点が出土した。

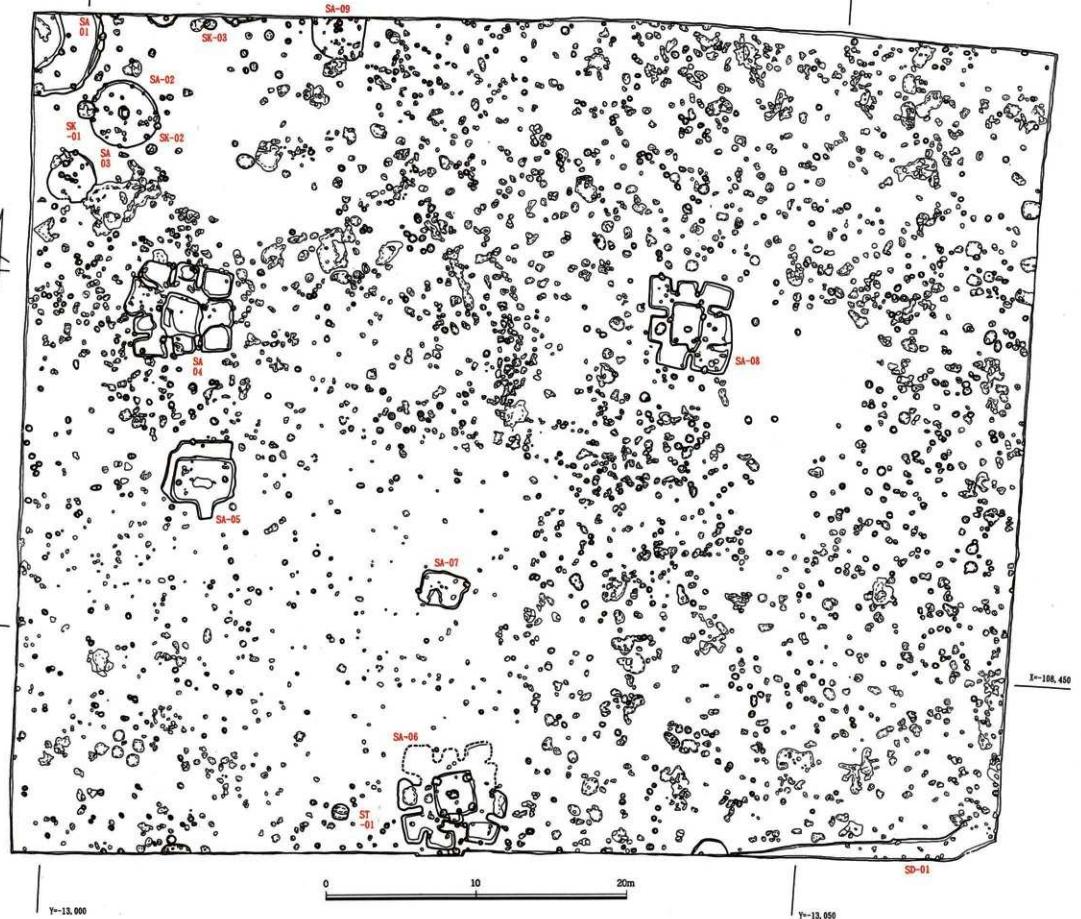
#### 9号住居（第165図、図版113）

直径3.9mの略円形を呈すると思われ、深さは6~10cmである。柱穴は、直径13~34cm・深さ16~43cmのものが中央寄りにある。出土遺物は、少量の土器片がある。

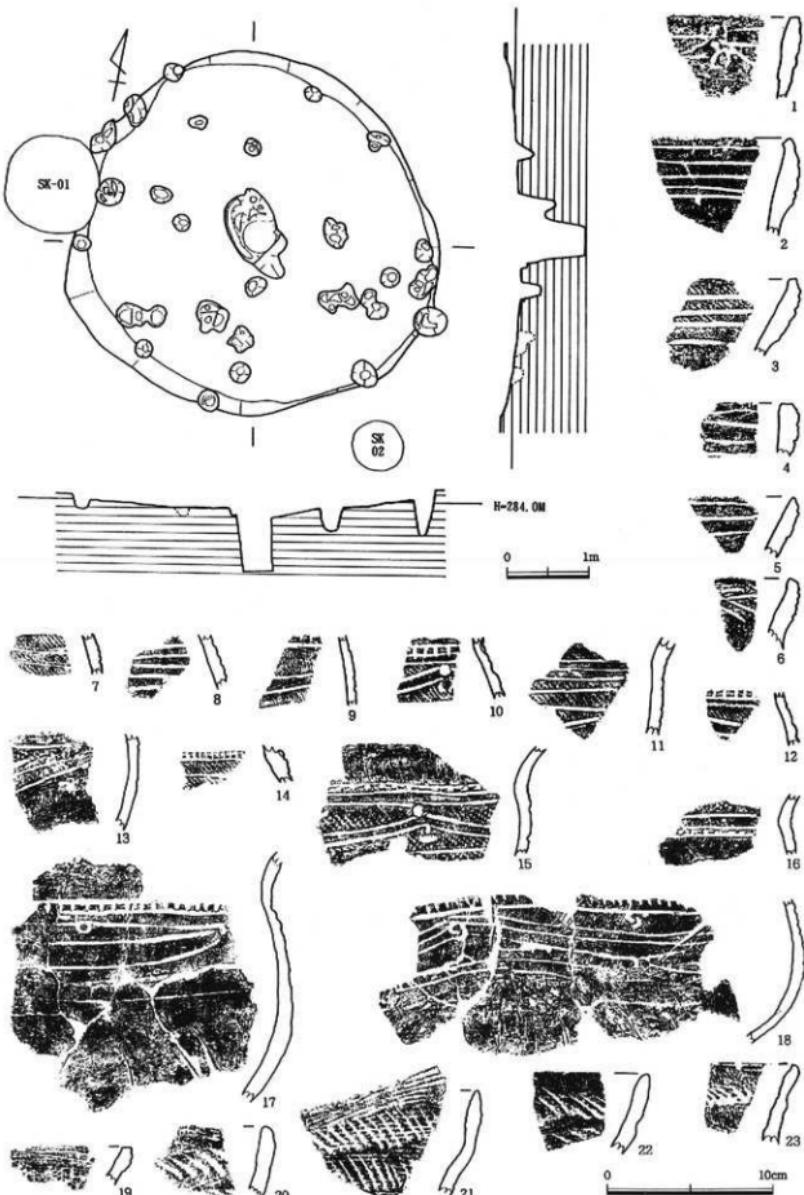
#### 遺物包含層出土遺物（第180~187・192~196図、図版126~136）

縄文時代後期を主とする土器片が約6,000点と、原石・石核・石器・剥片が約1,300点、炭化クリ（栗）が約30個出土した。

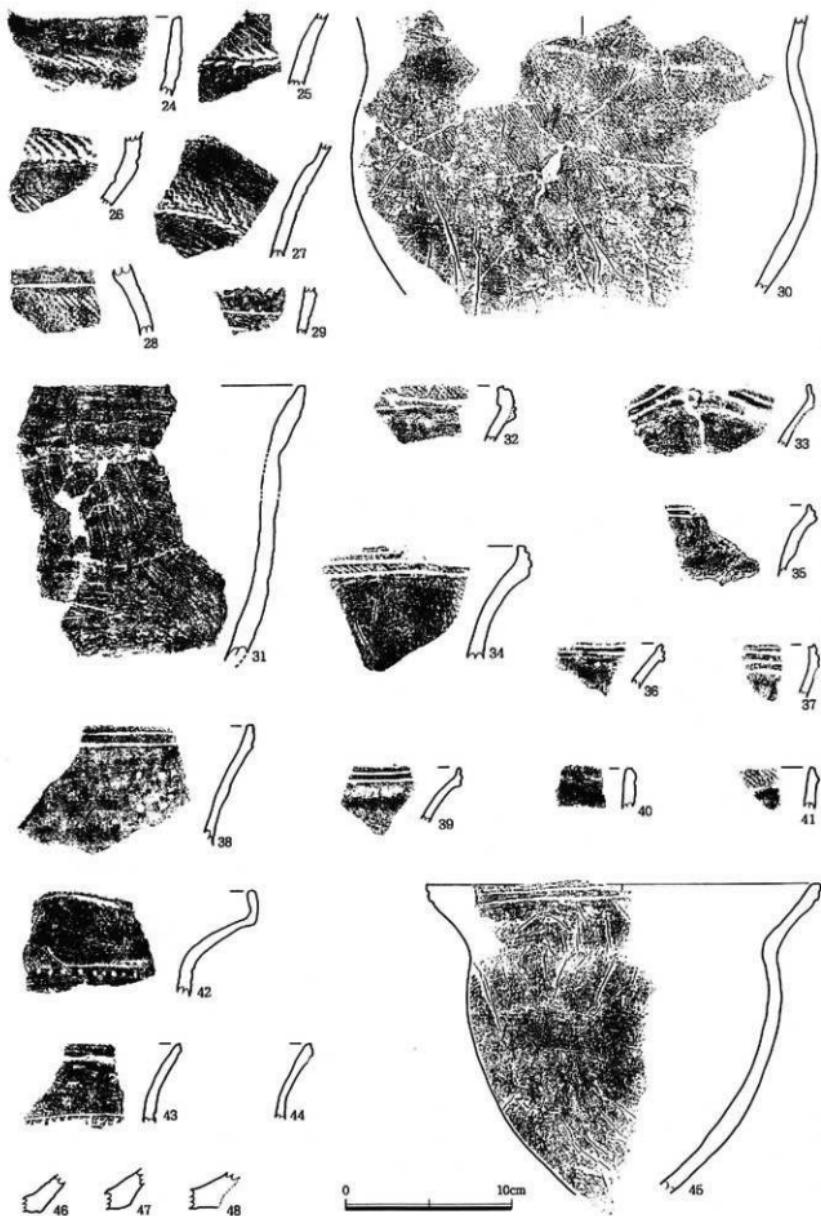
縄文土器はIV層上層の漸移層を主として曾畠式土器（第180図、図版126）が出土したが、中期の遺物を



第160図 松山遺跡 造構分布図 細線は複数



第161図 2号住居および出土遺物実測図（1）



第162図 2号住居出土遺物実測図(2)

欠く。後期は西平式土器を主とし、若干の丸尾式土器が混在する。

**打製石錐** (第192図、図版139)

黒曜石・チャート・安山岩製で、16点出土。

**石匙** (第192図、図版139)

チャート製で3点出土。

**石錐** (第194・195図、図版140)

小型の切り目石錐26個と、大型の打欠石錐9個が出土。

**すり石** (第195・196図、図版139)

小型1、中型8、大型1点が出土しており、敲き石兼用のものが多い。

**敲き石** (第193・194図、図版139)

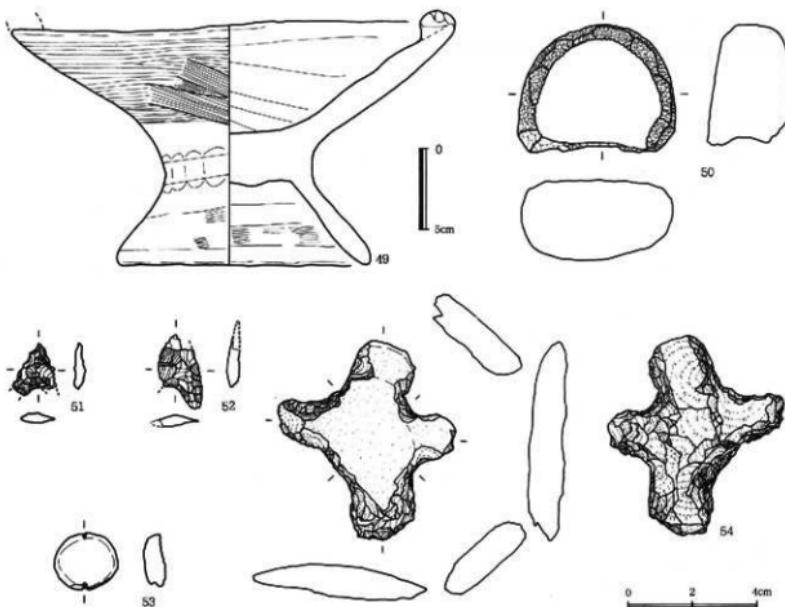
大小12点出土、石英塊が多い。また、石斧転用品も1点ある。

**石皿** (第196図、図版141)

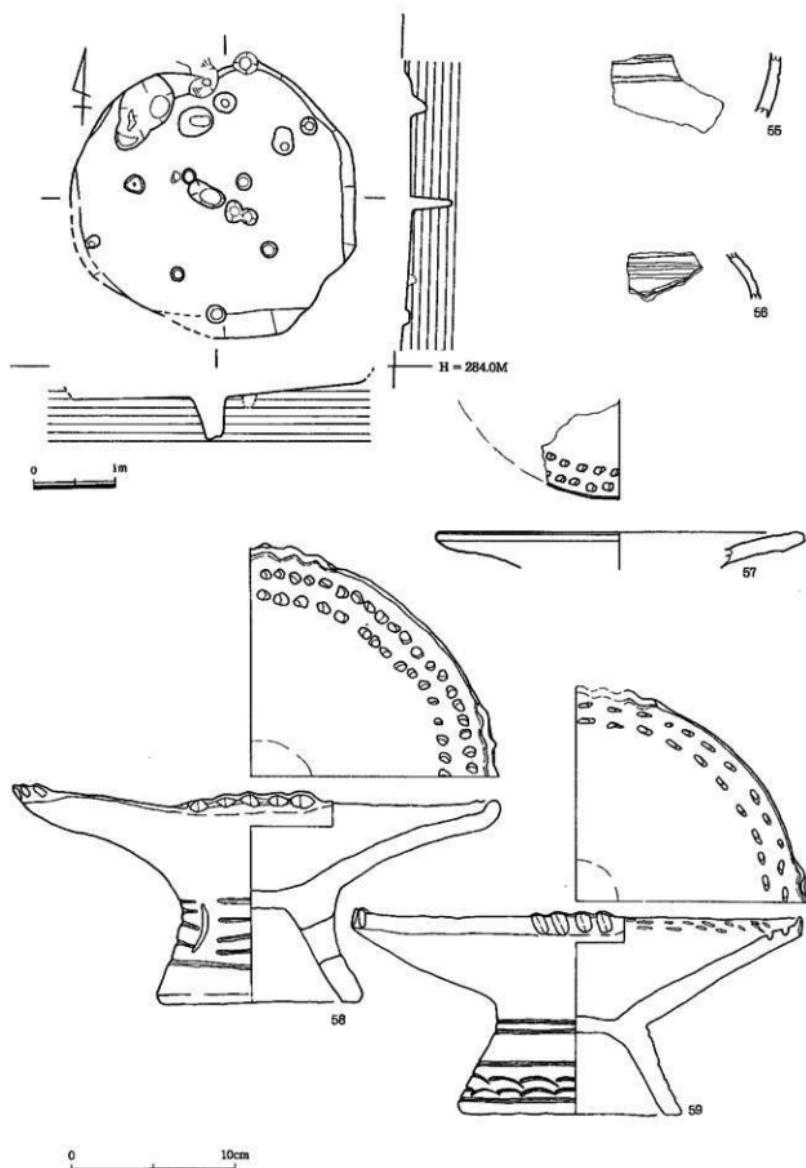
破片が4点出土している。

**十字型石器** (第192図、図版139)

2点出土し、533の抉り部は使用による磨滅が顕著である。



第163図 2号住居出土遺物実測図(3)



第164図 3号住居および出土遺物実測図

**石錐** (第192図、図版140)

大型の基部と、小型1点が出土した。

**スクレイバー・刃器** (第192・193図、図版141)

円形～不定形のものが12点出土している。

**礫器** (第193図、図版141)

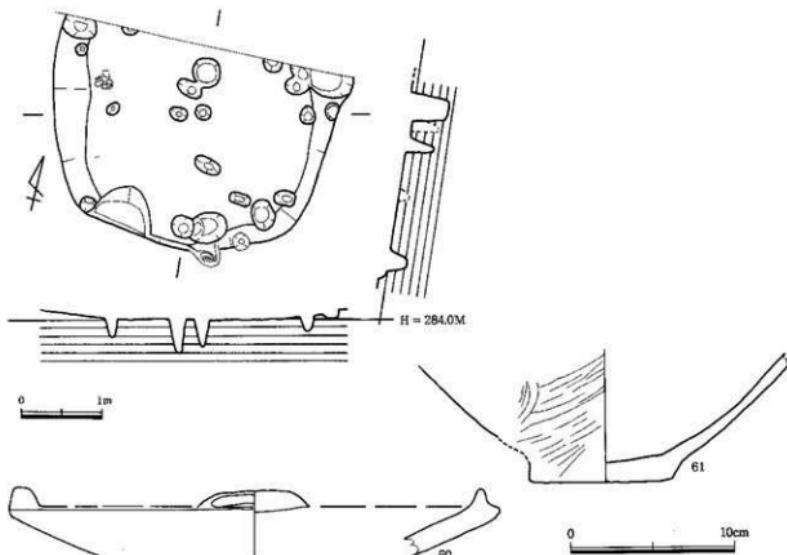
不定形のものが4点出土している。

#### 4. 弥生時代

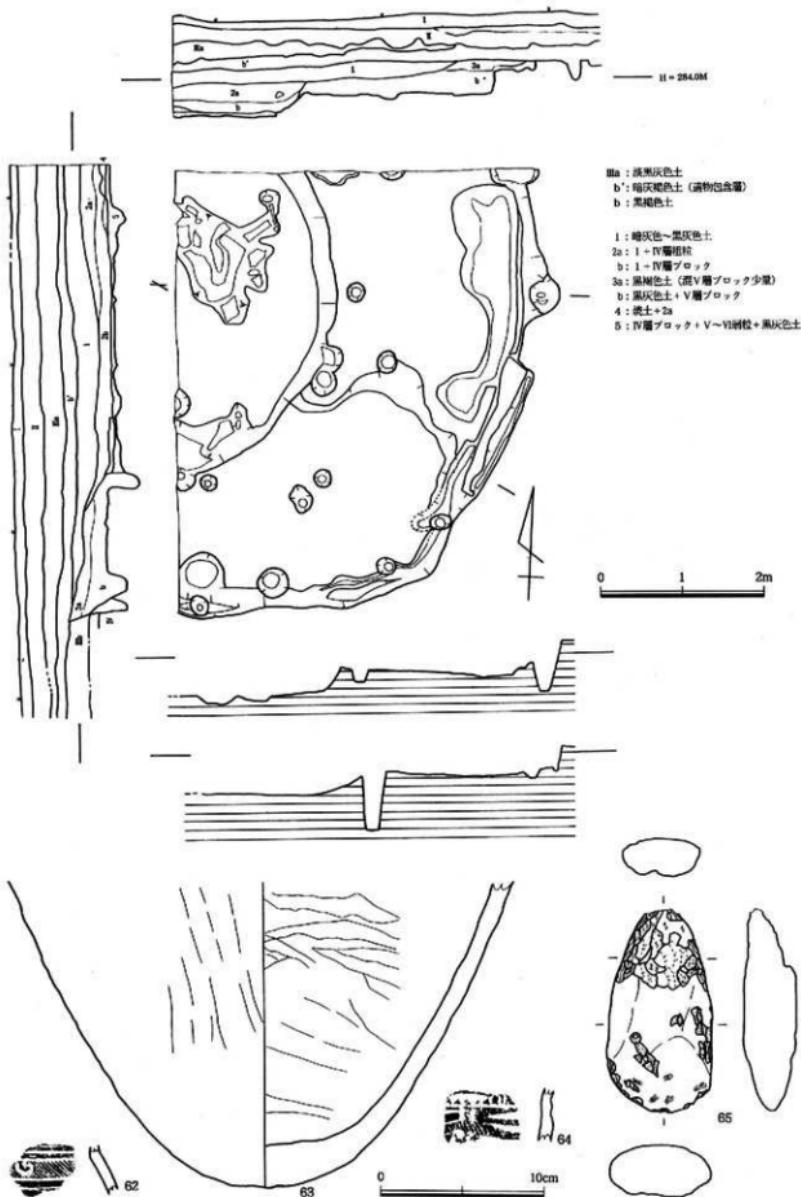
調査区全体に遺構・遺物が広がっている。遺構は、円形の竪穴住居1軒、花弁状住居3軒、花弁状住居と推定されるもの1軒、原形不明住居1軒、土坑10基余りのほか、柱穴と断定してもの580基余りがある。

**1号住居** (第166図、図版112・120)

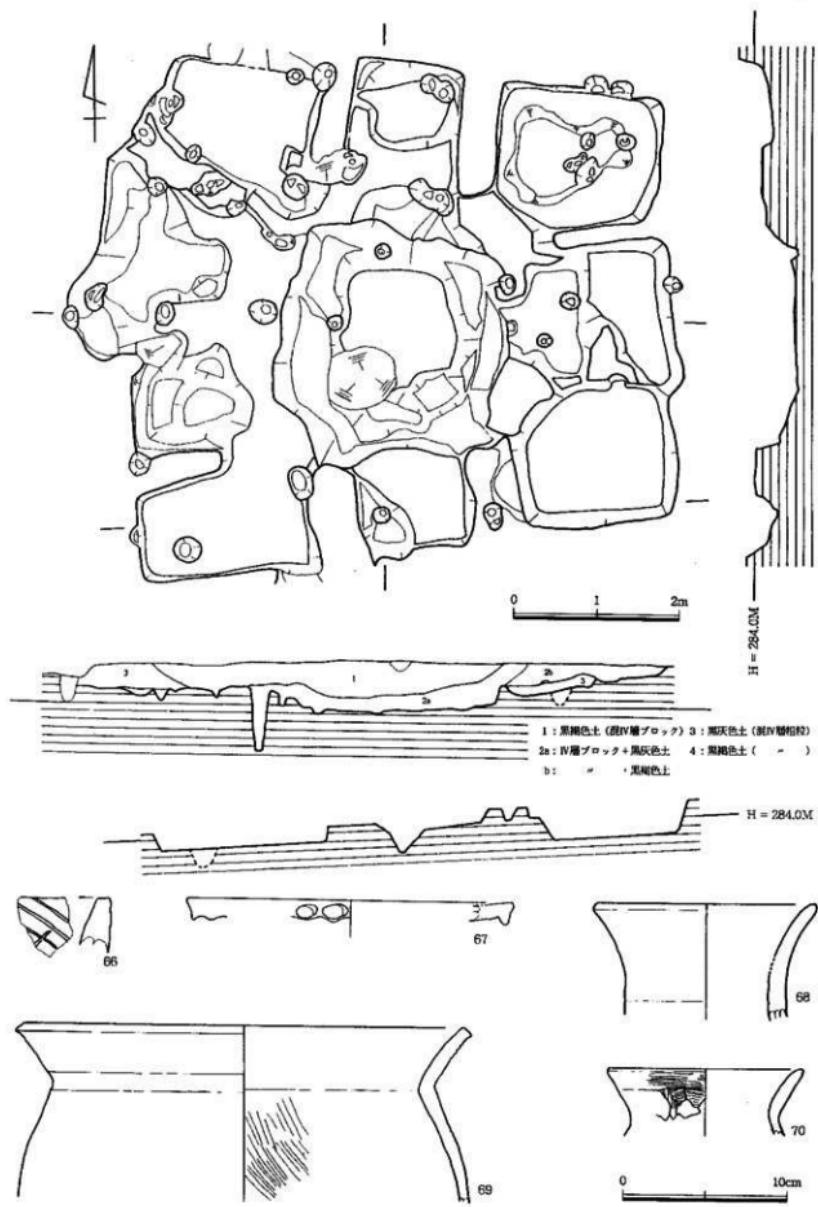
調査区の北西隅に $\frac{1}{2}$ 程度が検出され、直径8m位の円形を呈し、中央床面の深さは60cmである。東壁には間仕切りの名残りがあり、突出部が完全に除去されていない。掘り肩から30cm下に幅1.3～2.2mのテラス(ベッド状遺構)があり、周壁沿いには幅18～30cm・深さ2～8cmの溝が断続的に巡る。テラスの



第165図 9号住居および出土遺物実測図



第166図 1号住居および出土遺物実測図



第167図 4号住居および出土遺物実測図(1)

東側と南側・中央床面には、5cm前後の貼り床が施されている。柱穴は、直径22~36cm・深さ8~53cmで、外壁沿いとテラス内肩部に巡る。

出土遺物は少なく、縄文土器・弥生土器・蛇紋岩製石斧がある。

#### 4号住居（第167・168図、図版114・122・123）

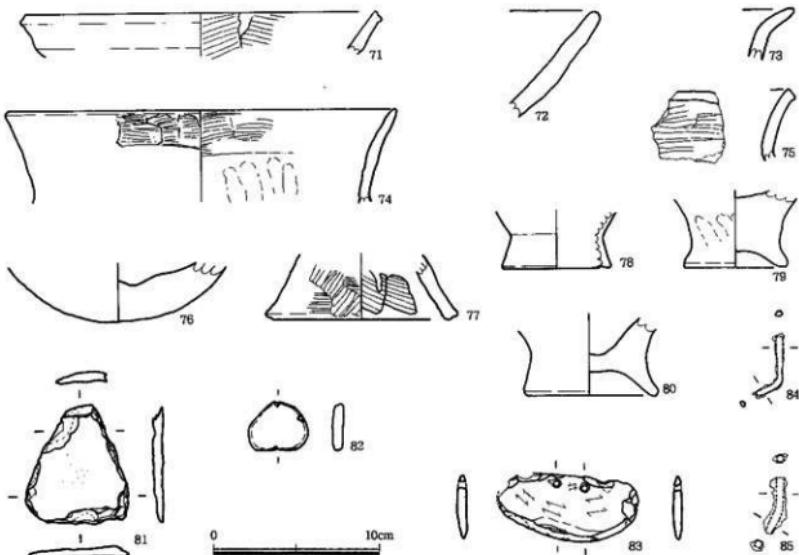
東西6.5m・南北5~6.2mの、台形を基調とする花弁状住居で、西側のみ3ヶ所の間仕切りがある。各部屋は25~40cmの深さにあるが、南辺中央部のみ15cm前後と浅く小規模なことから入口と想定される。柱穴は、直径17~30cm・深さ9~82cmで、中央寄りの2基が主柱穴と思われる。

出土遺物は縄文土器2点のほか、弥生土器壺・甕類、石鎚・石包丁・石鋤・石錐のほか、直径3~4mm・長さ3.7cmでくの字に曲がった釣針状鉄器が出土している。

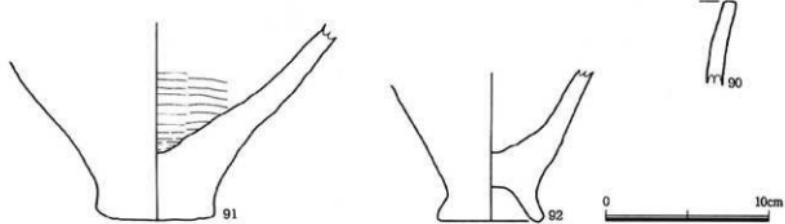
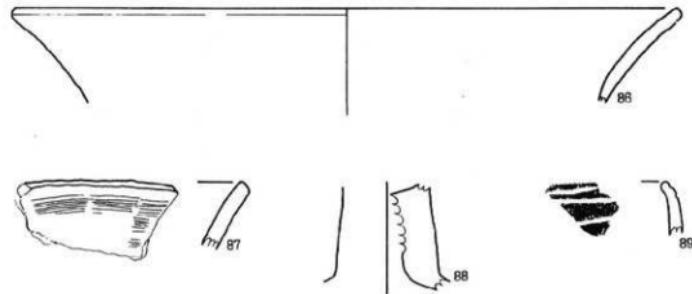
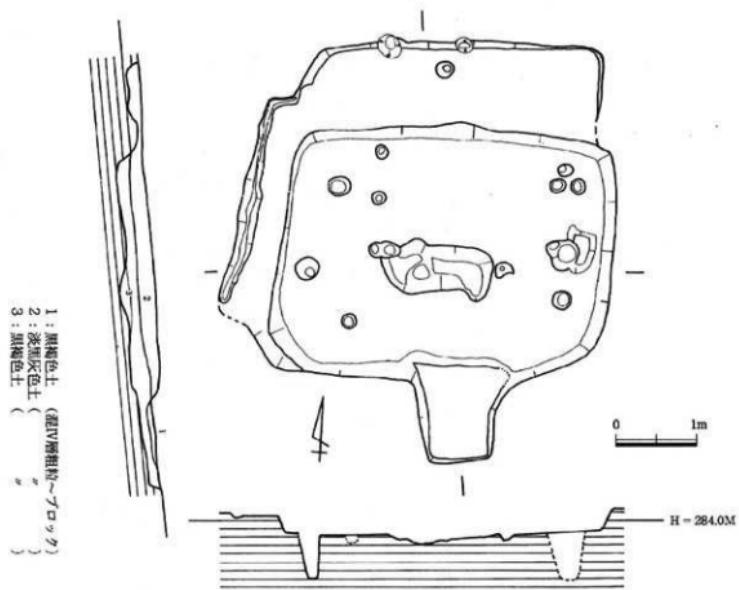
#### 5号住居（第169・170図、図版115・123）

東西4m・南北3.04mの長方形の南辺に、幅0.8~1.4m・長さ1.18m・深さ9cmの張り出しを持つ。また、西面に幅30~40cm、北面に幅1~1.4mのベッド状遺構が遺存し、中央部の深さは37cmである。中央西の直径27cm・深さ52cmの柱穴と、東の直径34cm・深さ56cmの柱穴が主柱穴で、他の柱穴は直径14~22cm、深さ5~25cmの小規模なものである。中央pitは、長さ113cm・幅56cm・深さ6mである。削平を受け、原形は不明であるが、花弁状住居の可能性が高い。

出土遺物は、縄文土器1点のほか、弥生土器、すり石、砥石がある。



第168図 4号住居出土遺物実測図(2)



第169図 5号住居および出土遺物実測図(1)

#### 6号住居（第171・172図、図版116・124）

7m四方を基調とする花弁状住居であるが、北半部の削平が著しい。南辺中央の間仕切りも判然としないが、2段目掘り戸との間に突出部があり、入口の機能が想定される。南半部の部屋は、深さ20cm前後である。2段目はさらに20cm掘り下げられ、四隅に直径38~50cm・深さ40~69cmの柱穴を配置する。その他、直径16~30cm・深さ12~33cmの柱穴が散在する。中央pitは、長さ63cm・幅50cm・深さ12cmである。西側中央の部屋の西~南壁には、幅6cm・深さ3~9cmの壁溝が巡る。

出土遺物は、縄文土器1点と、若干の弥生土器、砥石がある。

#### 7号住居（第173図、図版124）

東西2.98m、南北2.2mの長方形で、深さ10cm。花弁状住居の2段目と思われる。

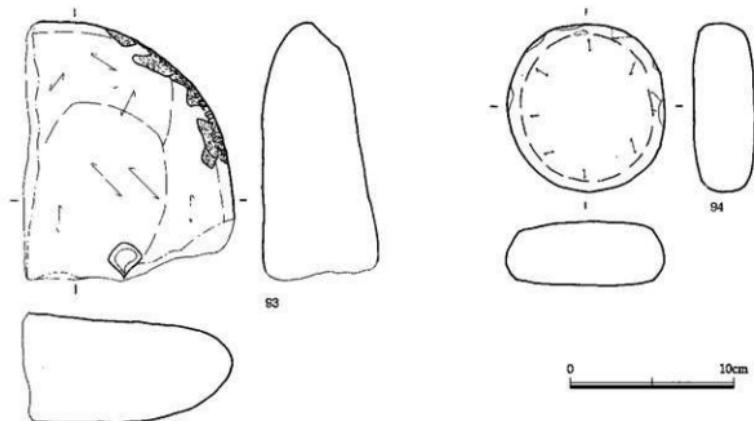
柱穴は、直径24~28cm・深さ3~10cmの4隅のものが主柱穴と思われ、直径13~18cm・深さ4~6cmのものが中央寄りにある。中央には、直径21cm・深さ9cmの柱穴がある。

出土遺物は、極く少量の弥生土器がある。

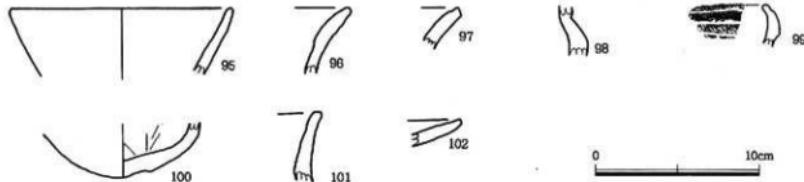
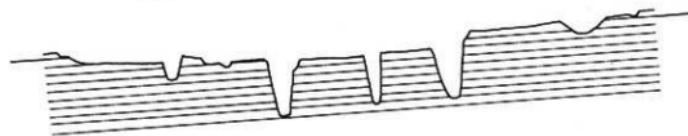
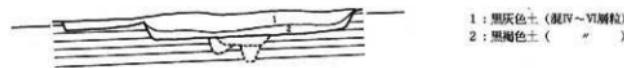
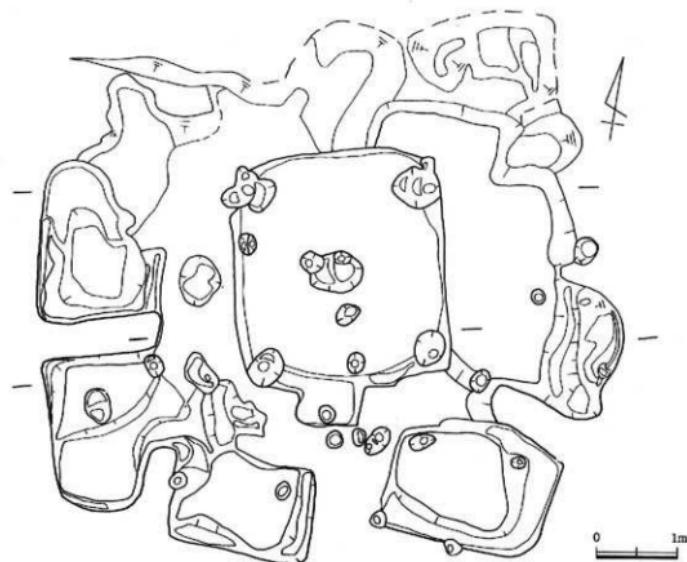
#### 8号住居（第174・175図、図版117・124）

東西5.4m、南北5.8mの長方形を基調とする花弁状住居で、10~25cm掘り下げた部屋がある。幅6~18cm・深さ2~4cmの壁溝は、断続的に巡る。中央は、東西2m・南北2.78mの長方形で深さ40cmの掘り込みがあり、4隅には直径10~26cm・深さ7~19cmの柱穴があるものの、中央北寄りの左右の柱穴（直径20~28cm・深さ40cmと直径30~40cm・深さ44cm）が主柱穴と思われる。また、東南部には張り出しがあり、突出部と接している。覆土中層には大量の焼土と炭が入っていた。

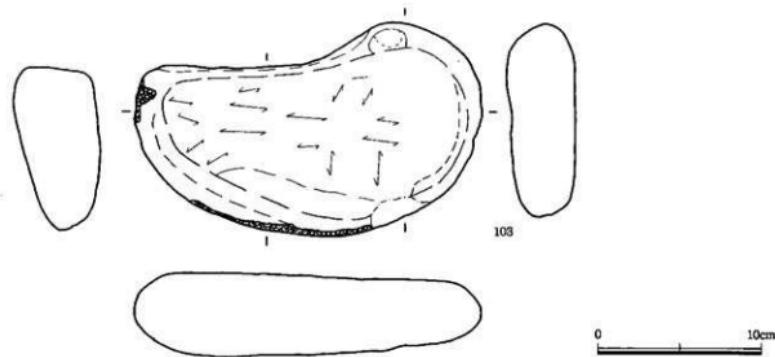
その他、直径17~34cm・深さ8~43cmの柱穴が、南東寄りに点在する。出土遺物は中央部下層~床面に多く出土し、長頸壺などの壺類と砥石、磨製石器が出土している。



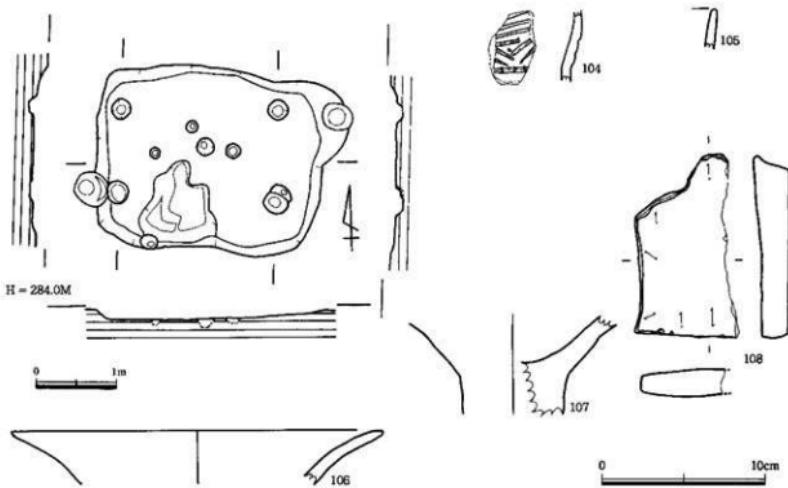
第170図 5号住居出土遺物実測図（2）



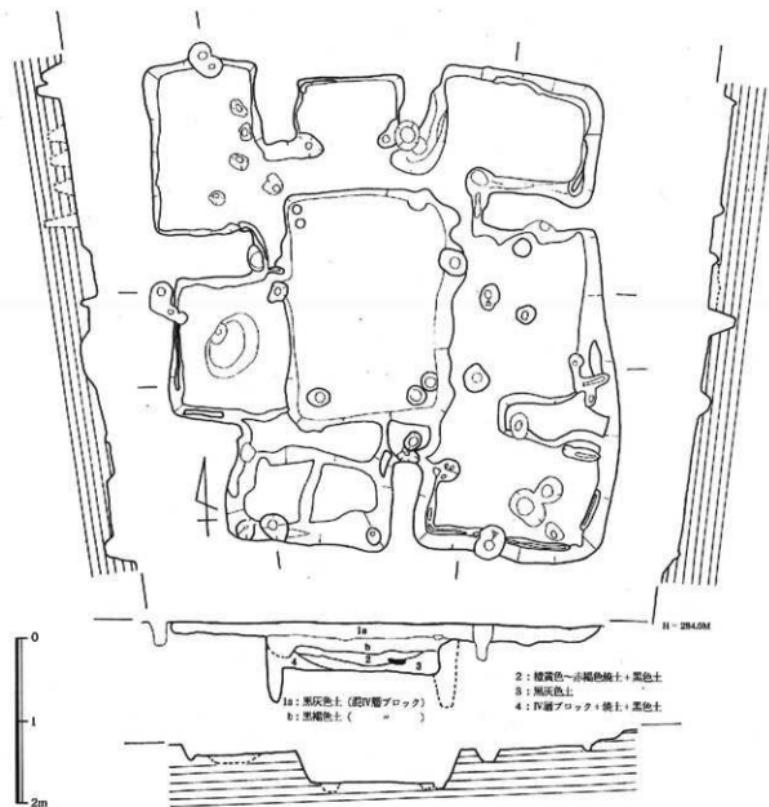
第171図 6号住居および出土遺物実測図(1)



第172図 6号住居および出土遺物実測図(2)



第173図 7号住居および出土遺物実測図



第174図 8号住居および出土遺物実測図(1)

**1号土坑** (第176・177図、図版119・125)

直径1.15~1.2mの円形を呈し、深さは10cmである。上面（上層）には、石皿を含む多量の縄文土器と弥生土器が集積していたが、下層においては少量の土器片と鐵鏃1点のみである。

**2号土坑** (第178図、図版119・125)

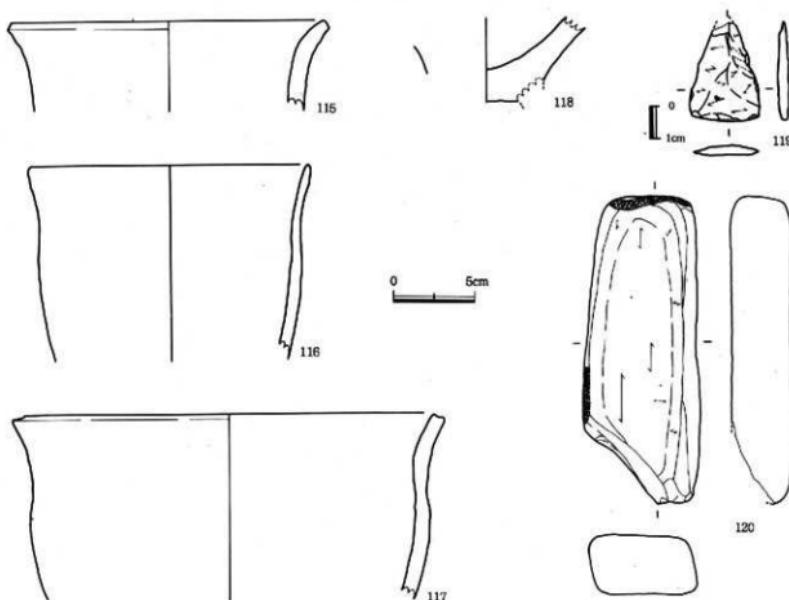
直径55~60cm、深さ12~18cmの2段掘りで、完形の埴が出土した。

**3号土坑** (第178図、図版119・125)

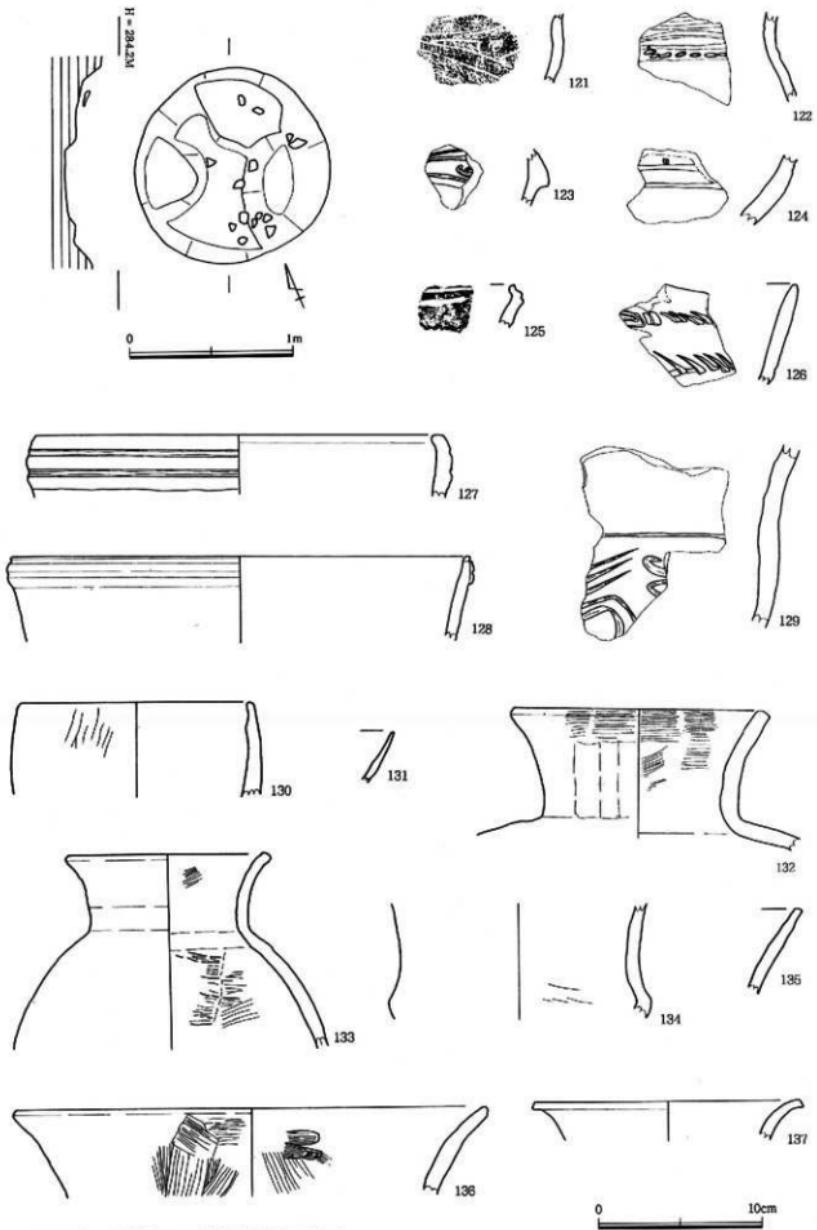
直径64cmの略円形、深さ16~18cmの土坑で、縄文土器の底部と小型の鉢が出土した。

**遺物包含層出土遺物** (第188~191図)

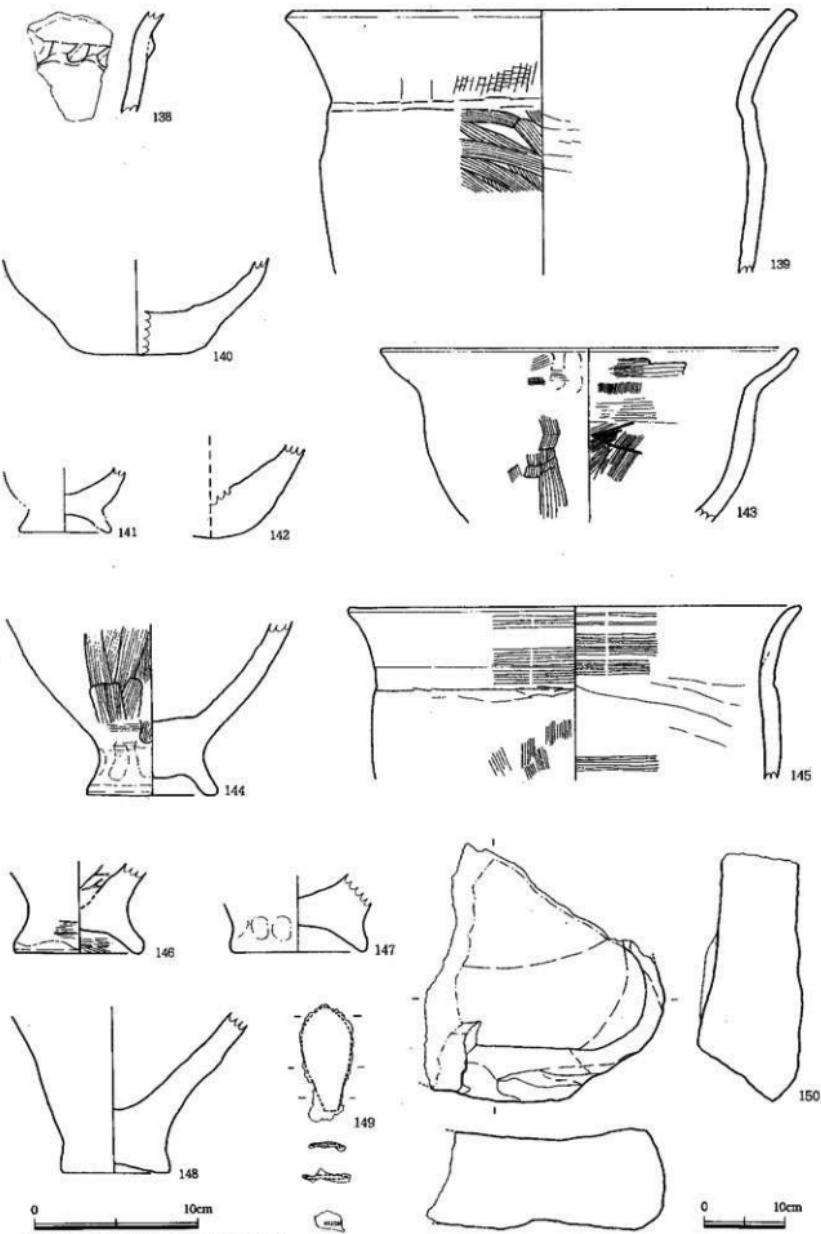
縄文土器に混ざって、多くの土器片が出土した。中には、免田式土器数点 (458~463) がある。



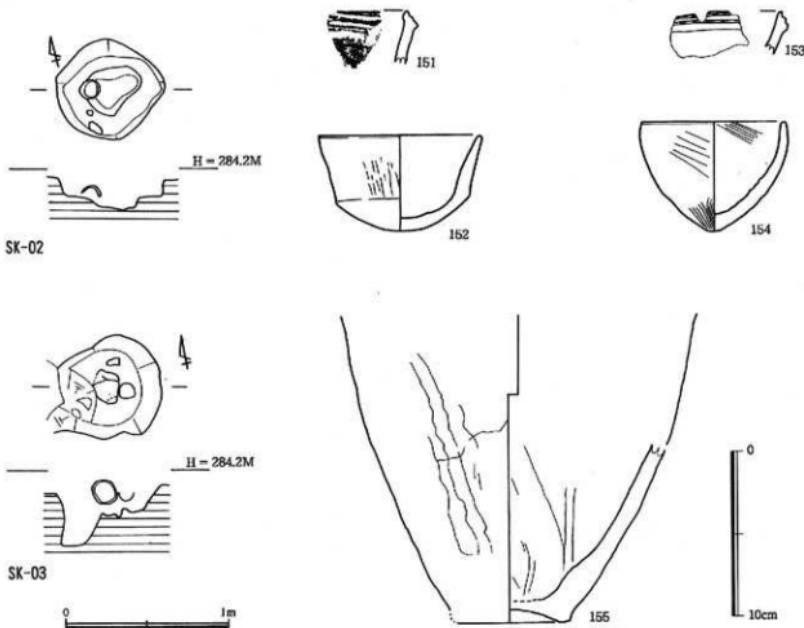
第175図 8号住居出土遺物実測図 (2)



第176図 1号土坑および出土遺物実測図(1)



第177图 1号土坑出土遗物实测图(2)



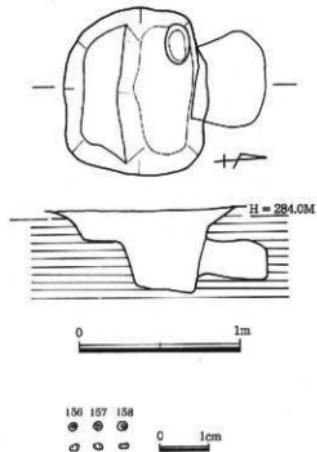
第178図 2・3号土坑および出土遺物実測図 151・152:SK-02

## 5. 古墳時代

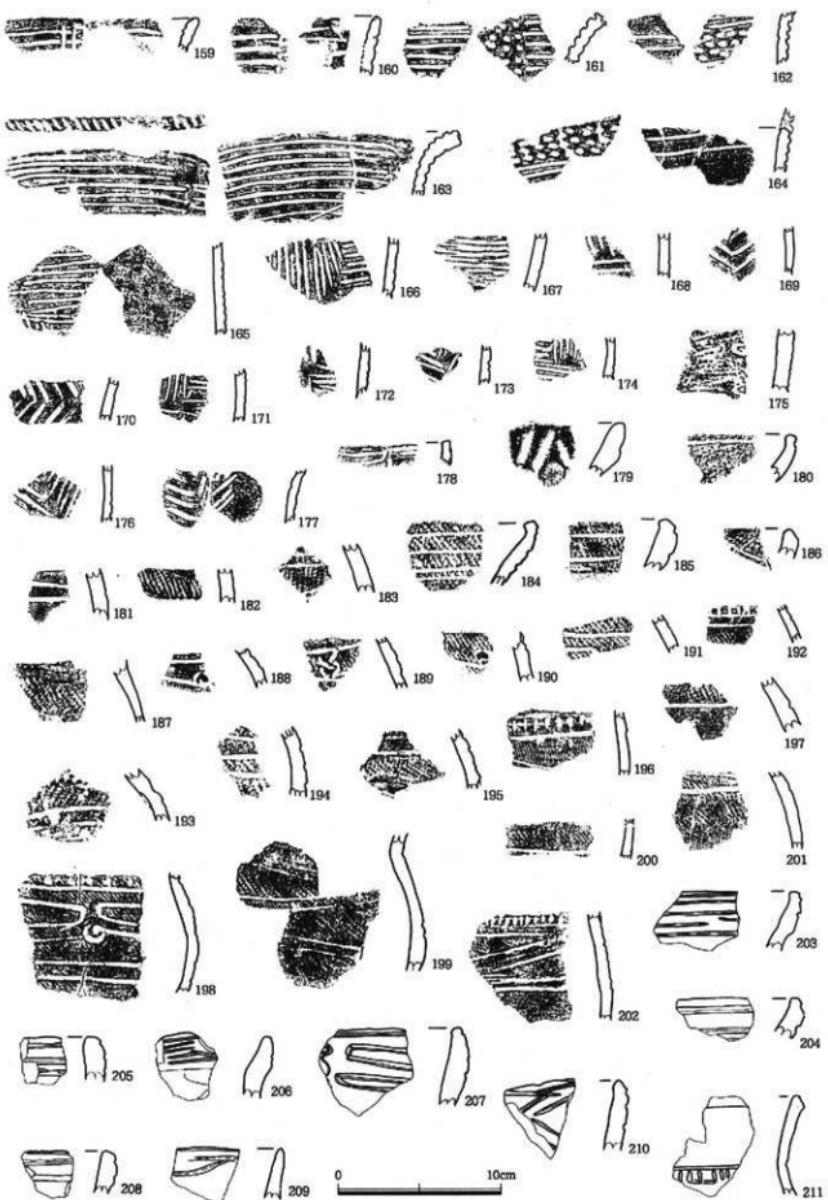
6号住居の西3mの地点で、地下式横穴墓1基を検出した(ST-01)。

### 1号地下式横穴墓 (第179図、図版120)

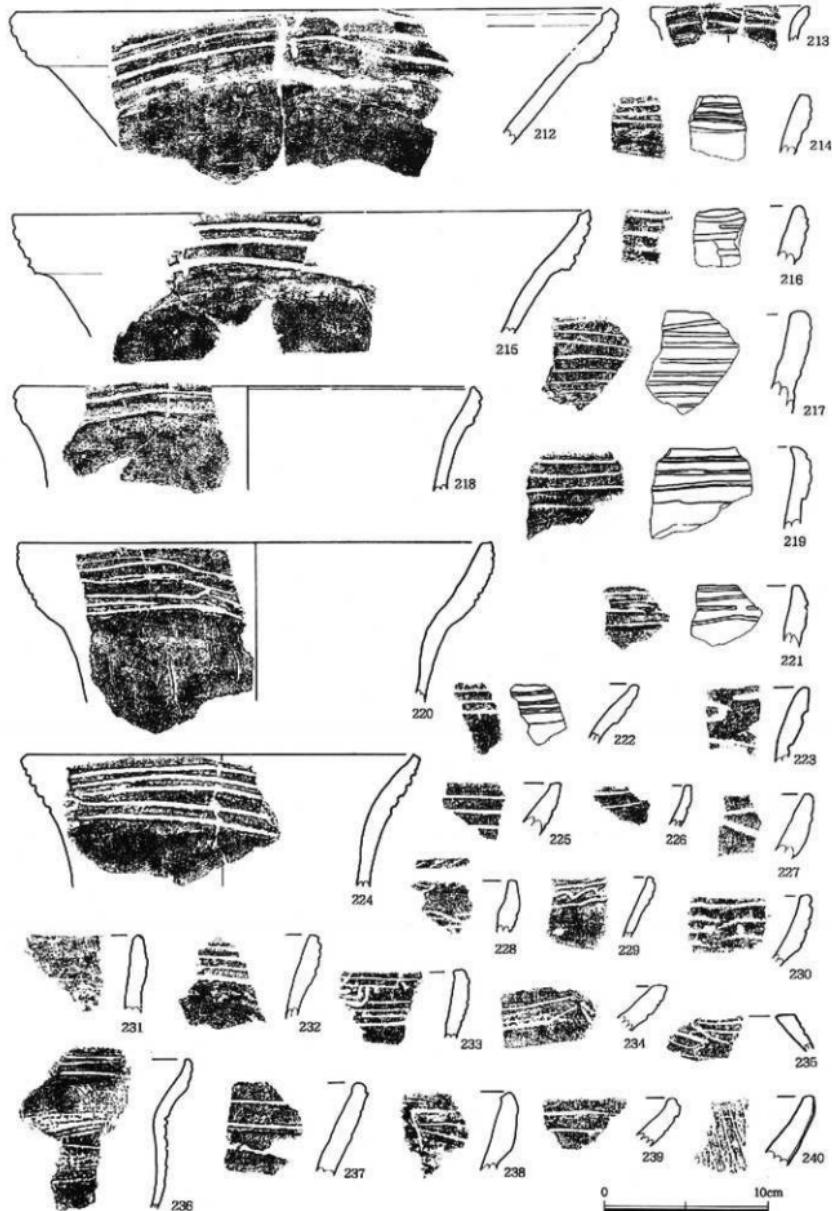
堅坑は、東西105cm・南北88cmの梢円形で、深さは15~46cmの2段掘りである。2段目底面は、長さ76cm・幅30cm内外である。覆土は、草大のアカホヤ塊と黒色土が混じる。羨道および閉塞材は無く(板閉塞)、20cm高い玄室は平入りで、幅57cm・奥行き46cm・高さ28cmの梢円形を呈し、天井はやや円みがある。玄室内は黒色土が充填し、人骨も遺存していなかったが、床面から青色のガラス玉3点を検出した。追葬痕が無いことと玄室の規模から、小児單葬墓と考えられる。



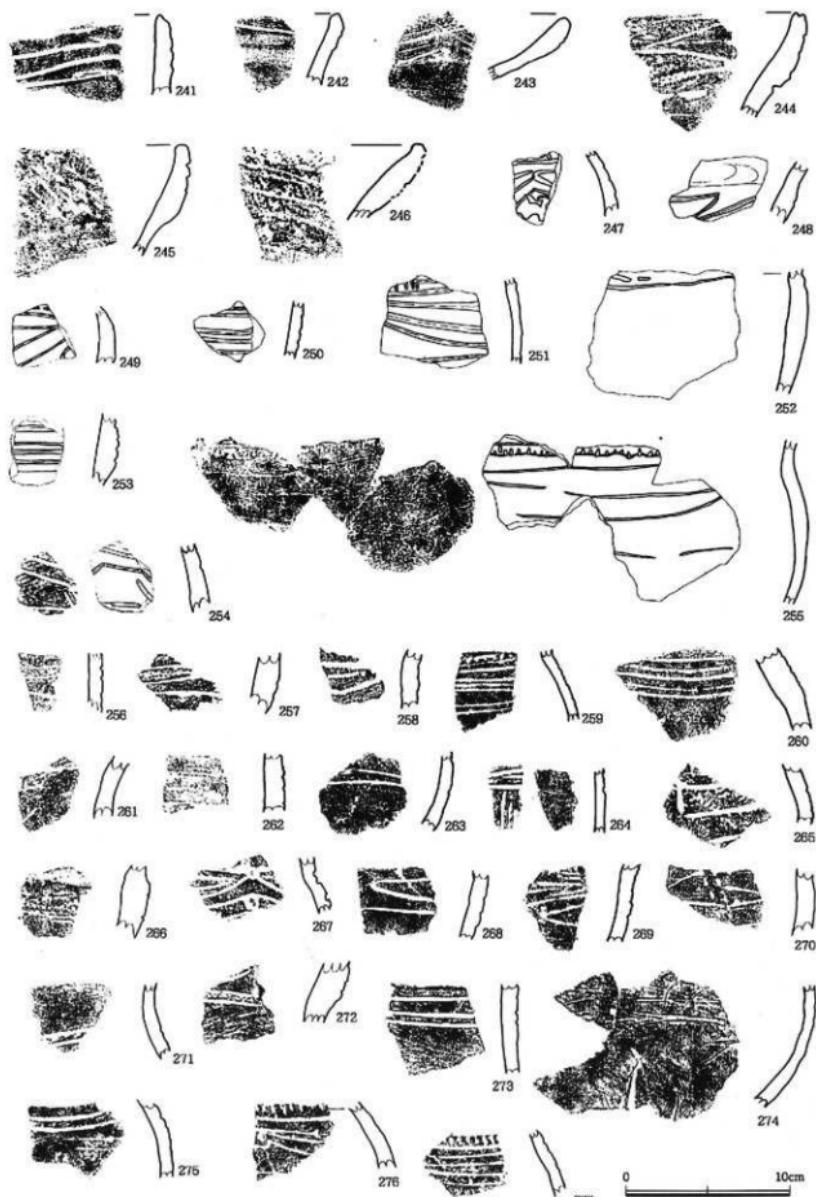
第179図 1号地下式横穴墓および出土遺物実測図



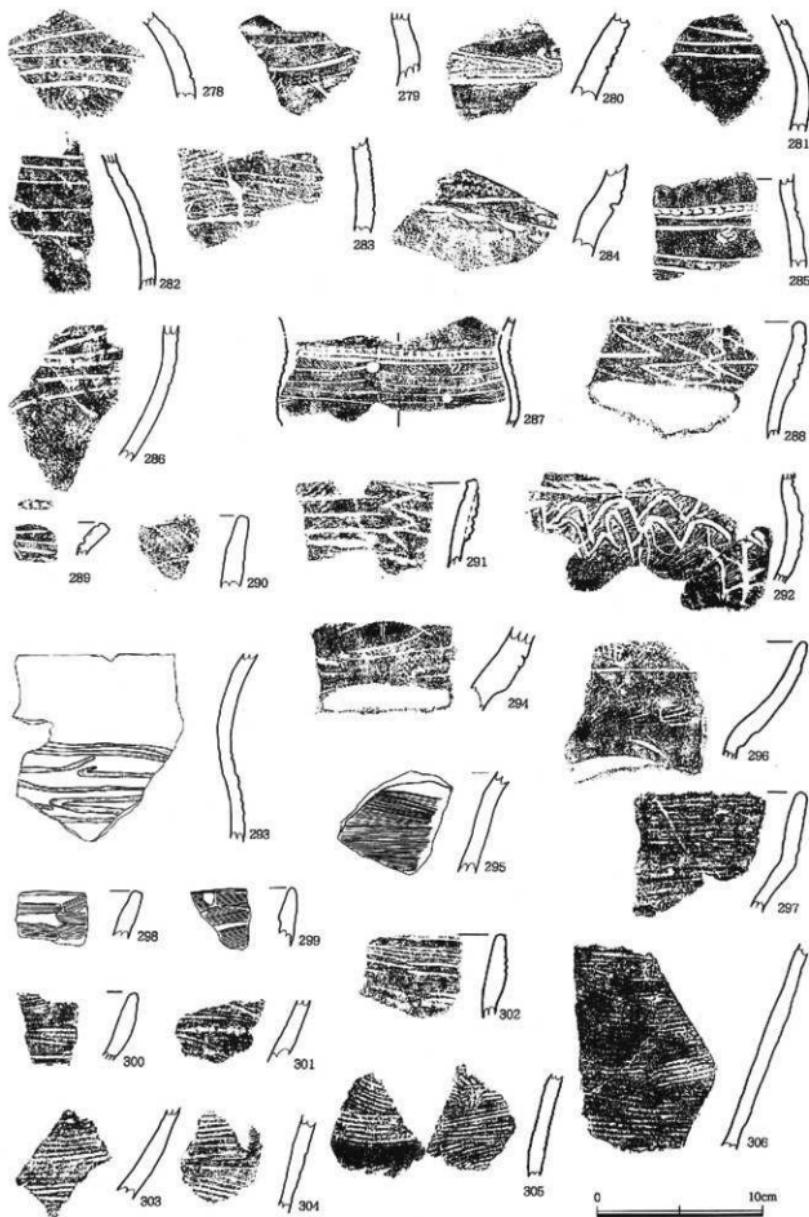
第180図 Ⅲ層出土縄文土器実測図(1)



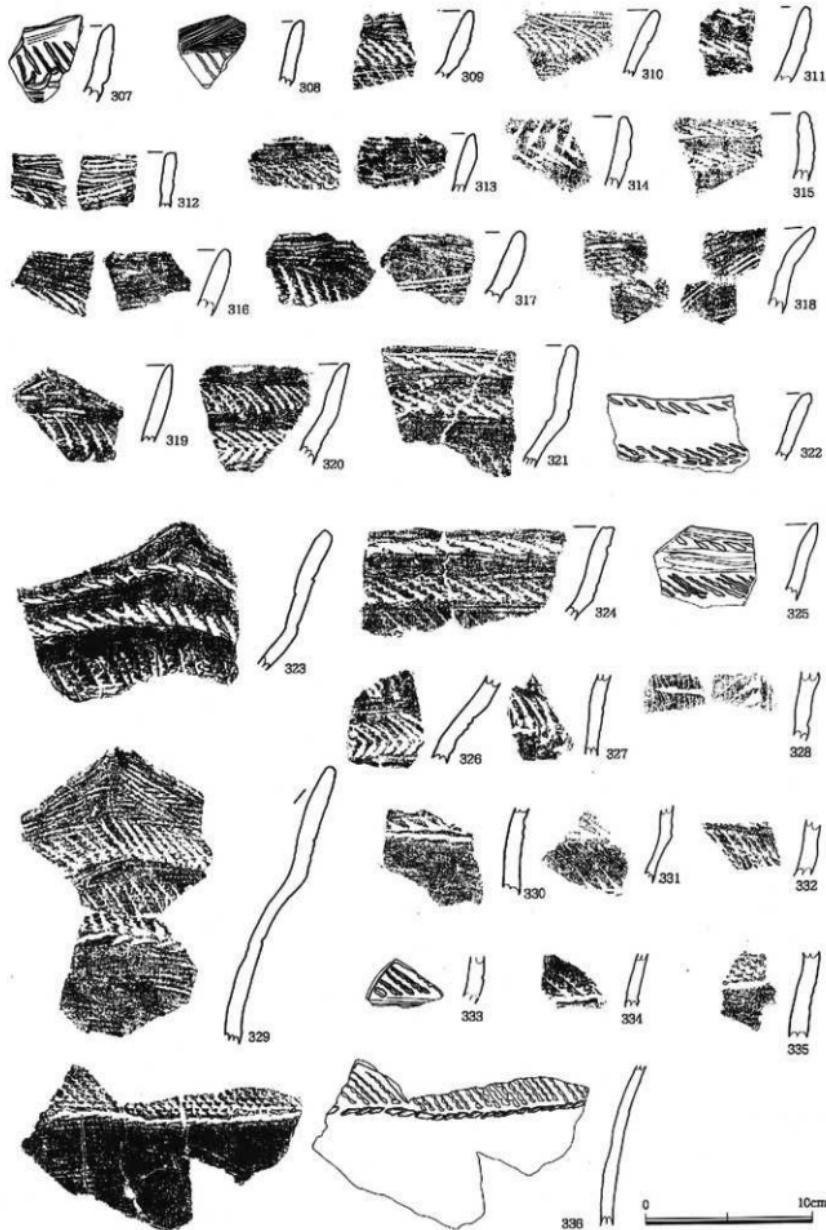
第181図 Ⅲ層出土縦文土器実測図(2)



第182図 Ⅲ層出土縄文土器実測図(3)



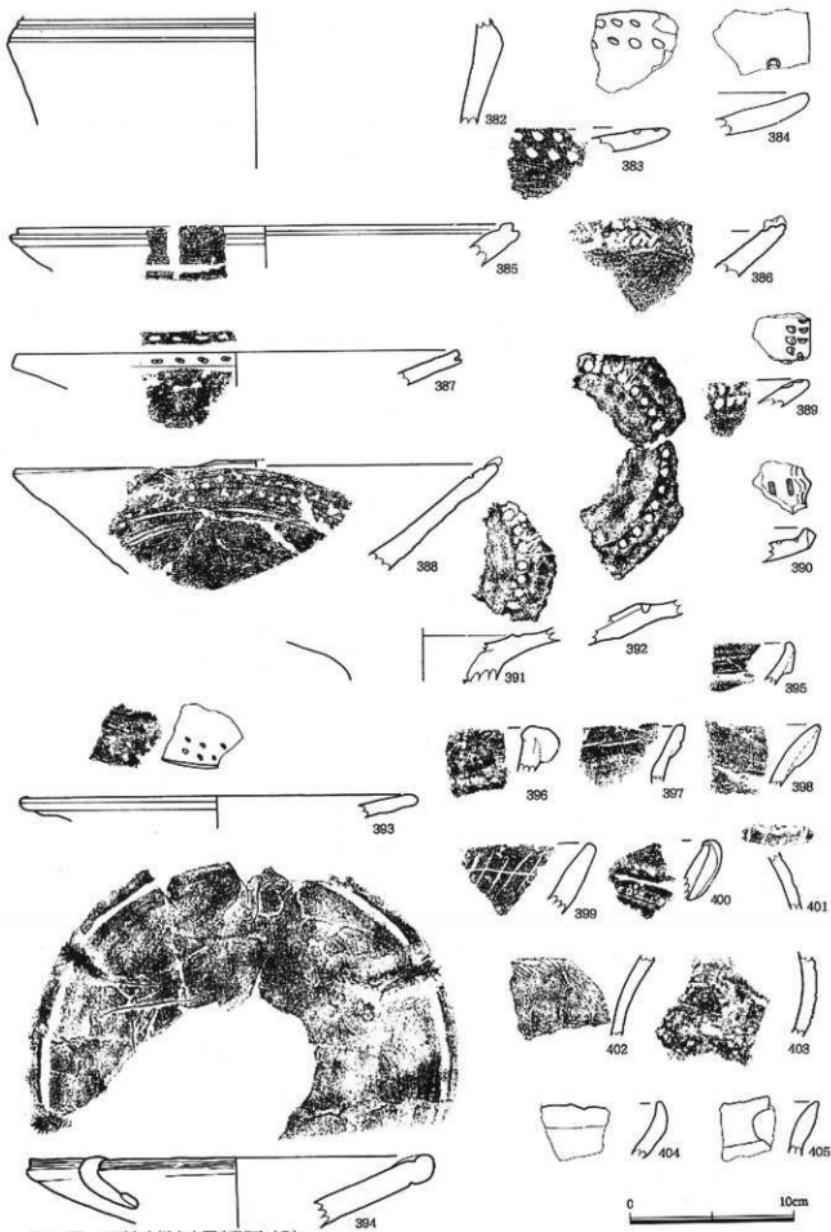
第183図 Ⅲ層出土縄文土器実測図(4)



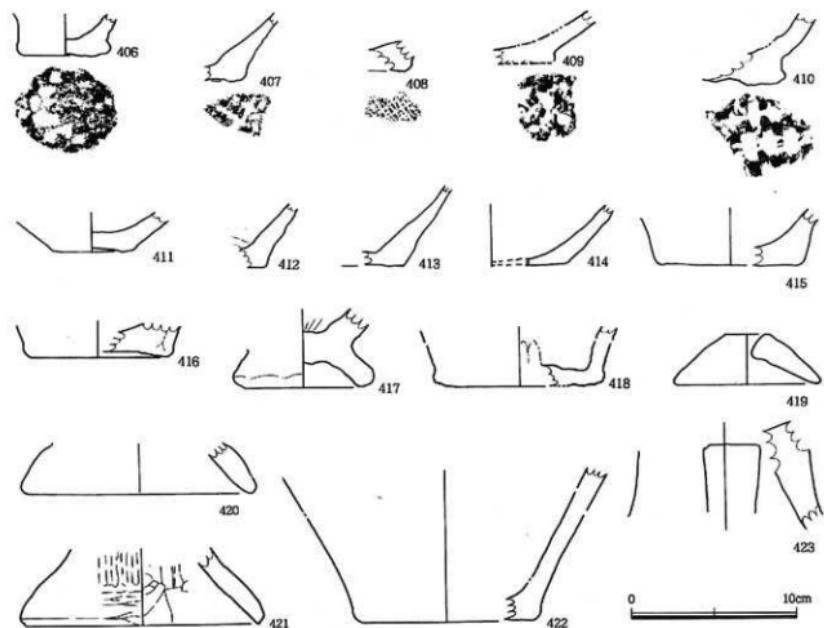
第184図 三層出土縄文土器実測図(5)



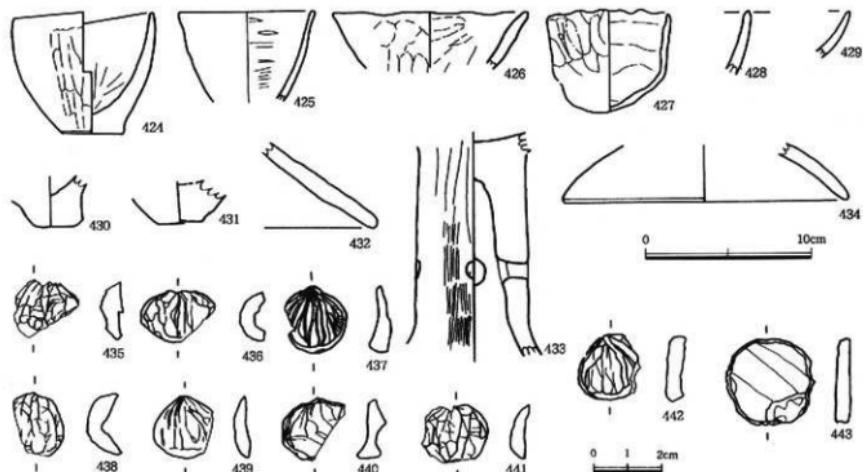
第185図 Ⅲ層出土縄文土器実測図(6)



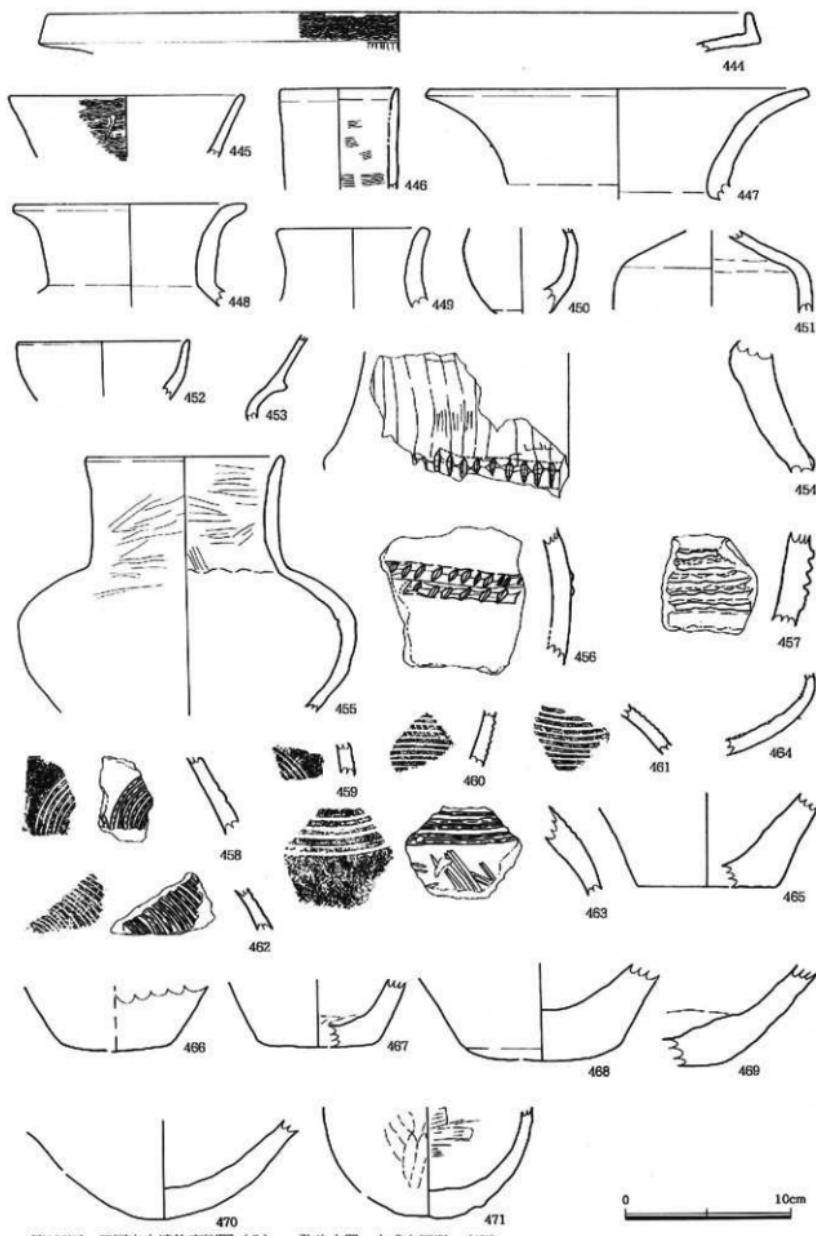
第186図 Ⅲ層出土縄文土器実測図(7)



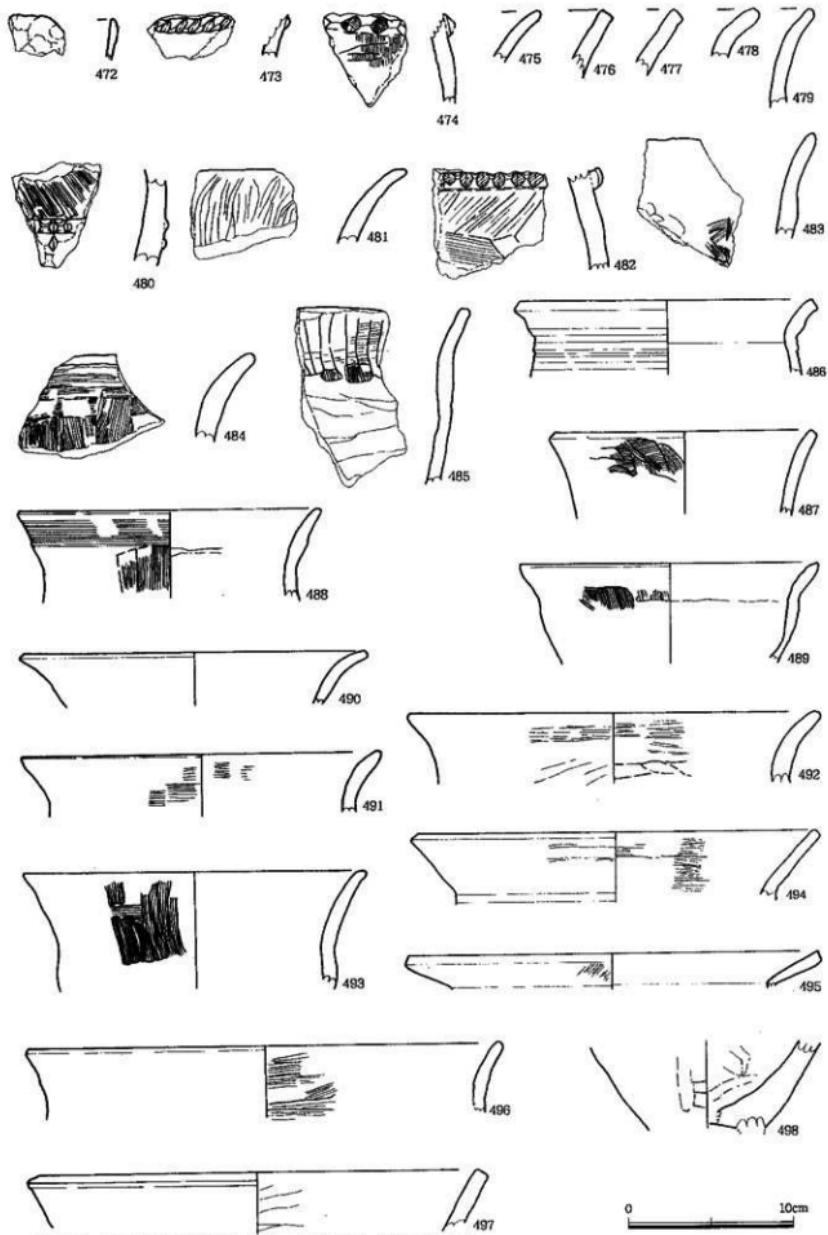
第187図 III層出土繩文土器実測図(8)



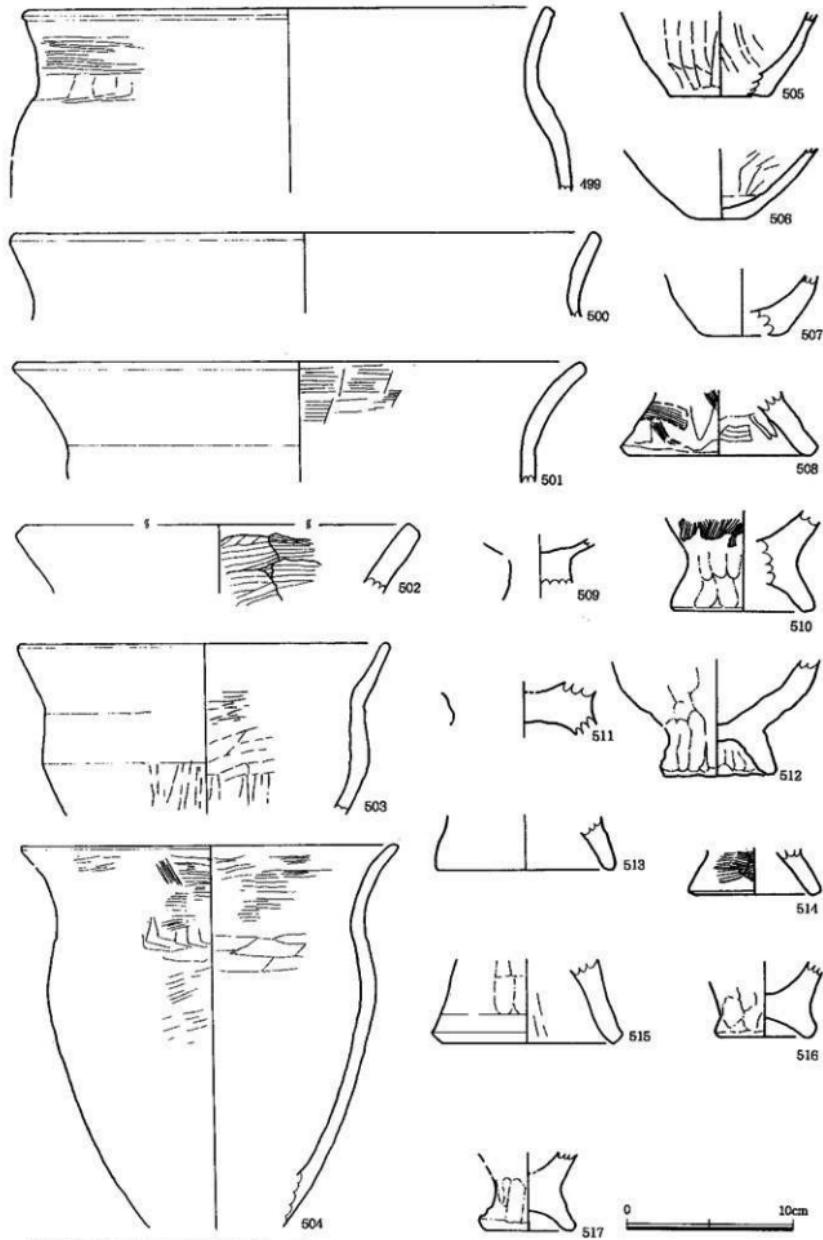
第188図 III層出土遺物実測図(1) 小型土器・高杯・土製円盤・炭化栗



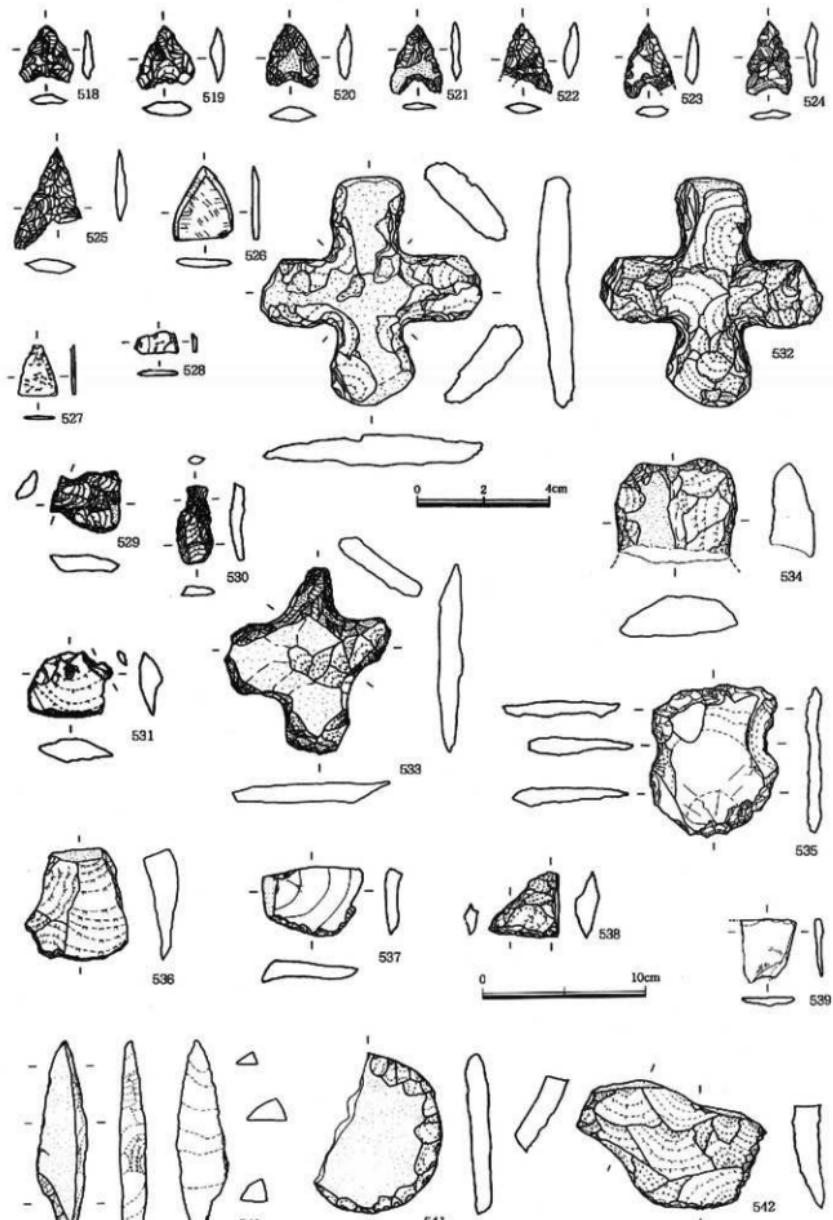
第189圖 Ⅲ層出土遺物實測圖（2） 烹生土器・古式土瓶器・壺類



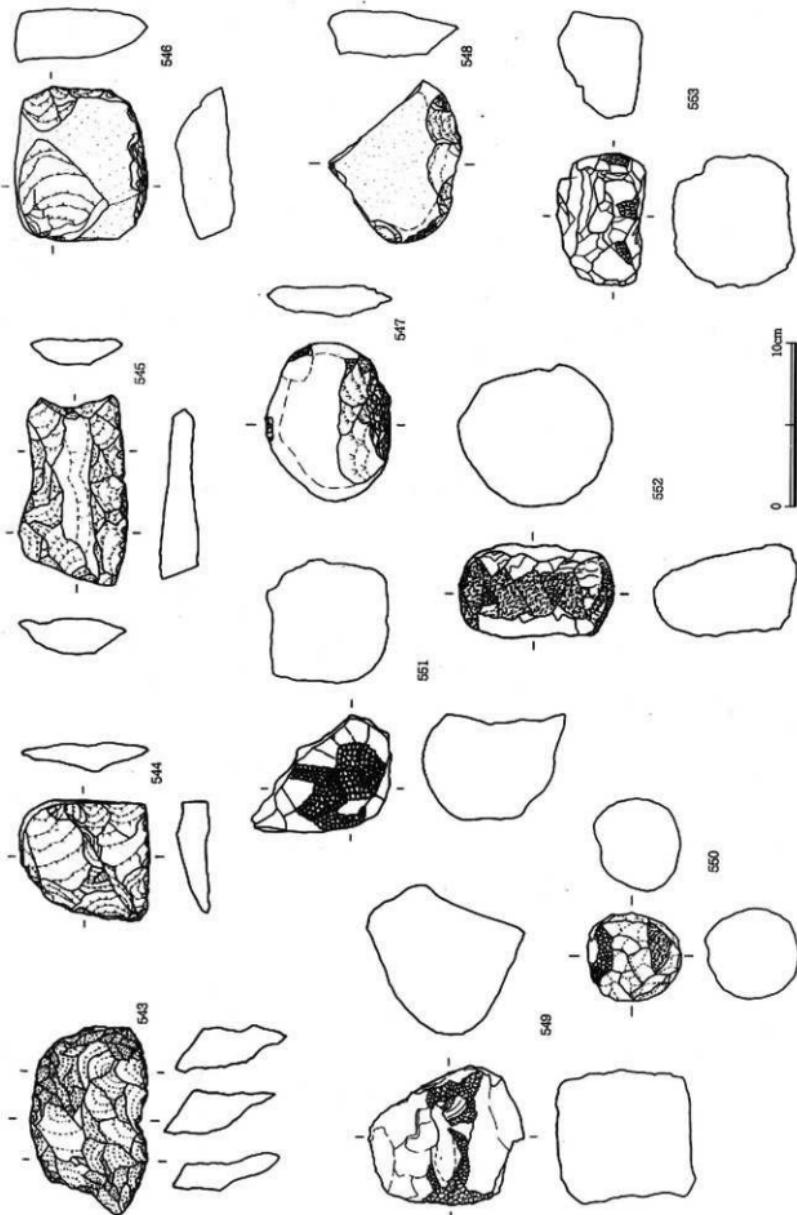
第190図 Ⅲ層出土遺物実測図(3) 弥生土器 豊類(その1)



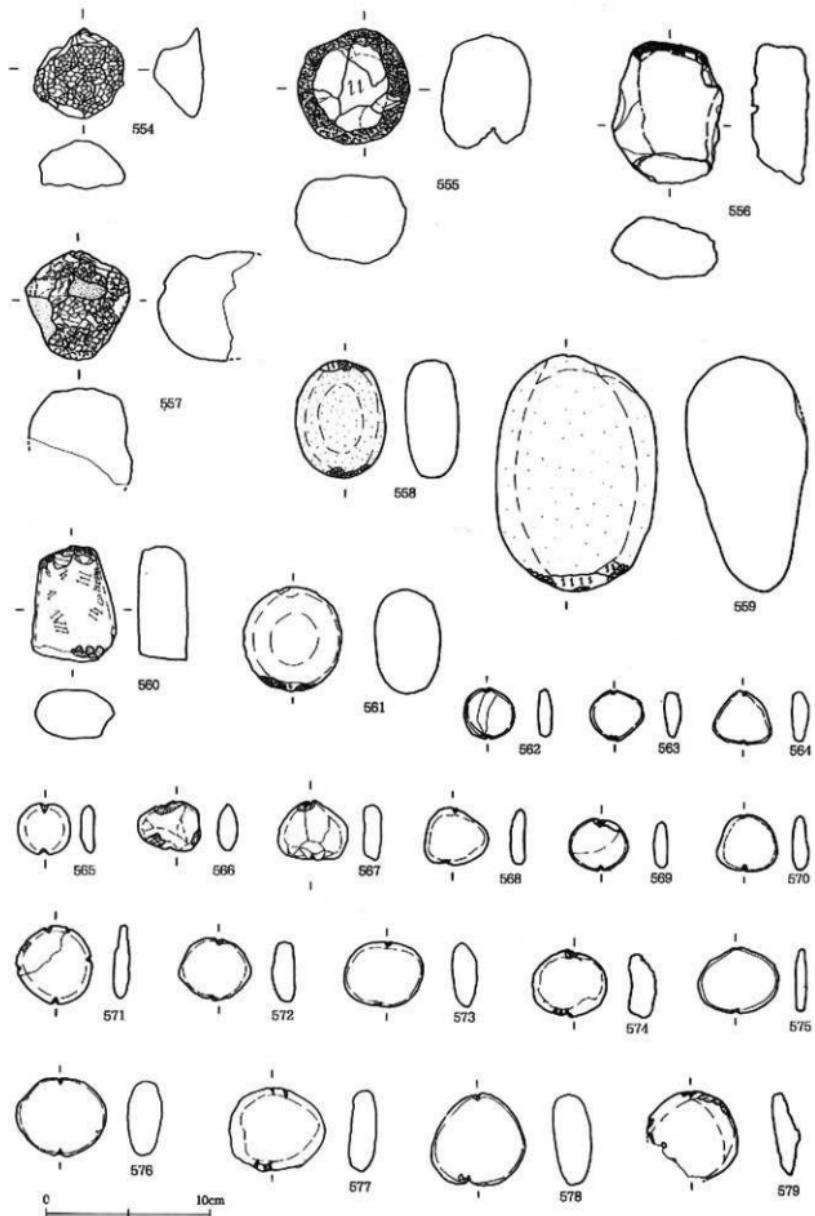
第191図 三層山土遺物実測図(4) 弥生上器 養類(その2)



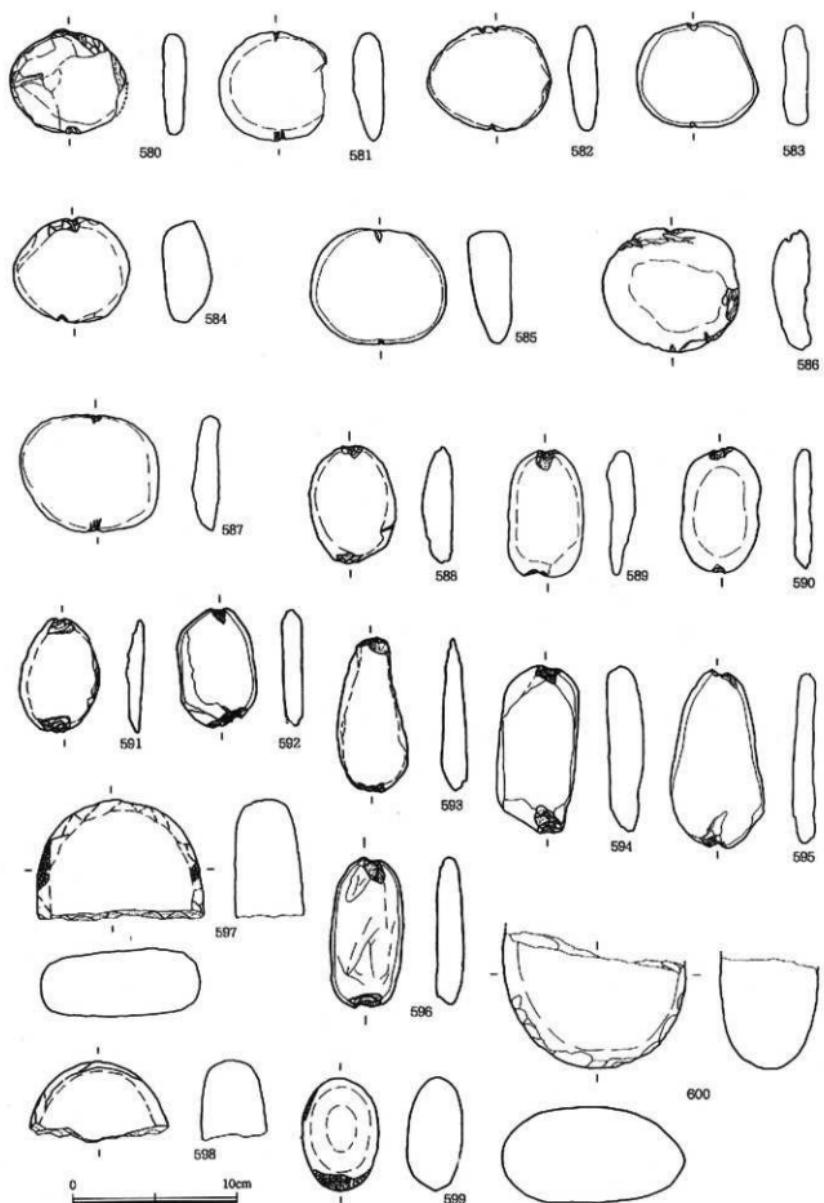
第192図 調査区出土石器実測図(1) 石鏨・十字型石器・石匙・刃器・スクレイパー・石包丁



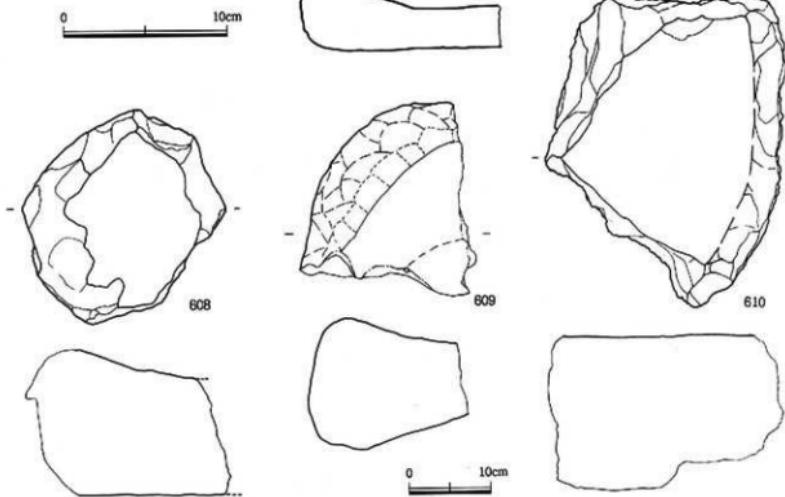
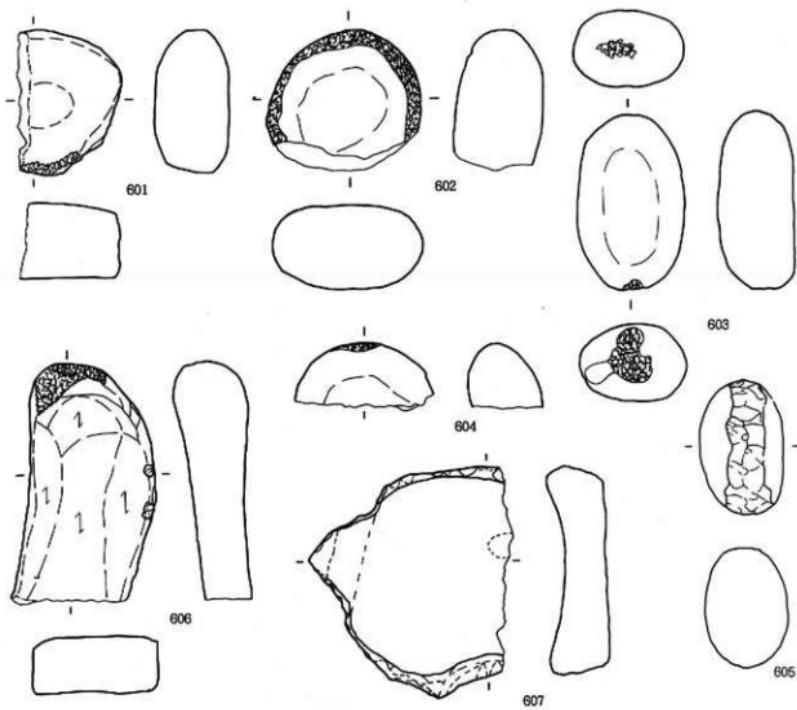
第193図 調査区出土石器実図(2) スクリバー・櫛器・敲き石(その1)



第194図 調査区出土石器実測図(3) 敲き石(その2)・石錐(その1)



第195図 調査区出土石器実測図(4) 石錐(その2)・すり石(その1)



第196図 調査区出土石器実測図(5) すり石(その2)・磁石・石皿・台石(607・609は2号住居出土)

## 6. 平安時代～中世

調査区の東南壁沿いにおいて、幅1～1.5m以上・深さ7～16cmの溝状遺構を検出した。出土遺物としては、微細な土師器片が少量ある。

## 7. まとめ

1～3号住居周辺の遺物包含層は厚く、遺構覆土も黒色系であったことから遺構上部10～15cmは遺物包含層として掘り下げている。結果的に3号住居などは痕跡程度になってしまった。

当遺跡においては、縄文時代前期の曾畠式土器が若干出土した。当時の集石に使用された焼石が遺物包含層に相当量含まれている。中期は断絶するが、後期に盛行し、堅穴住居が構築される。晩期～弥生時代中期までは再度断絶があり、後期に花弁状住居を構築する集落が営まれる。集落は古墳時代前期には廃絶するが、掘立柱建物も並立していたようである。古墳時代後期には、地下式横穴墓1基（小児用）が構築されるのみで、以後、土地利用が始まるのは中世頃からである。

## V. 竹之内遺跡の調査

### 1. はじめに

台地の西南部に広がる遺跡で、大部分が削平されてしまうことから、平成6年8月31日に調査に着手し、10月7日までにI～VI区（約2,800m<sup>2</sup>）の発掘調査を、残りのVII・VIII区（約9,900m<sup>2</sup>）を平成7年1月9日から2月17日まで調査した（第197～201図）。

遺構は、古墳時代と平安～近代までのものがあり、平成7年2月13日に完掘した後、自然流路2条と、基盤層（IV層、遺物包含層）の掘り下げを、VIII区中央北部において実施した。

調査面は1枚で、古墳時代の堅穴住居1軒、小型の方形堅穴5基のほか掘立柱建物跡2棟を含む柱穴群や円形土坑など、平安時代以降の掘立柱建物跡100棟を含む柱穴約3,000基ほか、堅穴状遺構7基、長方形土坑、円形土坑、溝状遺構、溜井、井戸などを検出した。

### 2. 基本的層序

層序は上から、I層：水田耕作土、II層：床土、IIIa層：暗茶灰～淡黒灰色土、IIIb層：黒～黒灰色土、IV層：淡黄褐色土、V層：アカホヤ火山灰に分別した。層序は上田代遺跡と同じであるがIVb層の黒色系の土は存在しない。反面、層厚は同じ位である。

遺構覆土が灰色系であれば近世～近代、IIIa層であれば室町時代、IIIb層であれば鎌倉時代、IIIb層+IV層上層もしくは茶灰色系であれば7世紀頃から平安時代、さらにIV層近似層であれば古墳時代の遺構と分類できる。

### 3. 繩文時代（第240図、図版157）

遺構は発見されなかったが、若干の遺物が出土している。4号自然流路から轟式系の土器（188）が、溝状遺構覆土やIVa層からは縄文時代後期を主とする土器や石鏃、石錐、石匙、石斧、すり石、石皿が出土している。

### 4. 弥生時代（第240・241図、図版158）

遺構は検出されなかったが、点々と遺物が出土した。中期の黒髪式土器が主であるが、磨製石鏃なども出土している。

### 5. 古墳時代

堅穴住居1軒と、掘立柱建物2棟、小型方形堅穴6基、円形土坑のほか、自然流路6条がある。

#### 1号堅穴住居（第202図、図版147・154）

東西2.7m、南北3.5～3.64mの隅円長方形を呈し、深さは18cmである。柱穴は、直径20～26cm、深さ5～25cmで、3隅と東部中央にある。中央pitは、長さ63cm・幅40cm・深さ8cmである。

出土遺物は若干の土師器と、長さ20~30cmの炭化材5点がある。

#### 4号櫛立柱建物跡（第203図）

梁行2間（2.73m）、桁行3間（4.55m）で、中間が狭い。主軸方位は、N71°Eである。平安時代までの時期幅がある。

#### 5号櫛立柱建物跡（第203図）

梁行1間（4.07m）、桁行2~3間（4.24m）と推定され、主軸方位は、S82°Eである。平安時代までの時期幅がある。

#### 1号土坑（SK-01、第204図、図版147・154）

東西1.7m、南北1.36mの隅円長方形で、深さ30cmである。中央やや西寄りに、直径20cm・深さ5cmの柱穴状掘り込みがある。その東側には、須恵器の台付鉢が寄せた状態で検出された。

#### 2号土坑（第204図、図版148）

一辺1.7mの隅円方形の南東辺中央に、長さ86cm・最大幅66cmの入口的スロープが付設されている。深さは30cmで、柱穴は無い。

#### 3号土坑（第204図）

長軸2m、短軸1.6mの不定形で、南西部に長さ104cm・幅64cmのスロープが付設されている。底面の深さは30cmで、南側中央に直径18cm・深さ50cmの小柱穴があるが、後世に属する可能性もある。覆土からは、土師器の細片が出土している。

#### 26号土坑（第204図）

長軸2.28m、短軸1.2~1.84mの長方形で、南隅に長さ40cm・幅60cmのスロープが付設されている。柱穴は無い。

#### 27号土坑（第204図）

東西2m内外、南北2.6mの略隅丸長方形で、南辺東寄りに長さ・幅1.28mの入口的掘り込みがある。北辺部には、直径32cm・深さ38cm、直径60cm・深さ37cmの柱穴がある。

#### 29号土坑（第204図）

東西1.56m、南北1.5~1.8mの隅丸長方形で、南辺中央に長さ63cm・幅50cmのスロープが付設されている。床面の深さは17cmで、柱穴は無い。

#### 42号土坑（図版154）

長軸96cm、短軸72cmの梢円形で、2段掘り、深さは8~16cmである。覆土から、土師器の壺半個体分が出土している。

#### 43号土坑（図版154）

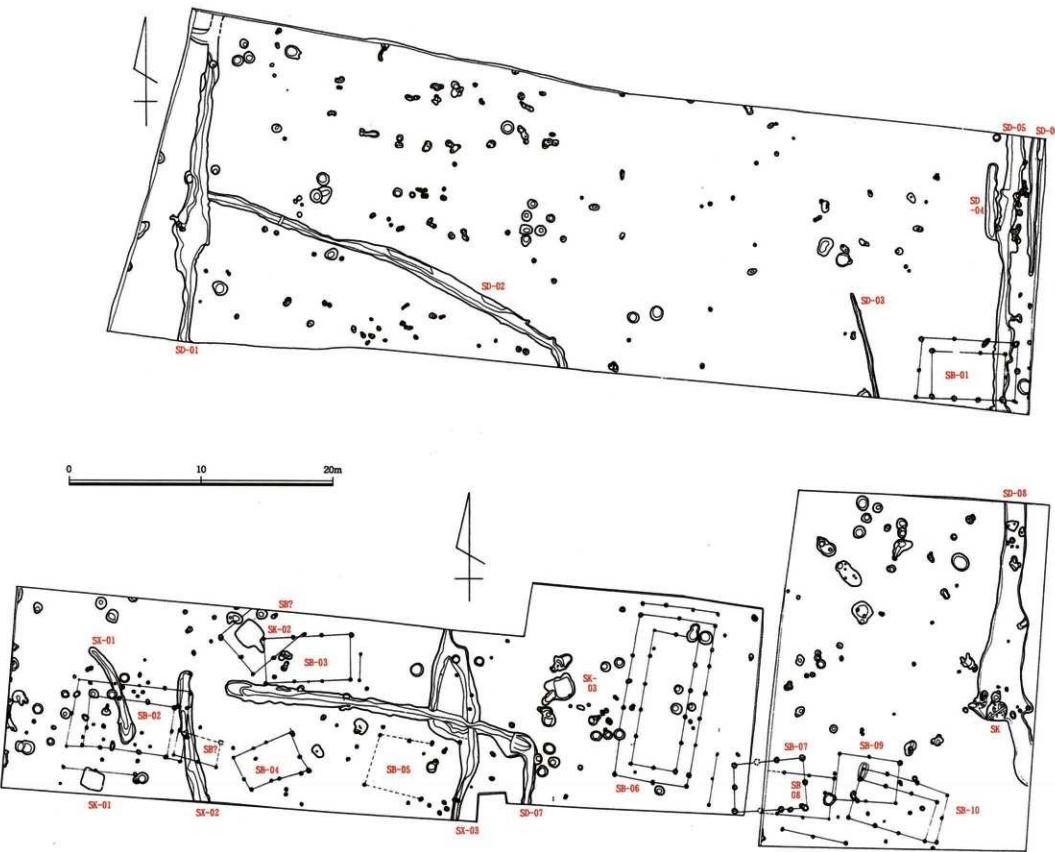
長軸2.5m、短軸1~2.2mの不定形土坑で、深さは9~17cmである。覆土から、土師器の広口壺が出土している。

#### 1号自然流路

長さ約8m・幅0.5~1.2m・深さ8cmで、彎曲している。



第197図 竹之内遺跡 遺構分布図 朱色は古墳時代



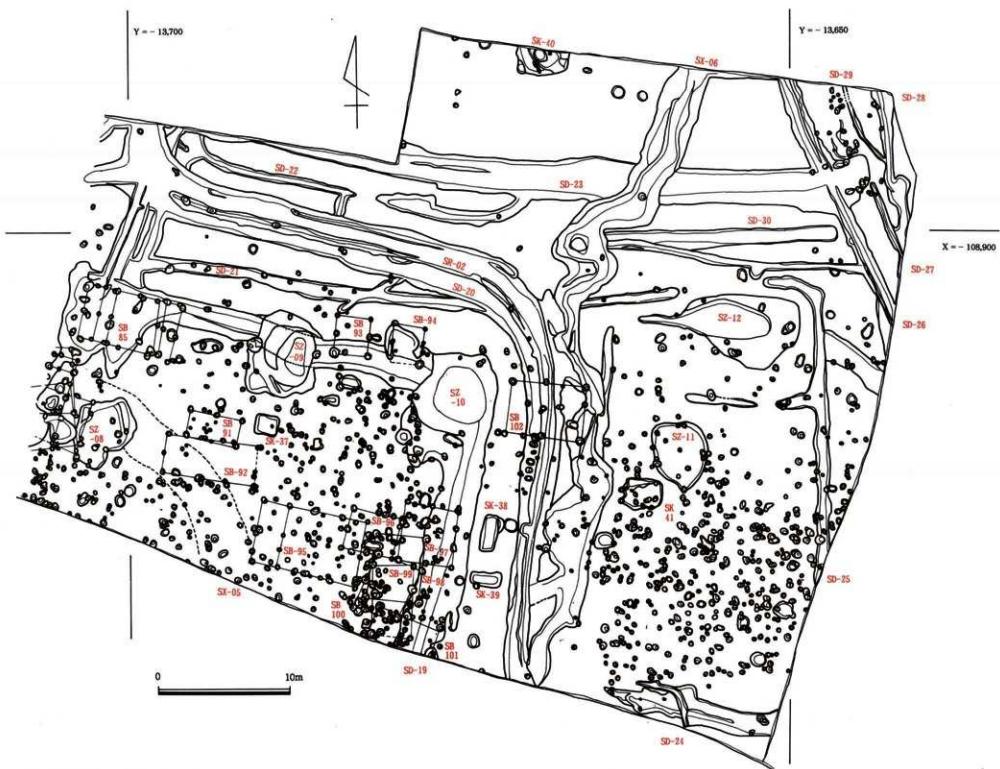
第198図 I～VI区 透構分布図



第199図 VII区 造構分布図



第200図 VII区西半部 遺構分布図



第201図 VII区東半部 造構分布図

## 2号自然流路

幅80~125cm・深さ3~10cmである。

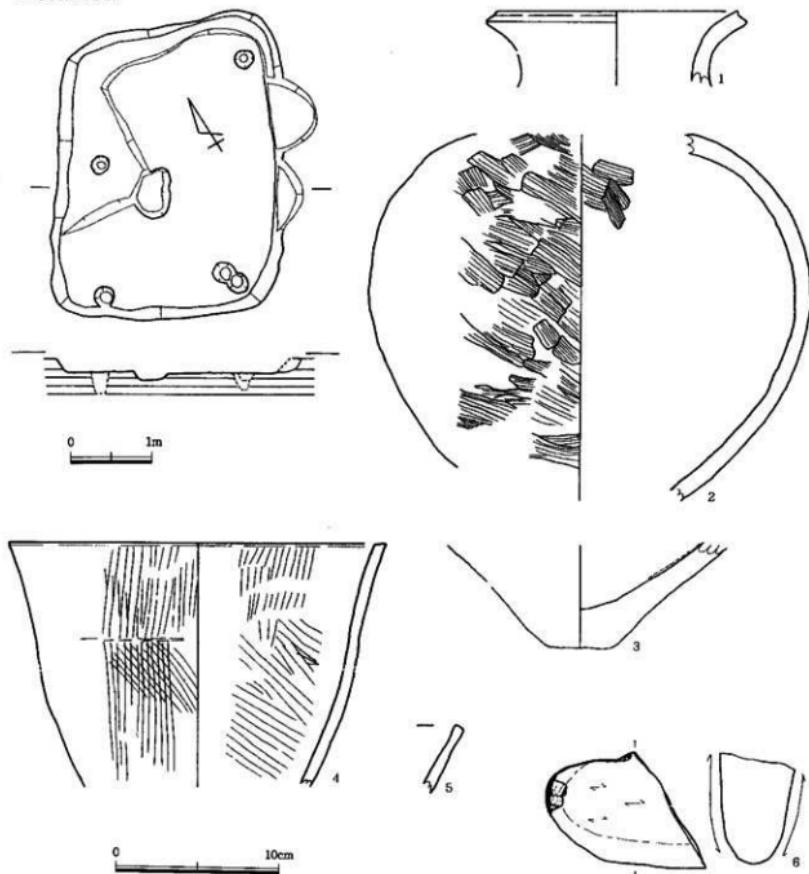
## 3号自然流路

幅50~137cm・深さ4~14cmで、北半部は2又に分かれている。

## 4号自然流路（図版153）

幅4.1~5.3m・深さ40~50cmで、中央寄り下層に粗砂・小砾が多く堆積している。覆土から、土師器片が約60点出土した。

## 5号自然流路



第202図 1号住居および出土遺物実測図

幅3.2~3.9m・深さ20~30cmで、若干の土師器片が出土した。

#### 6号自然流路（第207図）

幅1.64~4.24m・深さ11~51cmで、蛇行している。覆土は粗細砂・小礫を多く含み、多量の土師器細片と若干の須恵器片を含む。

### 6. 平安時代

平安期と断定できる遺構は無いが、6号と30~36号掘立柱建物跡は方位を同じくし、覆土から輸入陶磁器が出土していないので、平安末~鎌倉初期を想定している。

遺物はVII区に集中し、遺物包含層と81号掘立柱建物内の柱穴（PP）から墨書き器（第243図-273・274）が出土している。

### 7. 中世

調査区全体に遺構が広がり、I区東端~VI区・VII区西半部に掘立柱建物跡が集中し、66棟+数10棟分の柱穴群の他、竪穴状遺構4条、大型土坑1基などがある。

#### 1号掘立柱建物跡（第208図）

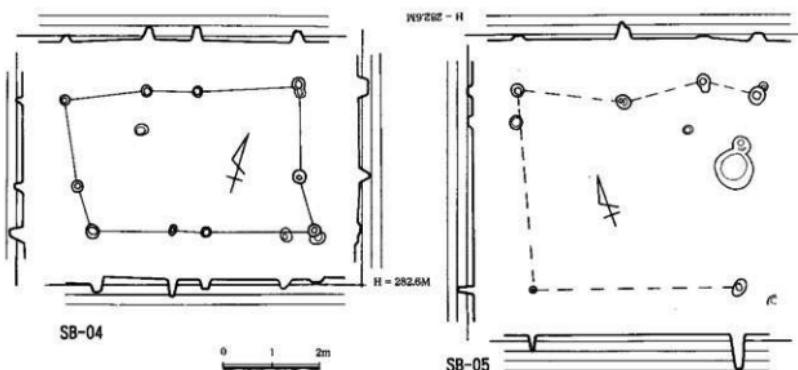
梁行1間（3.46m）、桁行3間（5.21m）で、3面（北・西・東）に廟を有する。主軸方位は、N83°Wである。

#### 2号掘立柱建物跡（第208図）

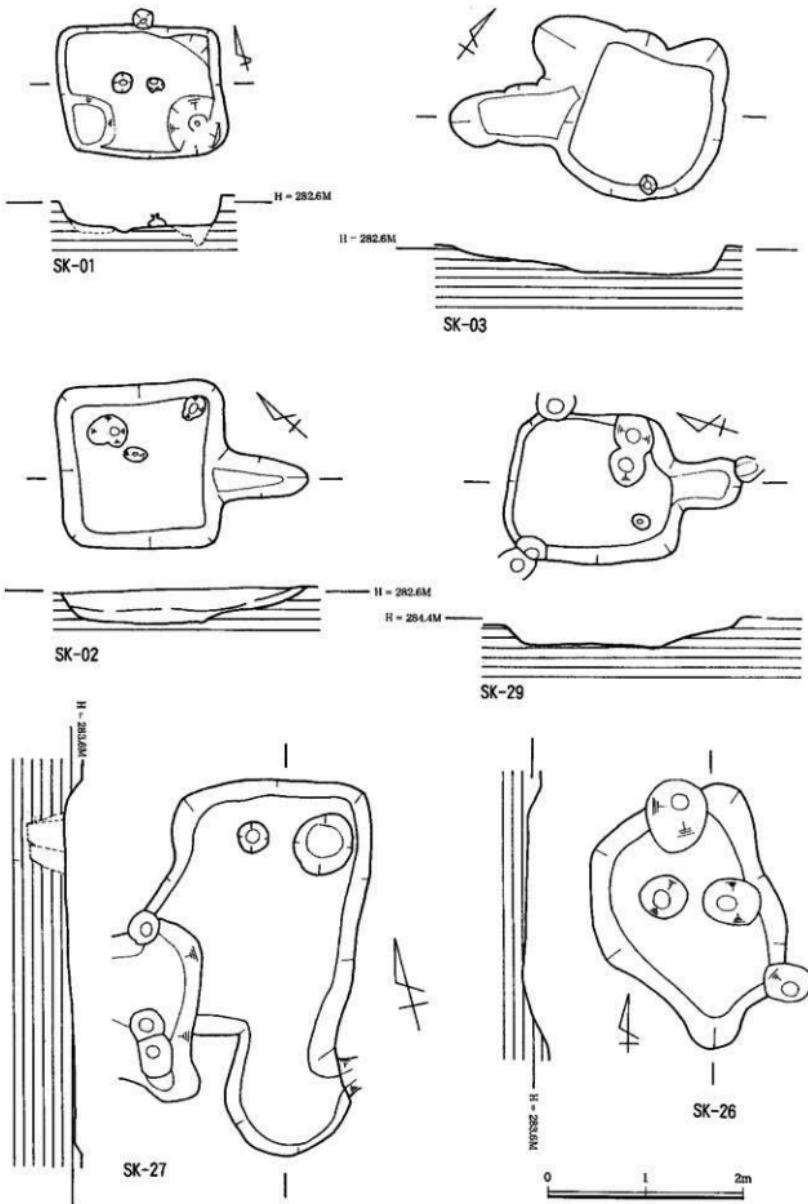
梁行2間（3.86m）、桁行3間（6.25m）で、3面（北・西・東）に廟を有する。主軸方位は、N85°Wである。

#### 3号掘立柱建物跡（第208図）

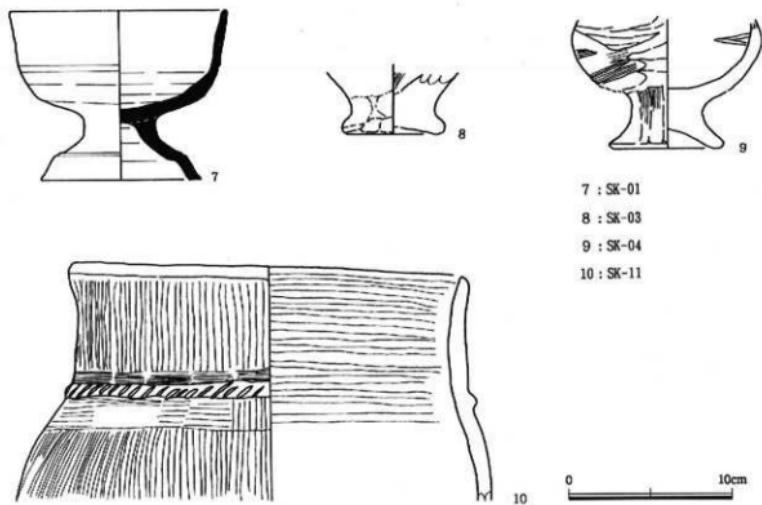
梁行1間（3.28m）、桁行3間（6.27m）で、主軸方位はN80°Eである。



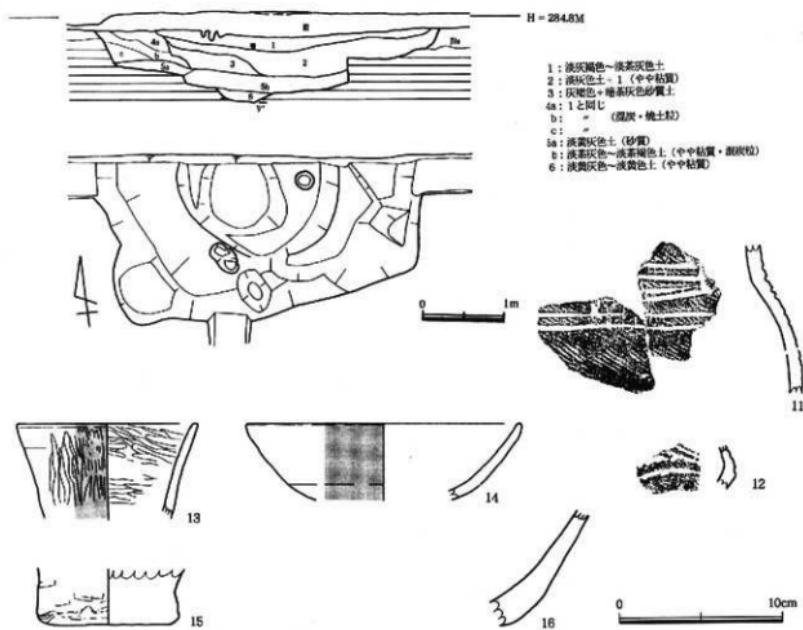
第203図 04・05号掘立柱建物跡 遺構実測図



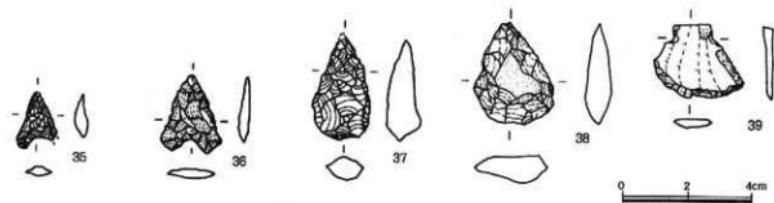
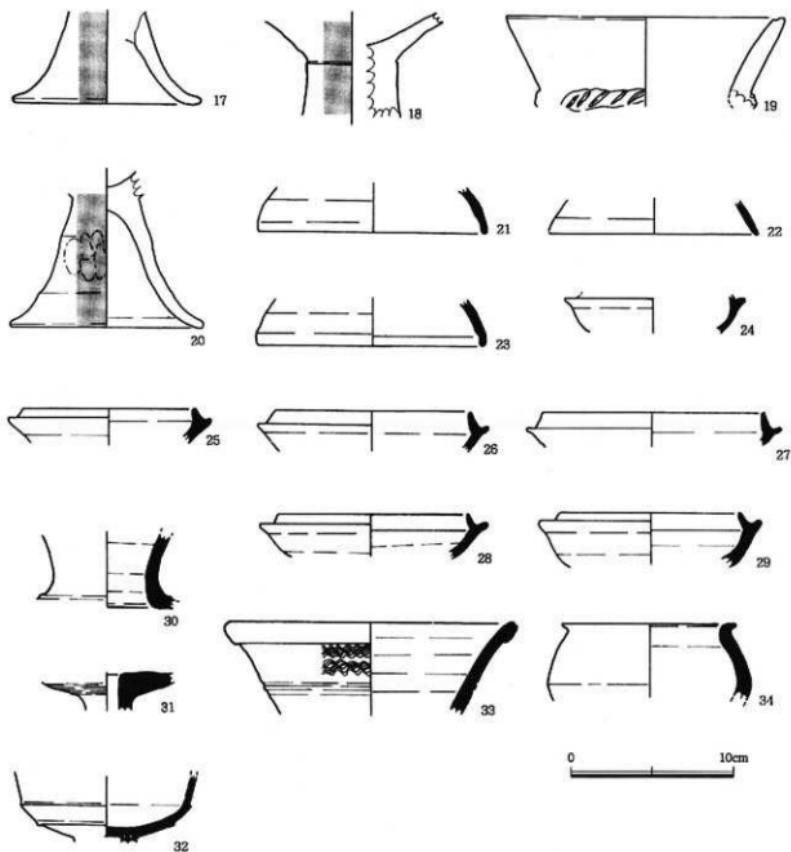
第204図 小型方形整穴状遺構実測図



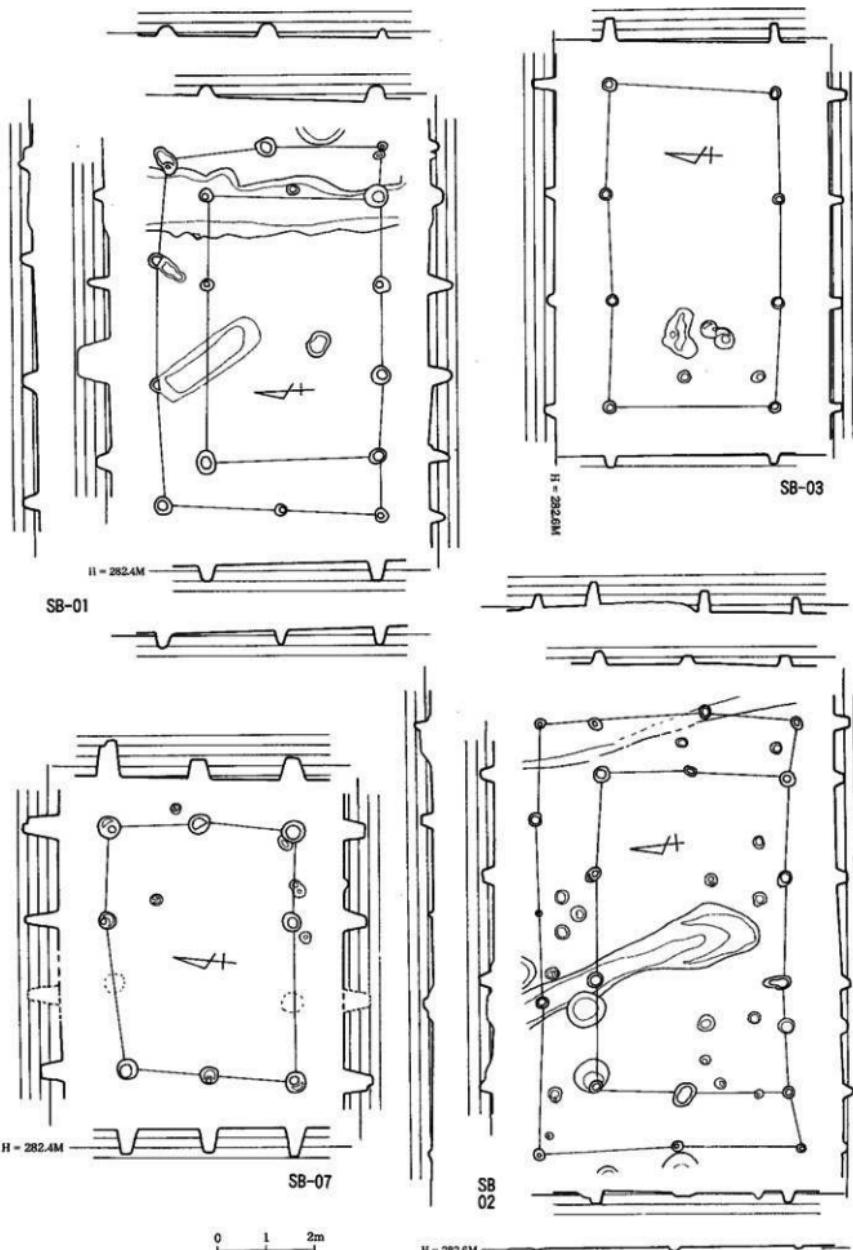
第205図 1・3・4・11号土坑出土遺物実測図



第206図 40号土坑および出土遺物実測図



第207図 6号自然流路出土遺物実測図 土師器・須恵器・石鏡・石匙



第208図 01～03、07号掘立柱建物跡 遺構実測図

#### 6号掘立柱建物跡（第209図）

梁行2間（3.42m）、桁下5間（10.12m）で、四面廂を有する。建物跡の中で最も桁行が長いが柱穴は直径25cm内外、柱根は10cm内外と小さい。主軸方位は、N7°Eである。北側と東南側には、付属する可能性のある柵列がある。

#### 7号掘立柱建物跡（第208図）

梁行2間（3.39m）、桁行3間（5.20m）で、周囲の建物群の中では最も柱穴が大きく、直径35～45cmである。主軸方位は、N84°Eである。

#### 8号掘立柱建物跡（第209図）

梁行1間（3.06m）、桁行3間（6m弱）と推定され、主軸方位はN84°Wである。北西端の柱穴から14～15世紀の陶磁器片が出土している。

#### 9号掘立柱建物跡（第210図）

梁行1間（3.34m）、桁行2間（4.55m）で、主軸方位はN81°Wである。

#### 10号掘立柱建物跡（第210図）

梁行1間（3.05m）、桁行3間（5.96m）で、2面（北・東）に廂を有する。主軸方位は、N73°Wである。

#### 29号掘立柱建物跡（第214図）

梁行2間（4.43m）、桁行3間（6.53m）で、主軸方位はN11°Eである。

#### 30号掘立柱建物跡（第214図）

梁行2間（3.96m）、桁行3間（5.93m）で、北面に廂を有する。主軸方位は、N77°Wである。

#### 31号掘立柱建物跡（第215図）

梁行2間（5m）、桁行4間（8.15m）で、2面（北・東）に廂を有する。主軸方位は、N80°Wである。

#### 32号掘立柱建物跡（第215図）

梁行2間（5.07m）、桁行4間（7.9m）で、3面（北・西・南）に廂を有する。主軸方位は、N78°Wである。

#### 33号掘立柱建物跡（第214図）

梁行1間（4.02m）、桁行2間（4.36m）で、東面に廂を有する。主軸方位は、N78°Wである。

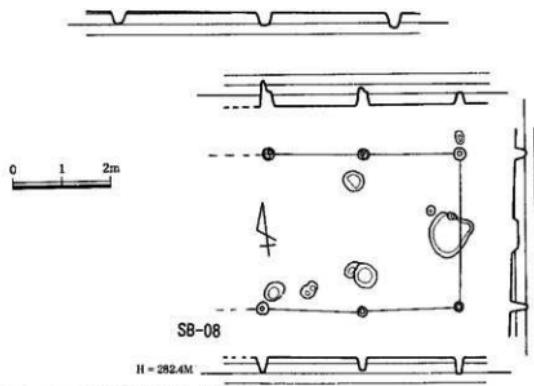
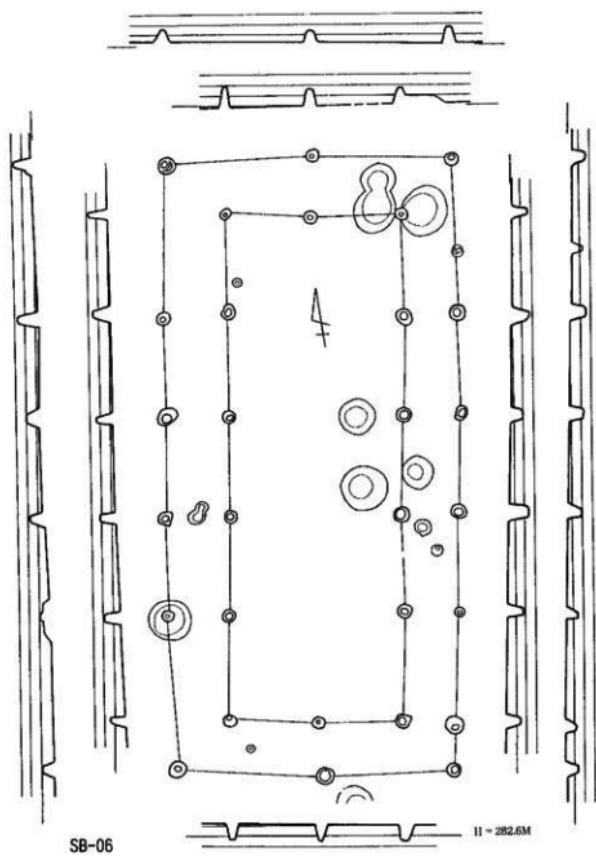
#### 34号掘立柱建物跡（第214図）

梁行1間（2.88m）、桁行2間（3.91m）で、東面に廂を有する。主軸方位は、N14°Eである。

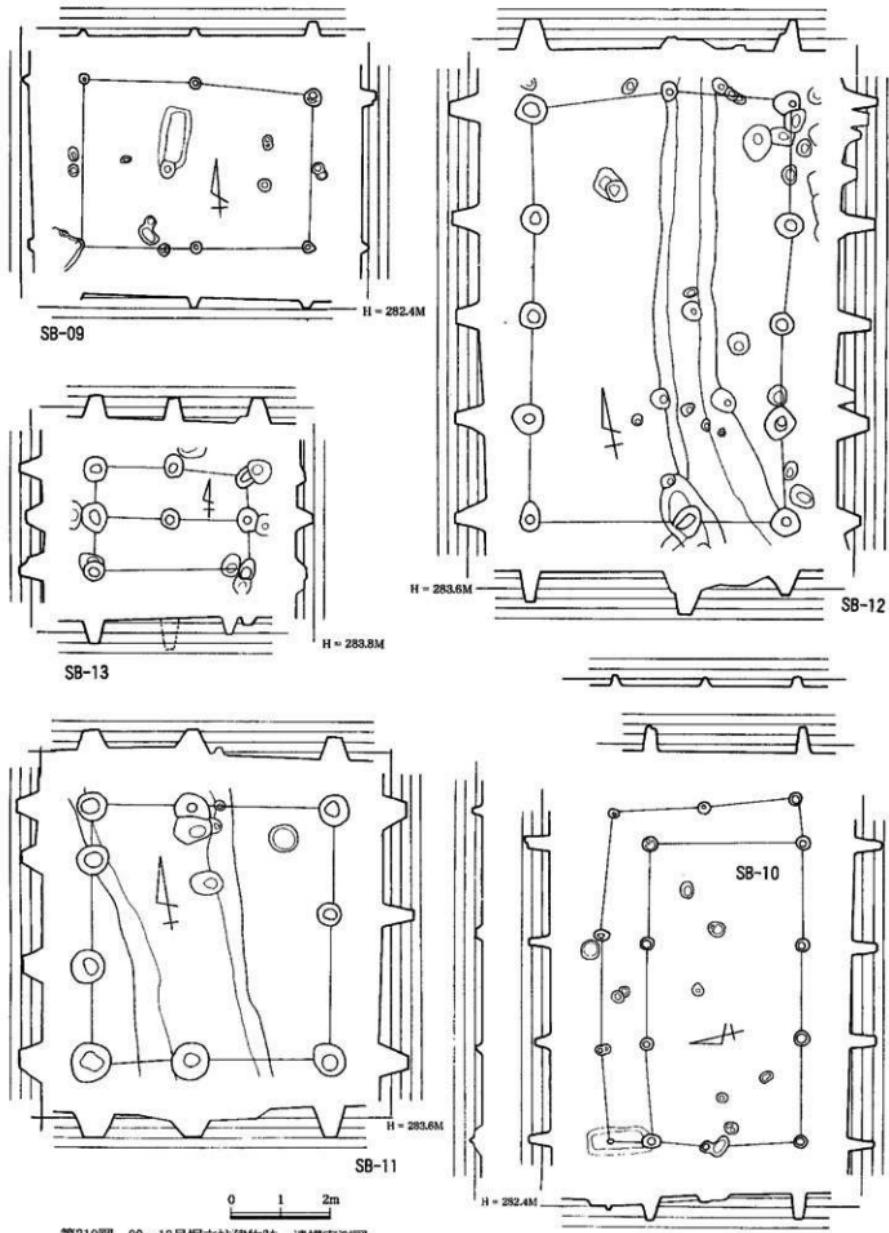
#### 35号掘立柱建物跡（第216図）

3～4回の建て替え（A～C）があり、遺構検出時の柱穴の切り合いで、A棟→B棟→34号→C棟の順と判断した。主軸方位は、N12°Eである。

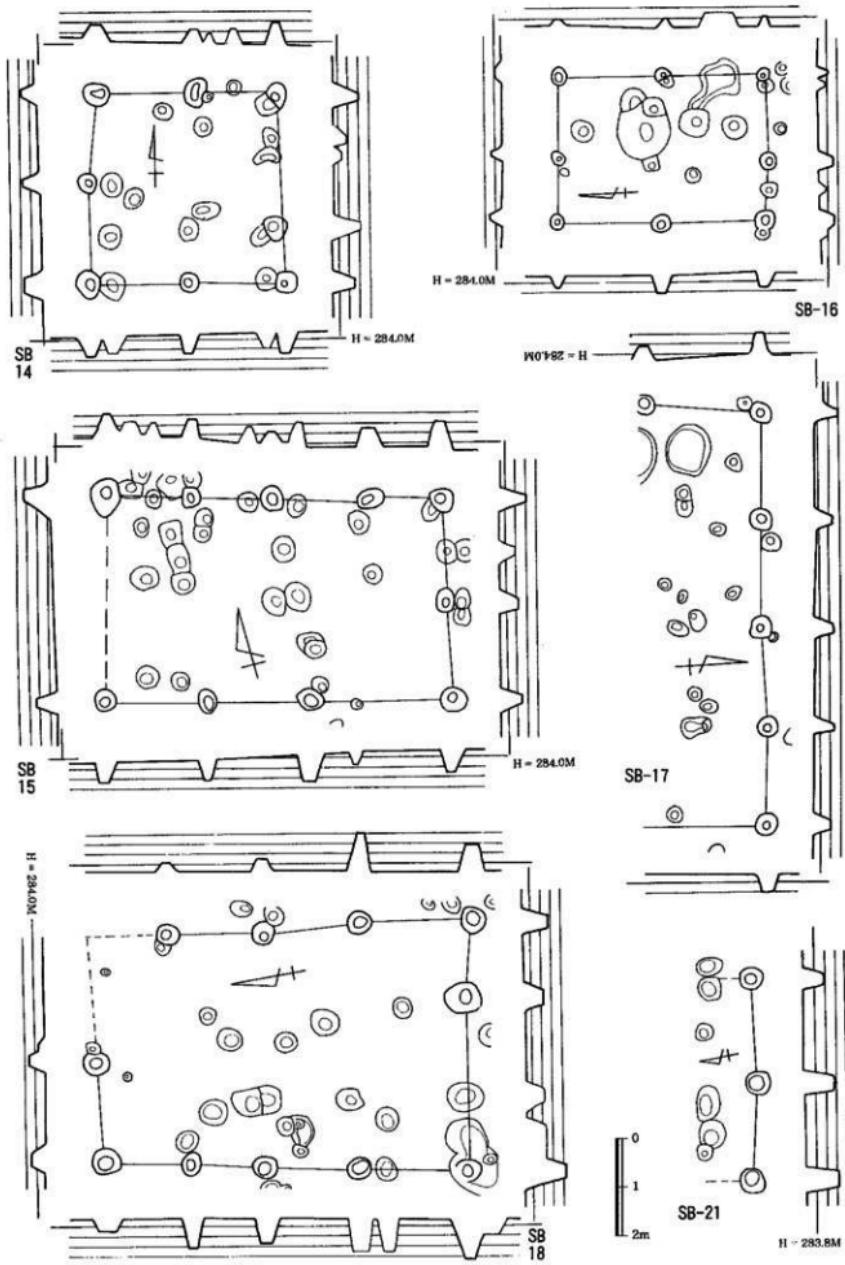
A棟は梁行1間（4.25m）、桁行2間（4.95m）と思われ、南面に廂を有する。B棟は梁行2間（4.2m）、桁行3間（6.65m）で南面に廂を有する。C棟は不明瞭であるが、梁行2間（4.4m）、桁行2間（4.25m）



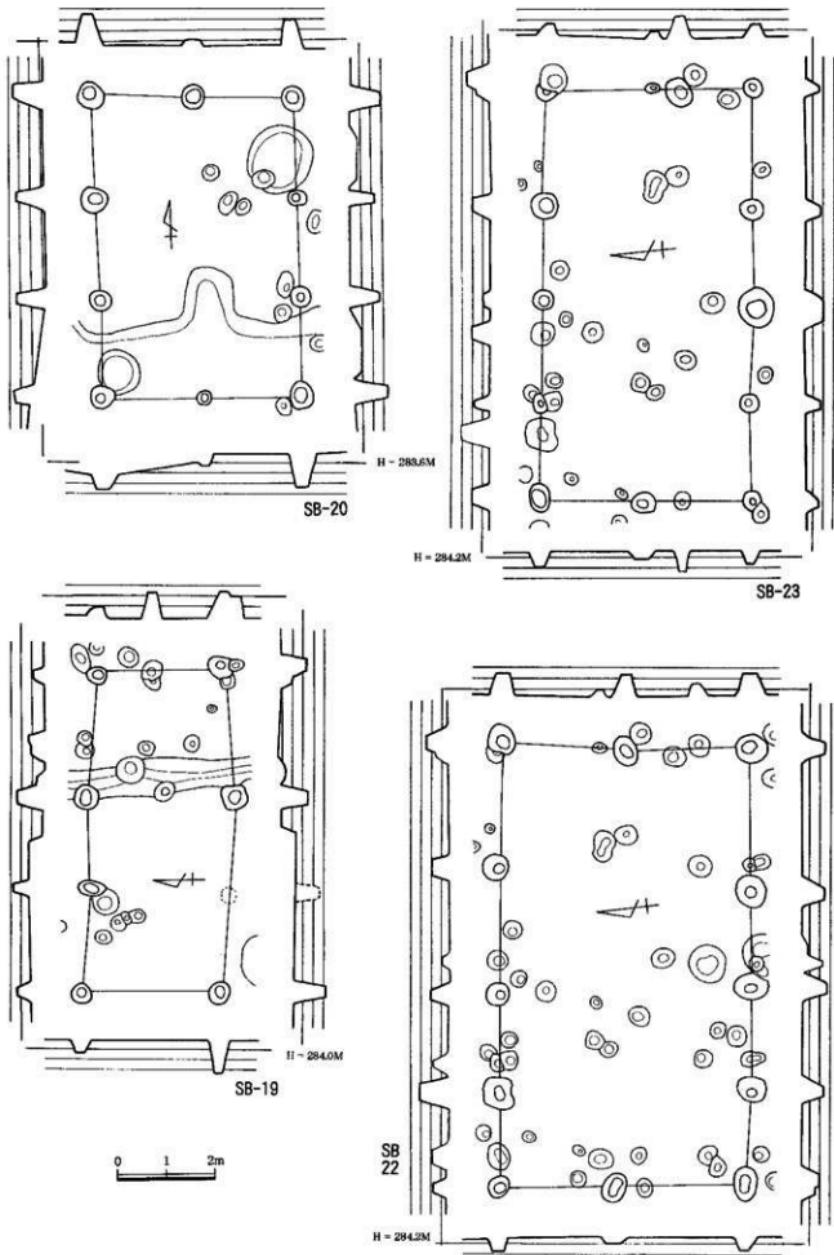
第209図 06・08号掘立柱建物跡 遺構実測図



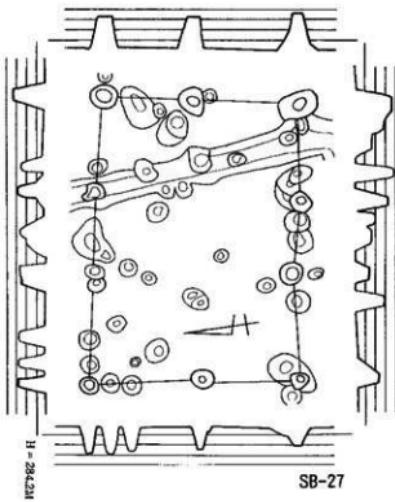
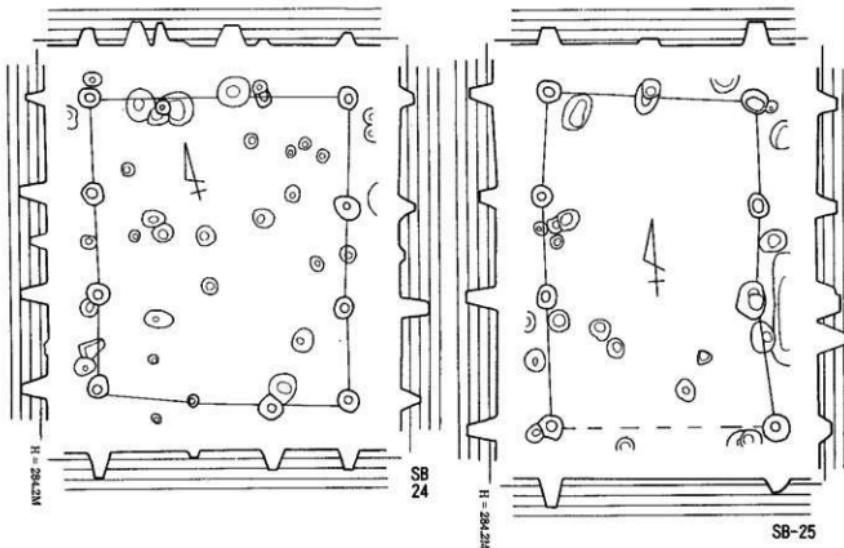
第210図 09～13号掘立柱建物跡 遺構実測図



第211图 14~18、21号掘立柱建物跡 遺構実測図

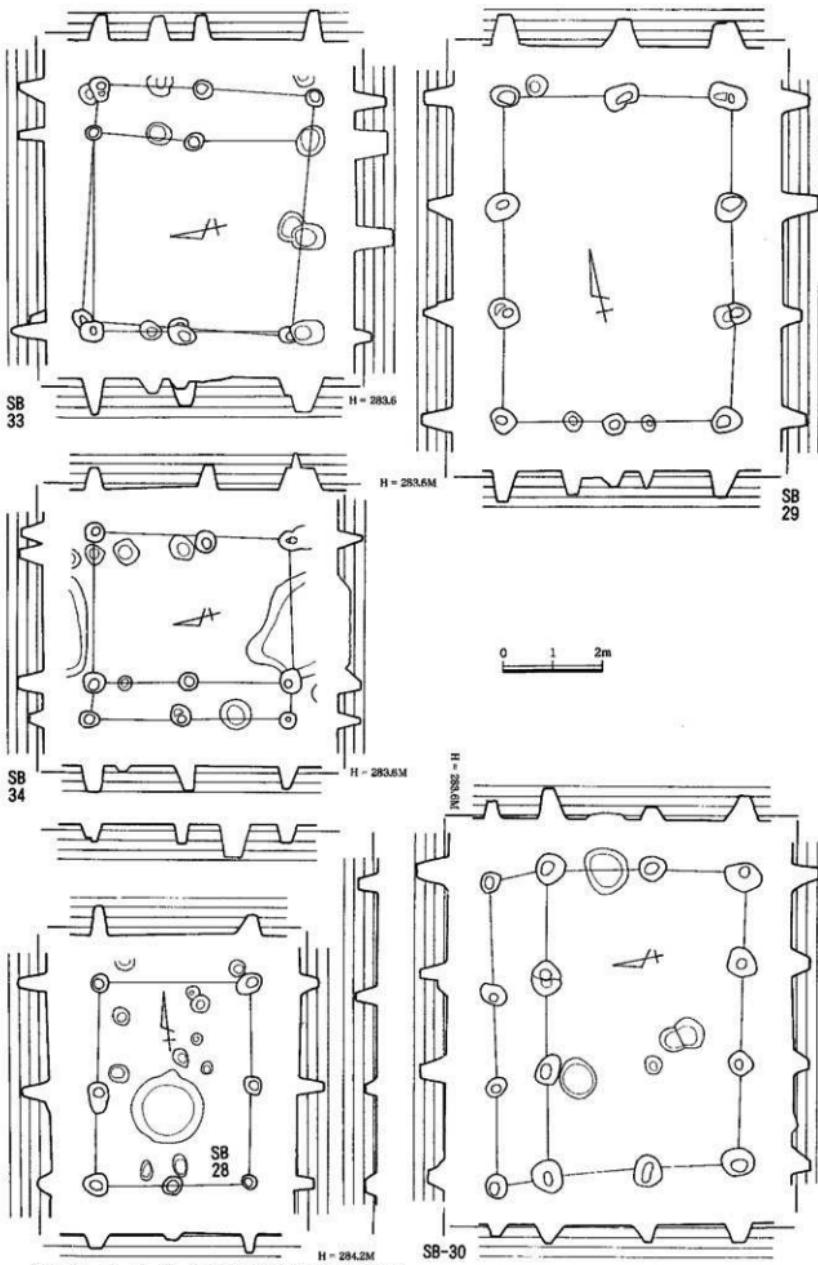


第212図 19・20・22・23号鋼立柱建物跡 遺構実測図

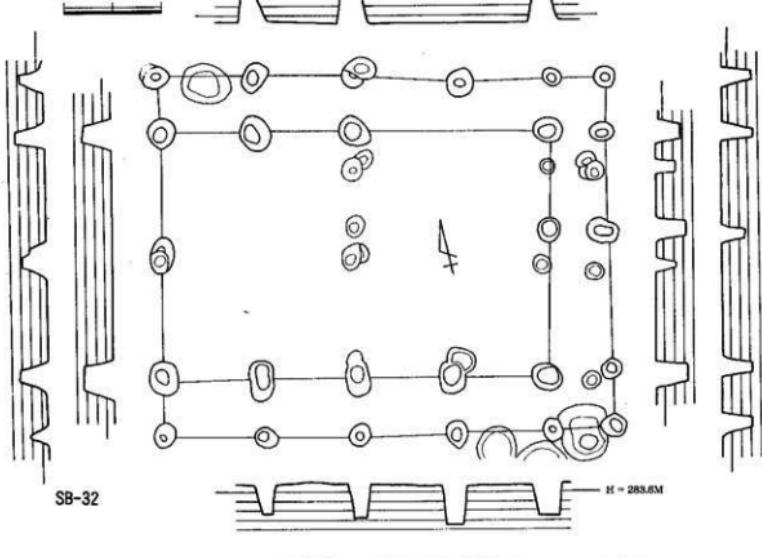
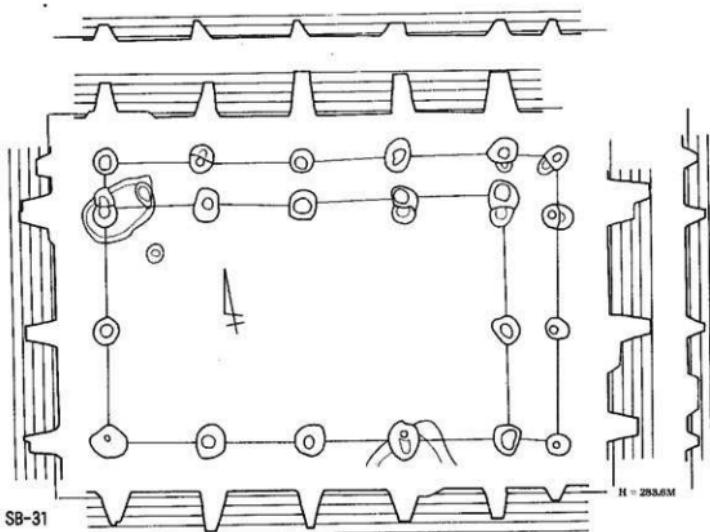


0 1 2m

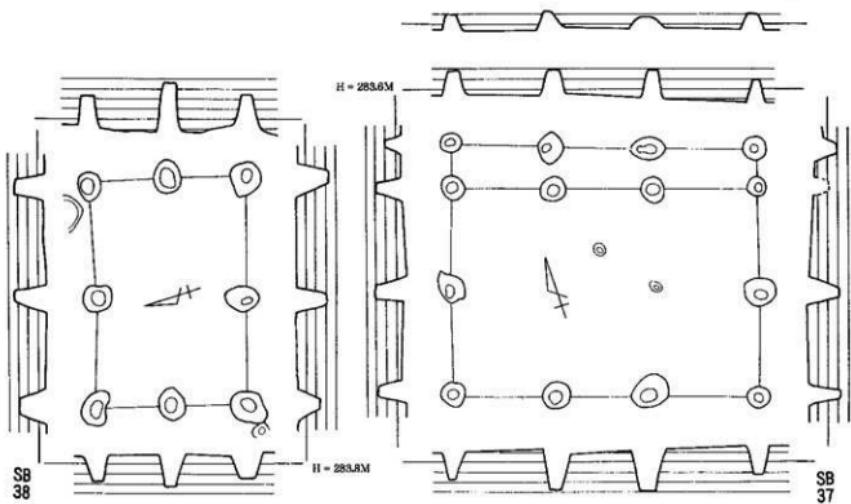
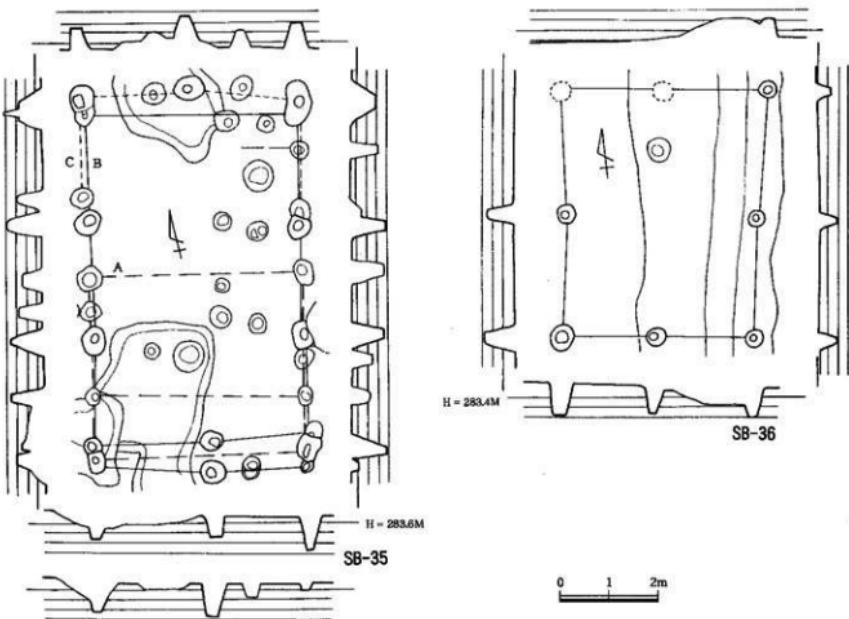
第213図 24~27号掘立柱建物跡 遺構実測図



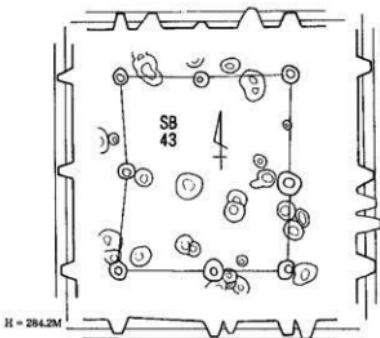
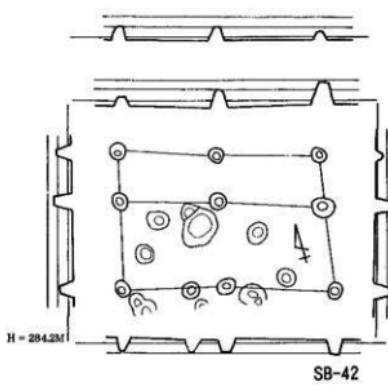
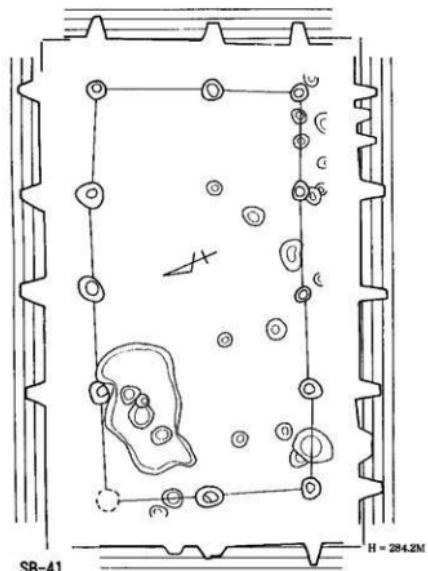
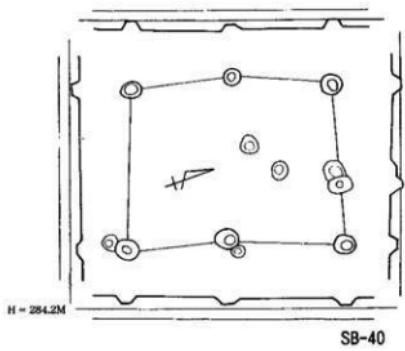
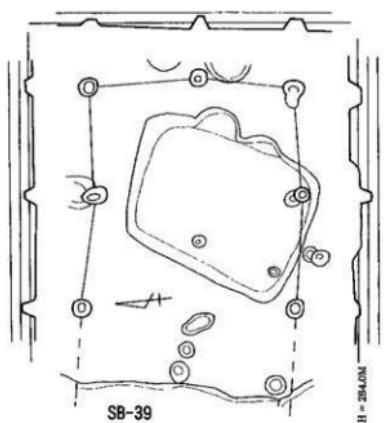
第214図 28~30、33・34号掘立柱建物跡 精密実測図



第215図 31・32号孤立柱建物跡 遺構実測図



第216図 35~38号掘立柱建物跡 造構実測図



0 1 2m

第217図 39~43号掘立柱建物跡 道構尖頭圖

と推定される。

**36号掘立柱建物跡（第216図）**

梁行2間（3.76m）、桁行2間（4.99m）で、主軸方位はN10° Eである。

**37号掘立柱建物跡（第216図）**

梁行2間（4.16m）、桁行3間（6.09m）で、北面に廂を有する。主軸方位は、N72° Wである。

**38号掘立柱建物跡（第216図）**

梁行2間（3.04m）、桁行3間（4.59m）で、主軸方位は、N73° Wである。

**39号掘立柱建物跡（第217図）**

梁行2間（4.08m）、桁行2間（4.40m）～3間と思われ、主軸方位はN86° Wである。

**40号掘立柱建物跡（第217図）**

梁行2間（3.18m）、桁行2間（4.33m）で、主軸方位はN19° Eである。

**41号掘立柱建物跡（第217図）**

梁行2間（4.01m）、桁行4間（8.15m）で、主軸方位はN65° Wである。

**42号掘立柱建物跡（第217図）**

梁行1間（1.79m）、桁行2間（4.22m）で、北面に廂を有する。主軸方位はN74° Wである。

**43号掘立柱建物跡（第217図）**

梁行2間（3.38m）、桁行2間（3.89m）で、主軸方位はN2° Wである。

**44号掘立柱建物跡（第218図）**

梁行2間（4.05m）、桁行2間（4.11m）で、主軸方位はN13° Eである。

**45号掘立柱建物跡（第218図）**

梁行2間（3.57m）、桁行2間（4.34m）で、主軸方位はN22° Eである。

**46号掘立柱建物跡（第218図）**

梁行1間（2.88m）、桁行2間（4.14m）で、主軸方位はN15° Eである。

**47号掘立柱建物跡（第218図）**

梁行2間（4.07m）、桁行4間（8.24m）で、主軸方位はN20° Eである。

**48号掘立柱建物跡（第218図）**

梁行2間（3.85m）、桁行3間（4.04m）もしくは南に1間延びる建物で、主軸方位はN31° Eである。

**49号掘立柱建物跡（第219図）**

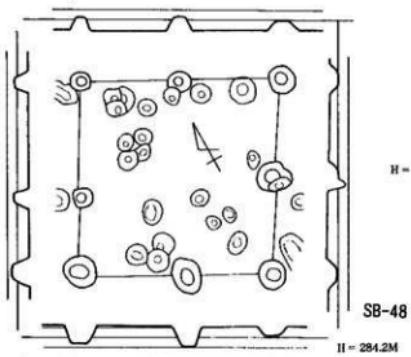
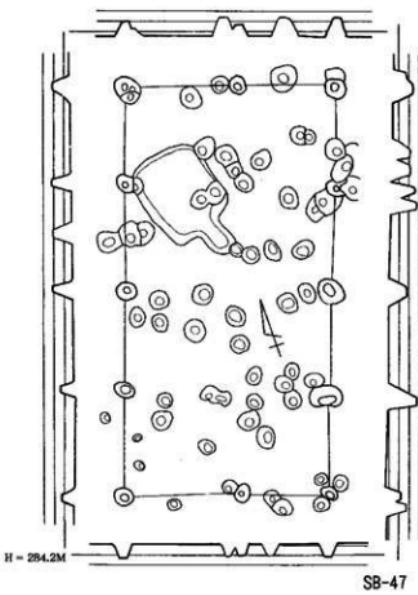
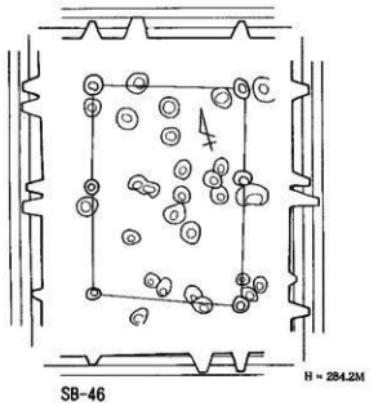
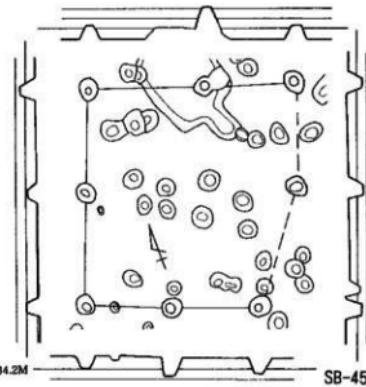
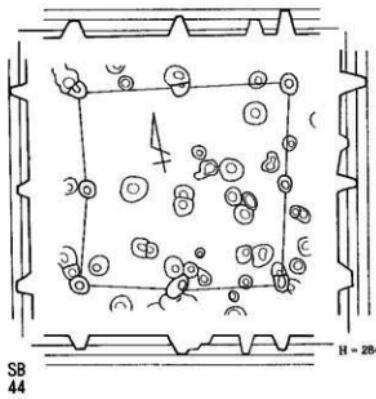
梁行2間（4.96m）、桁行3間（6.12m）で、主軸方位はN58° Wである。

**50号掘立柱建物跡（第219図）**

梁行2間（3.28m）、桁行2間（4.47m）で、主軸方位はN23° Eである。

**51号掘立柱建物跡（第219図）**

梁行2間（2.85m）、桁行2間（4.82m）で、主軸方位はN81° Wである。



0 1 2m

第218図 44~48号掘立柱建物跡 遺構平面図

#### **52号掘立柱建物跡（第219図）**

梁行2間（3.05m）、桁行3間（4.41m）で、主軸方位はN88°Wである。

#### **53号掘立柱建物跡（第219図）**

梁行1間（3.87m）、桁行3間（5.72m）で、主軸方位はN8°Eである。

#### **54号掘立柱建物跡（第220図）**

梁行2～3間（4.94m）、桁行3間（5.85m）で、北面に廂を有する。主軸方位はN83°Wである。

#### **55号掘立柱建物跡（第220図）**

梁行2間（3.36m）、桁行3間（6.59m）で、北面に廂を有する。主軸方位はN79°Wである。

#### **56号掘立柱建物跡（第220図）**

梁行1間（3.26m）、桁行2間（4.37m）で、主軸方位はN16°Eである。

#### **57号掘立柱建物跡（第220図）**

梁行2間（4.01m）、桁行2間（4.26m）で、主軸方位はN84°Wである。

#### **58号掘立柱建物跡（第220図）**

梁行2間（3.21m）、桁行2間（4.13m）で、主軸方位はN8°Eである。

#### **59号掘立柱建物跡（第221図）**

梁行1間（2.18m）、桁行2間（3.35m）で、主軸方位は東西である。

#### **60号掘立柱建物跡（第221図）**

梁行2間（3.25m）、桁行2間（3.72m）で、主軸方位はN87°Wである。

#### **61号掘立柱建物跡（第221図）**

梁行2間（3.19m）、桁行2間（4.25m）で、主軸方位はN79°Wである。

#### **62号掘立柱建物跡（第221図）**

梁行2間（3.89m）、桁行4間（7.95m）で、南面に廂を有する。主軸方位はN80°Wである。

#### **63号掘立柱建物跡（第221図）**

梁行2間（2.65m）、桁行2間（3.57m）で、主軸方位はN6°Eである。

#### **64号掘立柱建物跡（第222図）**

梁行2間（4.14m）、桁行2間（5.03m）の総柱建物で、主軸方位は南北である。

#### **65号掘立柱建物跡（第222図）**

梁行2間（4.12m）、桁行2間（4.71m）で、主軸方位はN84°Wである。

#### **66号掘立柱建物跡（第222図）**

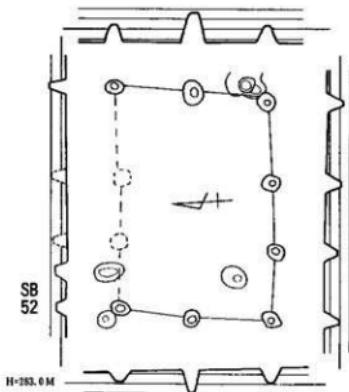
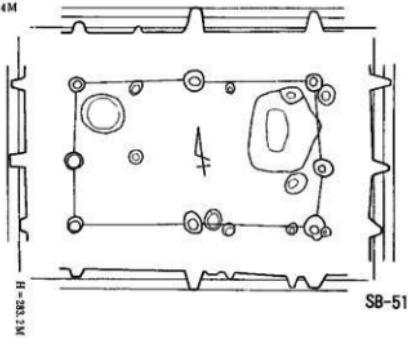
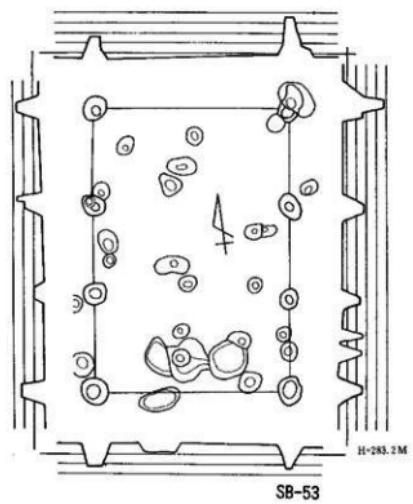
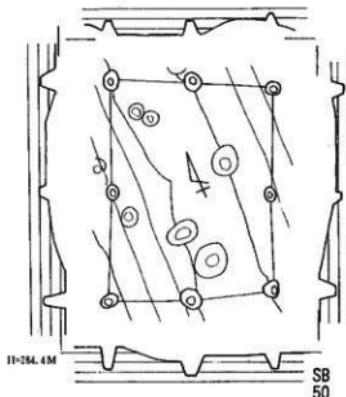
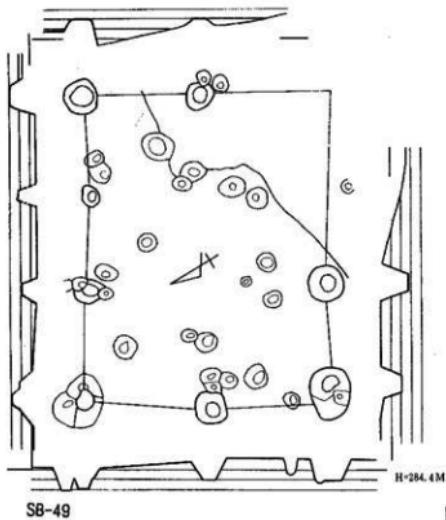
梁行2間（3.58m）、桁行3間（5.57m）で、主軸方位はN74°Wである。

#### **67号掘立柱建物跡（第222図）**

梁行2間（3.76m）、桁行2間（3.95m）で、主軸方位はN71°Wである。

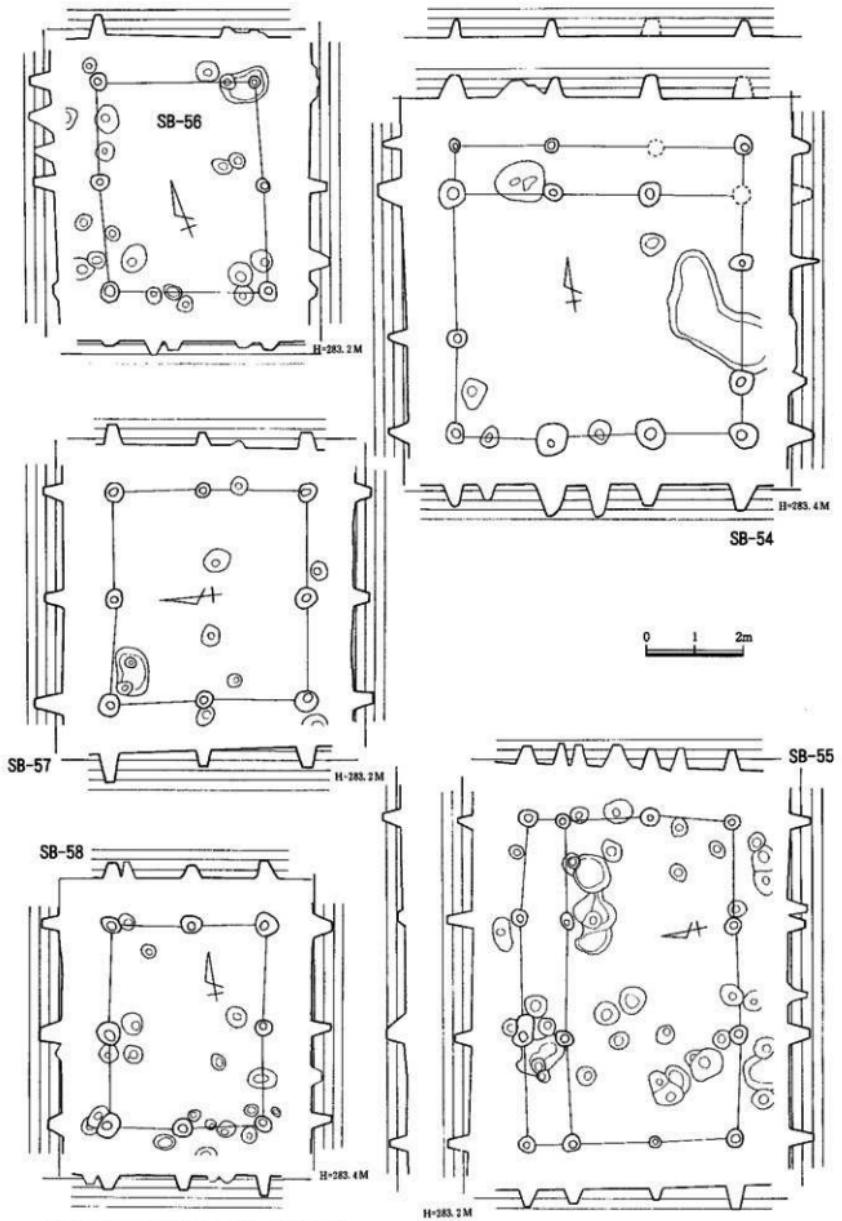
#### **68号掘立柱建物跡（第222図）**

梁行2間（3.94m）、桁行3間（6.34m）で、主軸方位はN79°Wである。

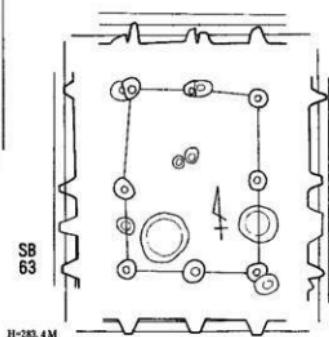
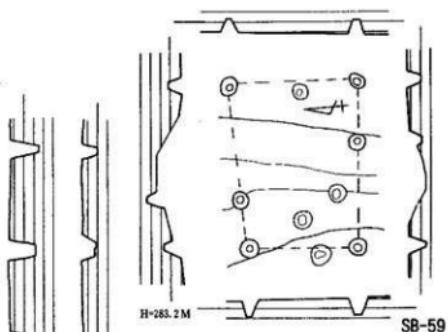
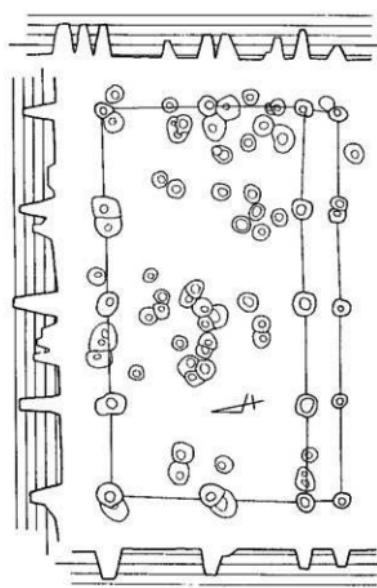
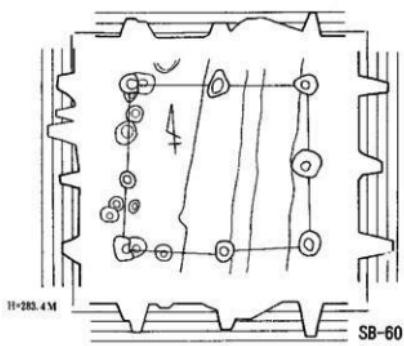
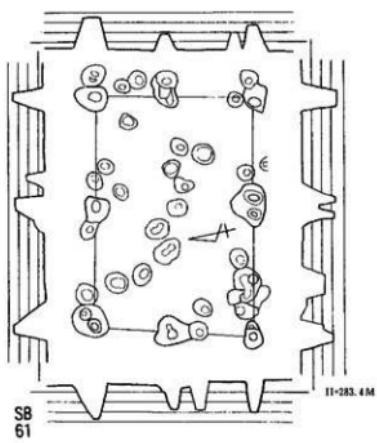


0 1 2m

第219図 49~53号掘立柱建物跡 遺構実測図

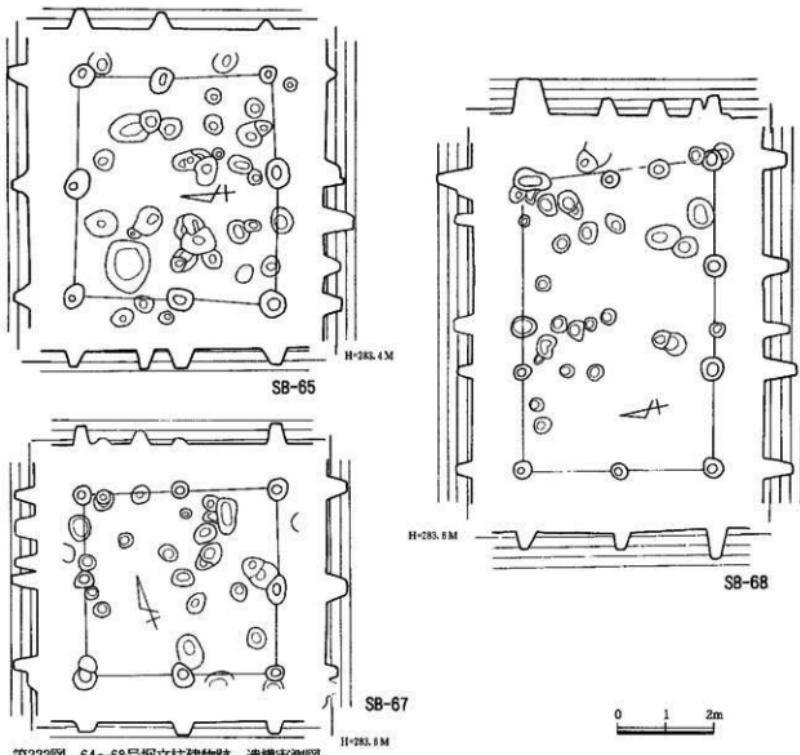
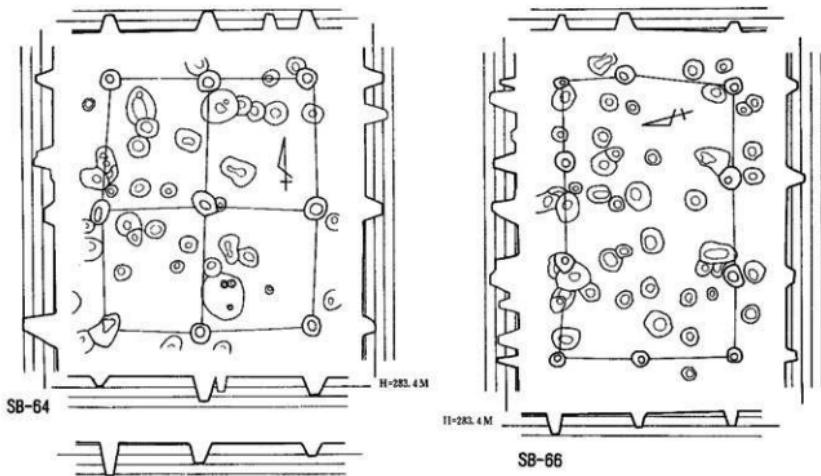


第220図 54~58号掘立柱建物跡 遺構実測図



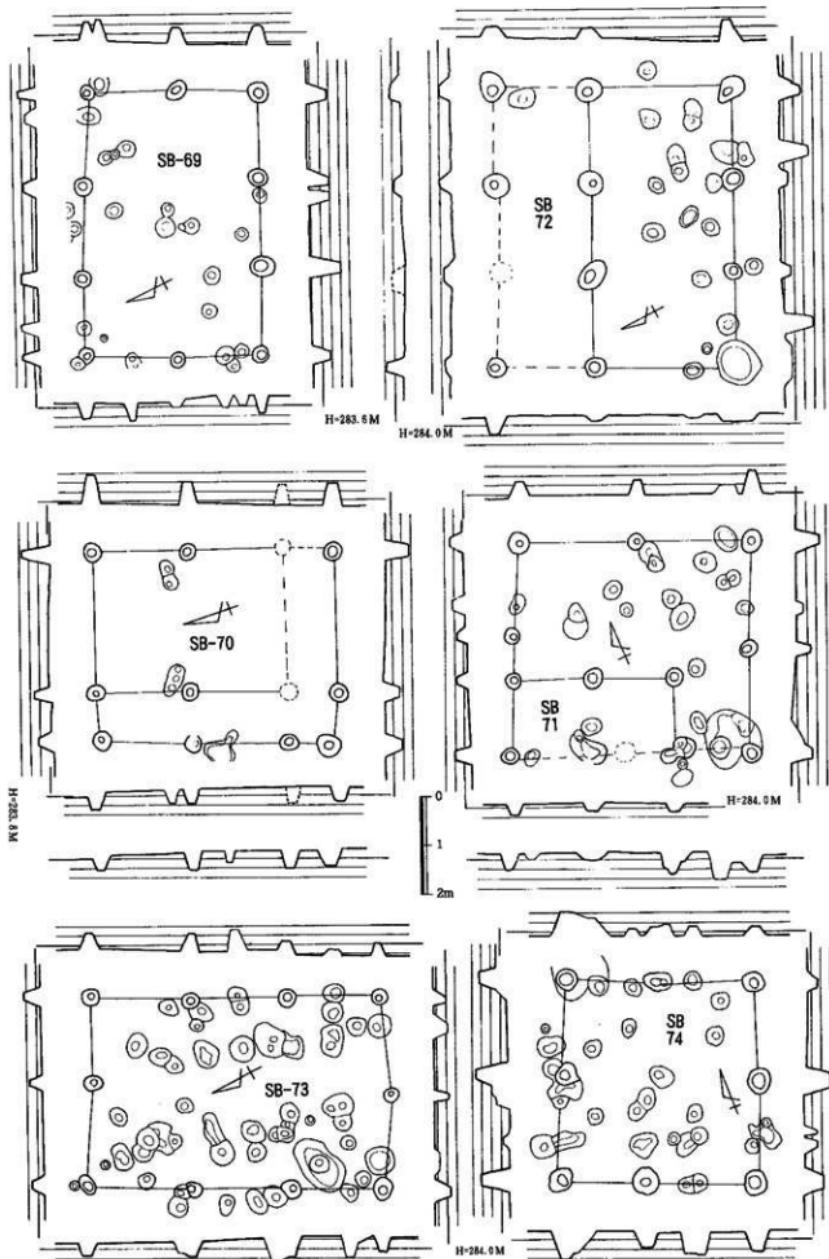
0 1 2m

第221図 59~63号掘立柱建物跡 造構実測図



0 1 2m

第222図 64～68号掘立柱建物跡 遺構実測図



第223图 69~74号孤立柱建筑物跡 造構実測図

#### **69号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行2間（3.79m）、桁行3間（5.64m）で、主軸方位はN64°Wである。

#### **70号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行1間（3.01m）、桁行2間（4.05m）で、2面（西・南）に廂を有する。主軸方位は、N18°Eである。

#### **71号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行2間（4.46m）、桁行2～3間（5.13m）で、南西部に1間×2間の間仕切りを有する。主軸方位は、N66°Wである。

#### **72号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行1間（2.92m）、桁行3間（5.89m）と推定され、主軸方位はN63°Wである。

#### **73号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行2間（4.07m）、桁行3間（6.14m）で、主軸方位はN29°Wである。

#### **74号掘立柱建物跡（第223図）**

梁行2間（4.03m）、桁行2間（4.21m）で、主軸方位はN24°Wである。

#### **75号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行2間（3.98m）、桁行3間（5.26m）で、主軸方位はN23°Eである。

#### **76号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行1間（2.03m）、桁行3間（5.93m）で、主軸方位はN15°Eである。

#### **77号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行1間（2.38m）、桁行2間（3.70m）で、主軸方位はN80°Wである。

#### **78号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行2間（4.07m）、桁行3間（5.63m）で、主軸方位はN17°Eである。

#### **79号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行2間（3.66m）、桁行2間（4.87m）で、主軸方位はN88°Wである。

#### **80号掘立柱建物跡（第224図）**

梁行2間（3.89m）、桁行2間（5.32m）で、主軸方位はN3°Wである。

#### **81号掘立柱建物跡（第225図）**

梁行1間（3.41m）、桁行2間（4.10m）で、主軸方位はN24°Eである。

#### **82号掘立柱建物跡（第225図）**

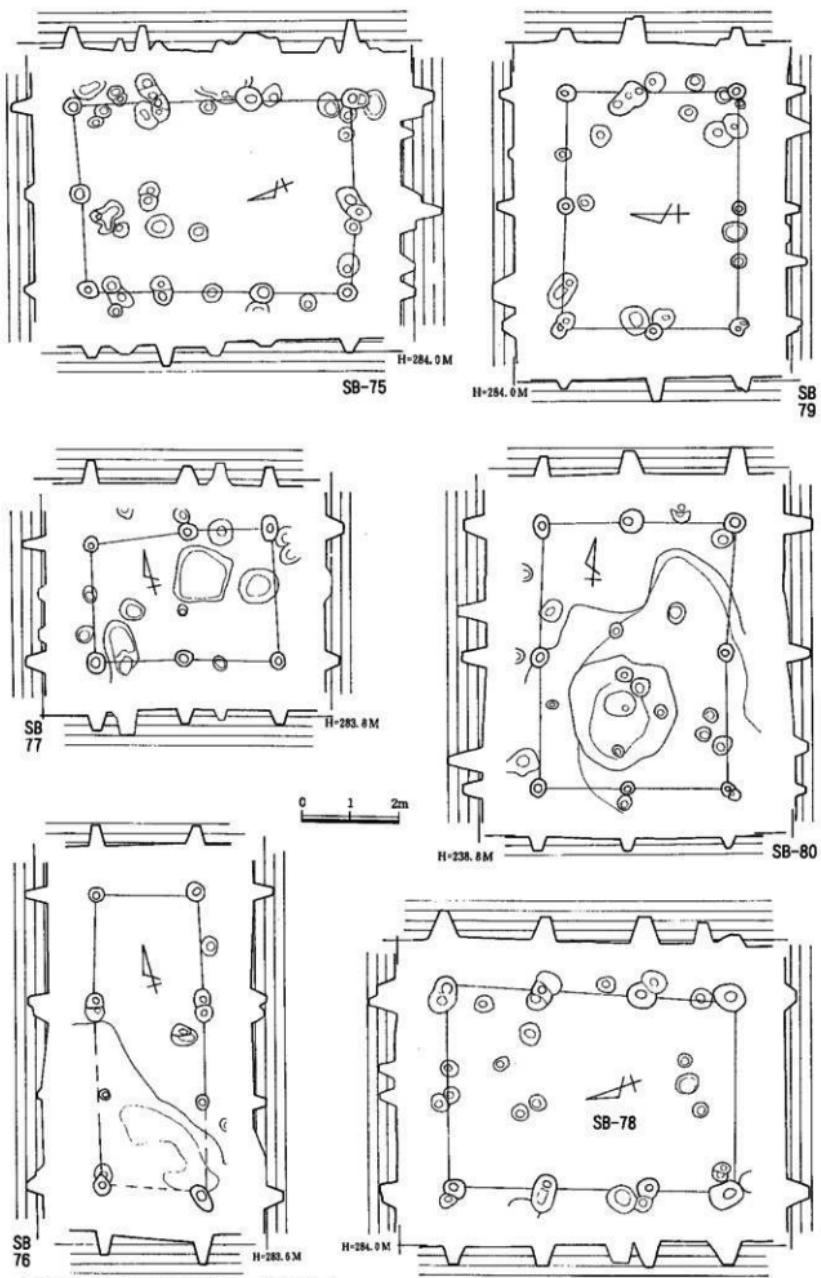
梁行2間（3.72m）、桁行3間（6.47m）で、主軸方位はN73°Wである。

#### **83号掘立柱建物跡（第225図）**

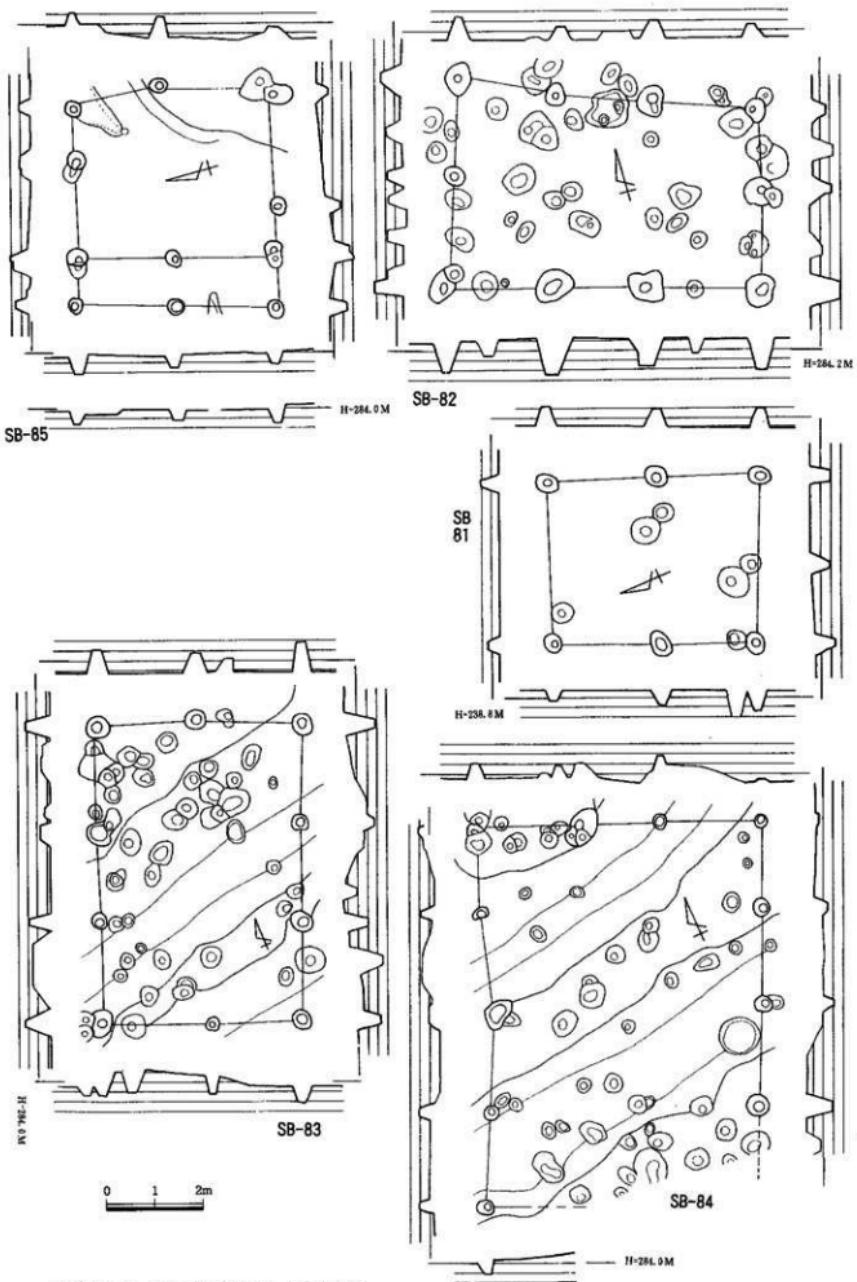
梁行2間（4.04m）、桁行3間（6.01m）で、主軸方位はN22°Eである。

#### **84号掘立柱建物跡（第225図）**

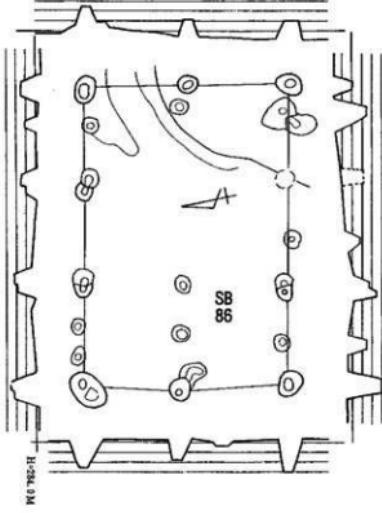
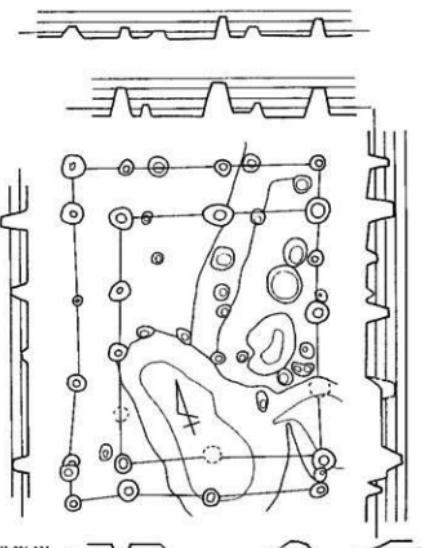
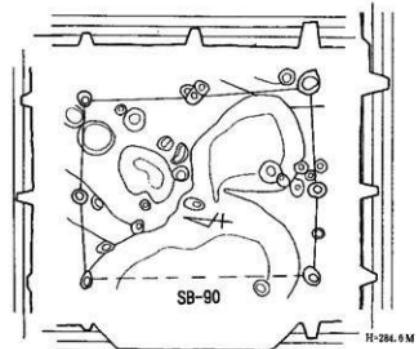
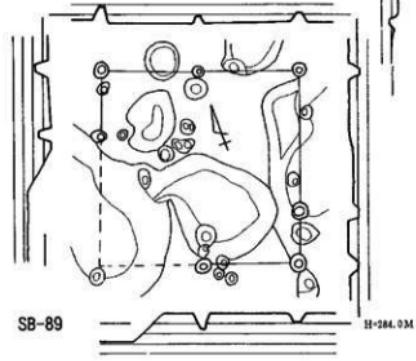
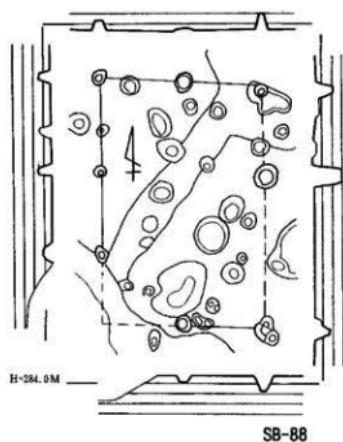
梁行3間（5.78m）、桁行4間（7.74m）と推定され、主軸方位はN22°Eである。



第224図 75~80号掘立柱建物跡 遺構実測図

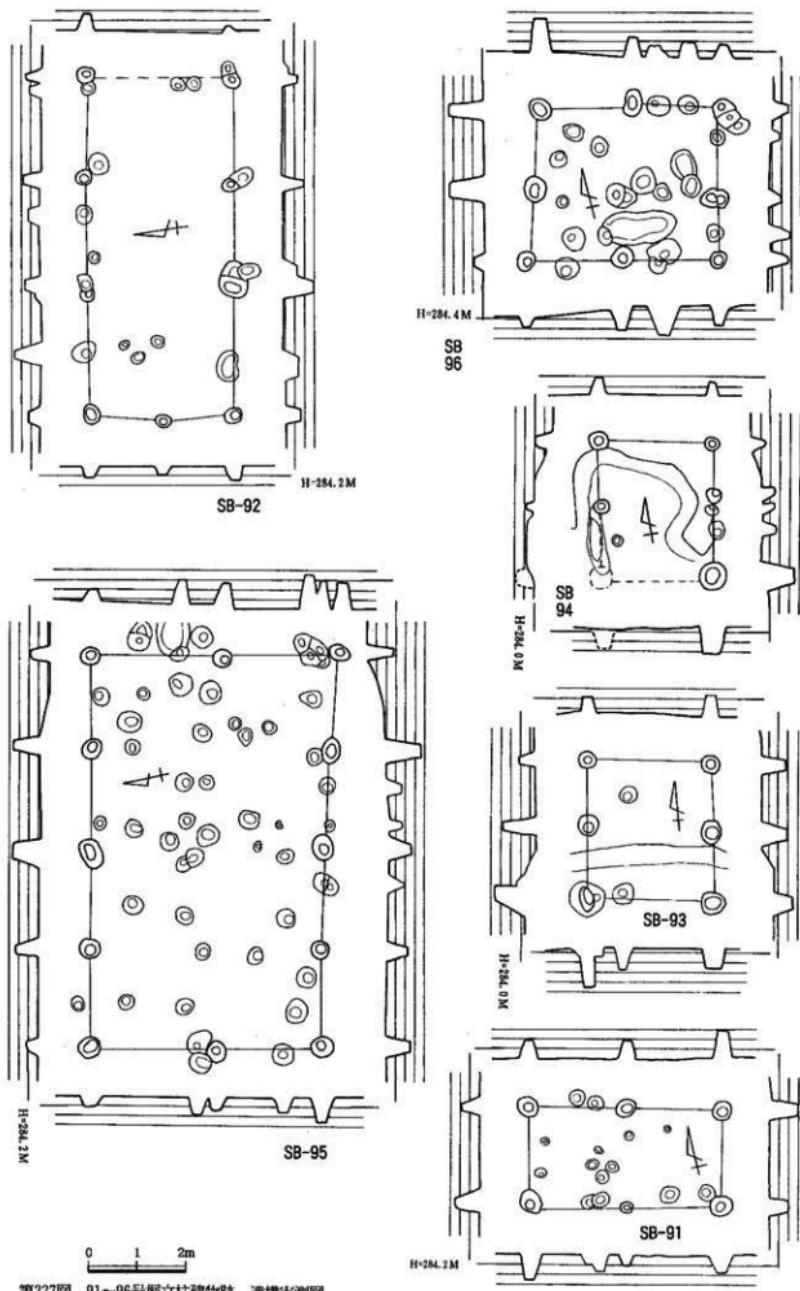


第225図 81~85号掘立柱建物跡 遺構実測図

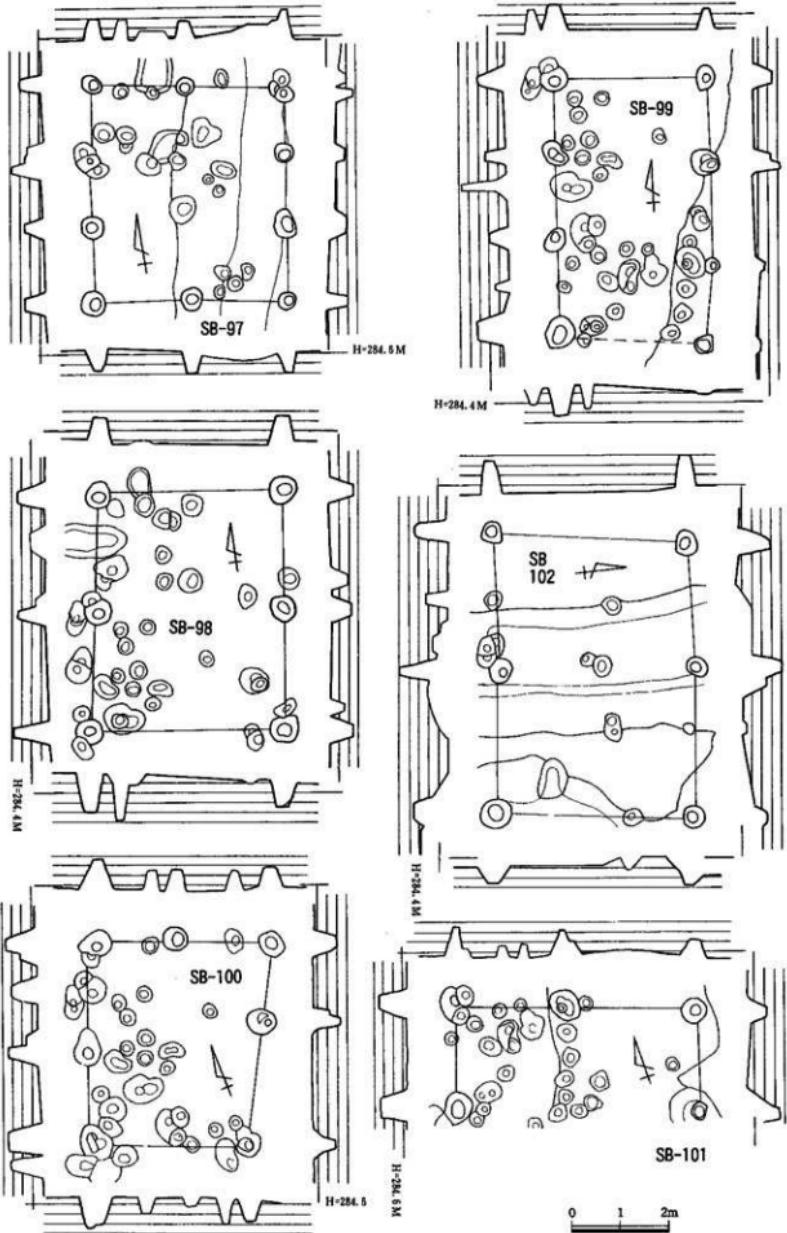


0 1 2m

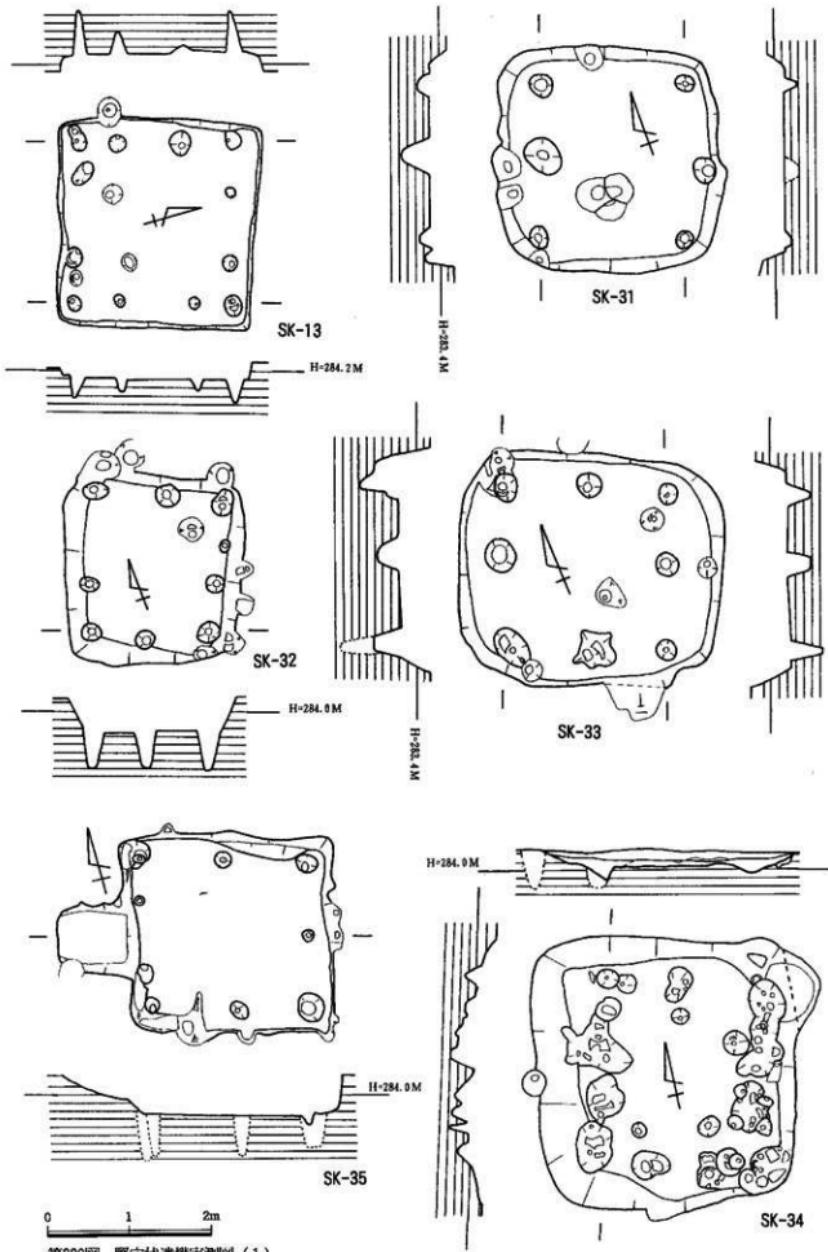
第226図 86～90号掘立柱建物跡 遺構実測図



第227图 91~96号圆柱形建筑物 遗构实测图



第228図 97~102号掘立柱建物跡 造構実測図



第229図 穹穴状構造実測図(1)

0 1 2m